

岸和田市

仕事と家庭生活を考える調査 報告書

平成 29 年3月

目 次

I 調査の実施概要	1
II 調査結果	2
1 回答者属性	3
2 就労状況について	11
3 職場環境について	32
4 仕事と家庭生活について	41
III 自由意見	57
IV 調査結果から見てくるもの	59
V 参考資料	62

I 調査の実施概要

1 調査の目的

本調査は、女性活躍推進法施行後の就労状況や職場環境、家庭生活などの実態を把握し、今後の施策推進のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査対象

本調査は 20 歳以上の市民 2,000 人を無作為に抽出し、実施しました。

3 調査期間

平成 28 年 11 月 1 日(火)から平成 28 年 12 月 28 日(水)

4 調査方法

郵送にて調査票を配布、返信用封筒にて回収、礼状兼督促はがきを送付しました。

5 回収状況

抽出数	実送付数	有効回答数	有効回答率
2,000	1,994	853	42.8%

※ 郵便返戻等の理由により、抽出数と実送付数との間に差が生じました。

6 調査主体

岸和田市市民生活部人権推進課

7 集計・分析

岸和田市市民生活部人権推進課

8 注意事項

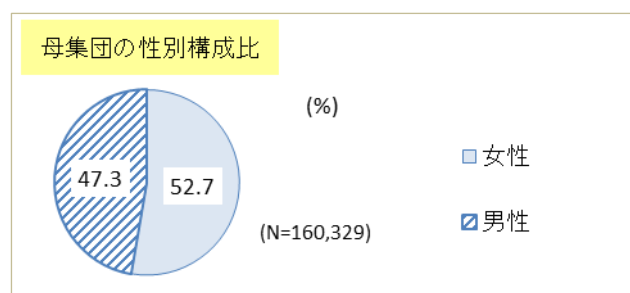
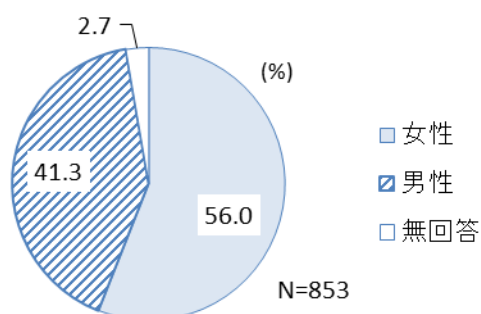
- (1) 結果は百分率で表示しています。百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%と一致しない場合があります。
- (2) 複数回答の百分率の合計は、100%を超えます。
- (3) 二重回答や判読不能の回答などは、無回答に含めています。
- (4) 「前回調査」は、平成 18 年に実施された調査を「女性と仕事を考える調査報告書」(平成 19 年3月)としてまとめたものを資料としており、前回の調査対象は、20 歳から 69 歳の女性です。

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

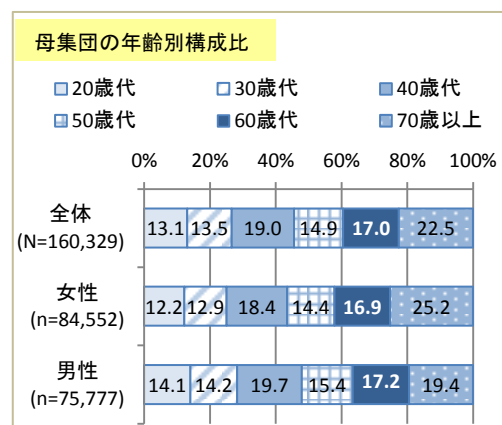
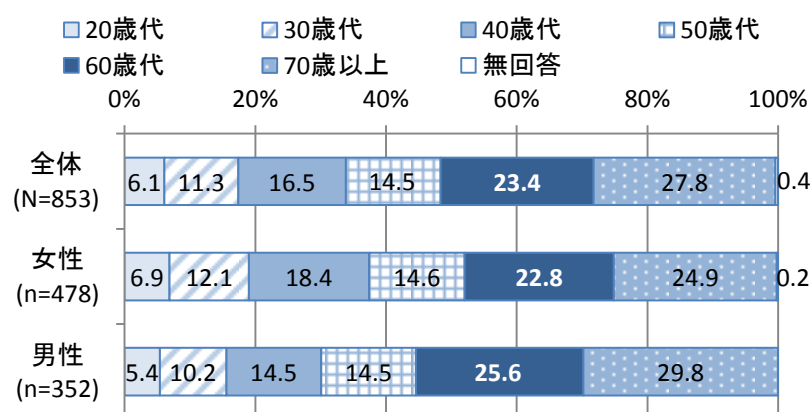
Q1:あなたの性別をご記入ください。

「女性」が56.0%、「男性」が41.3%と、女性の方が14.7ポイント高くなっています。



Q2:あなたの現在の年齢を教えてください。

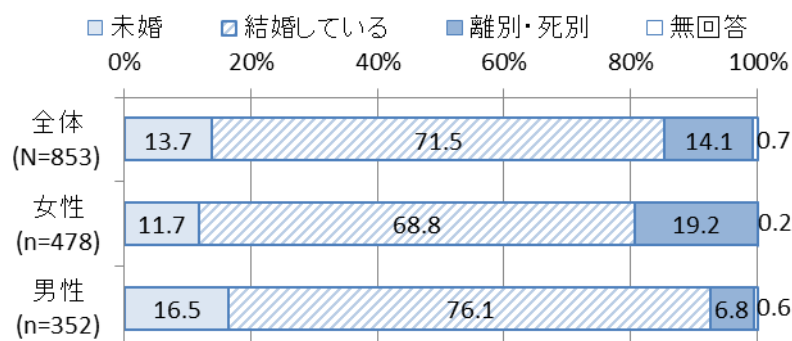
「70歳代以上」が27.8%と最も高く、次いで「60歳代」が23.4%と高くなっており、この二つの年代で5割以上となっています。



Q3:あなたは結婚していますか。(1つに○をつけてください)

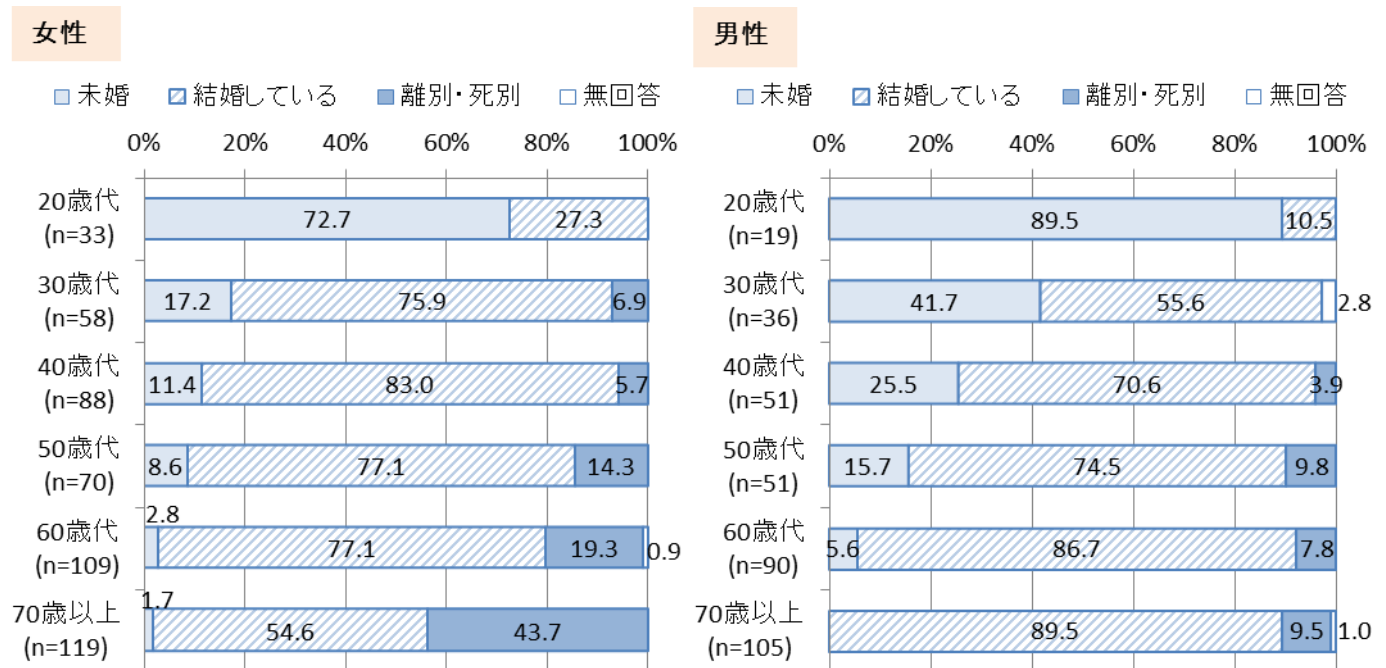
婚姻の有無(全体・性別)

全体では、「結婚している」が71.5%と最も高く、次いで「離婚・死別」が14.1%、「未婚」が13.7%となっています。女性では、男性より「離婚・死別」が高く、男性では、女性より「未婚」が高くなっています。



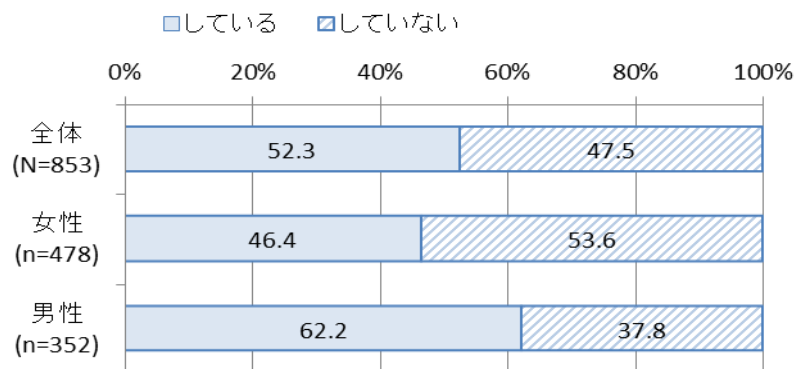
婚姻の有無(性・年代別)

男女とも 20 歳代では「未婚」の割合が高く、60 歳代以下で女性より男性の未婚率が高くなっています。女性では、70 歳以上で「離別・死別」が 43.7%と高くなっています。



Q4-1:あなたは、現在就労(パート・アルバイトを含む。ただし、学生のパート・アルバイトはのぞく)していますか。(1つに○をつけてください)

就労の有無(全体・性別)

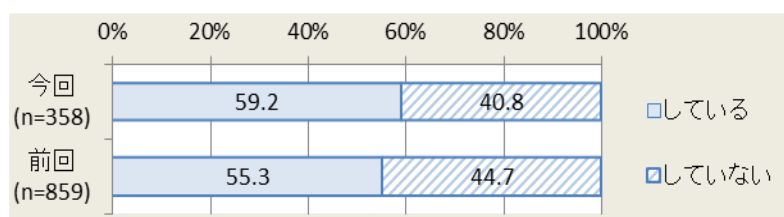


全体では、「している」が 52.3%、「していない」が 47.5%となっています。

性別では、女性より男性のほうが、「している」が 15.8 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「している」が 3.9 ポイント高くなっています。

前回調査(平成 18 年)との比較 ※対象:20 歳~69 歳の女性

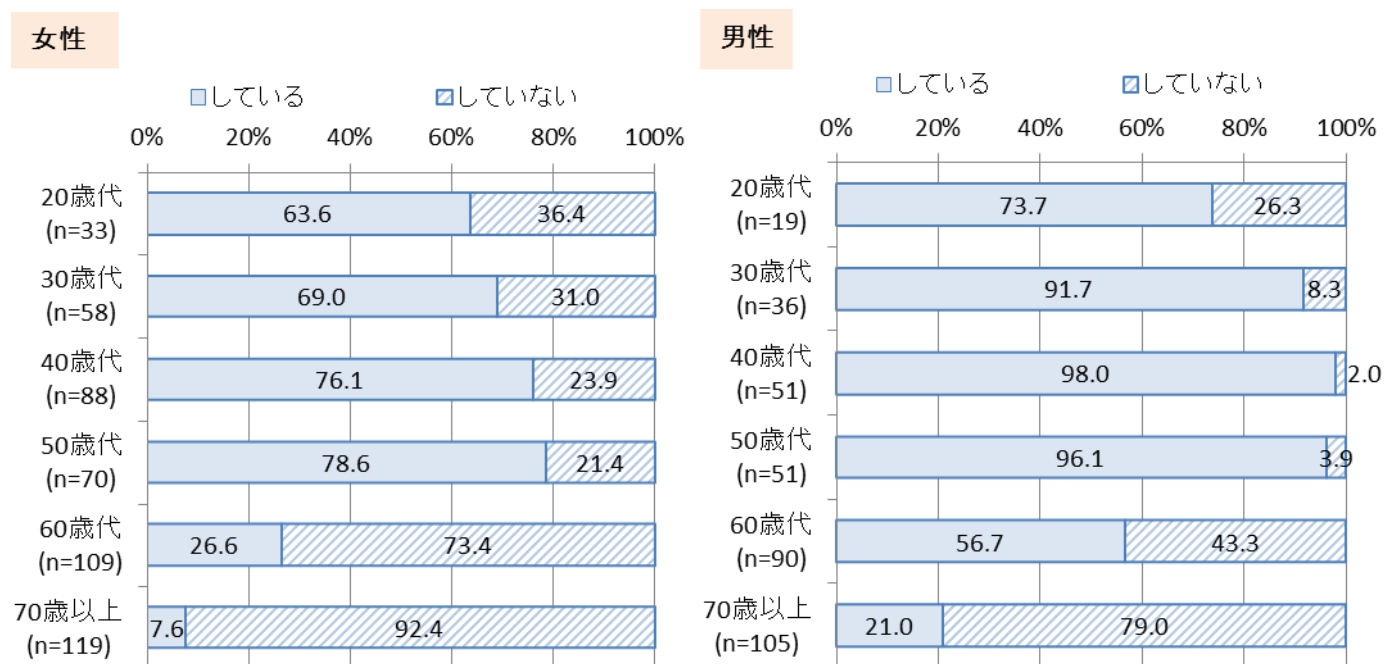


就労の有無(性・年代別)

すべての年代で女性より男性の就労率が高くなっています。

女性では、50 歳代で「している」が 78.6%と最も高くなり、次いで 40 歳代が 76.1%となっています。

男性では、40 歳代で「している」が 98.0%で最も高くなり、30 歳代と 50 歳代でも9割と高くなっています。



Q4-2: Q4-1で①に○をつけた方におうかがいします

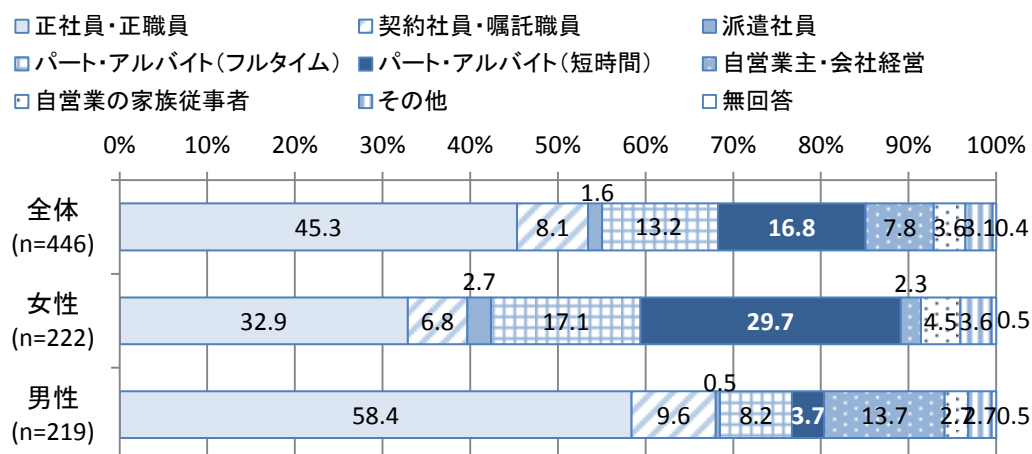
どのような雇用形態で働いていますか。(1つに○をつけてください)

雇用形態について(全体・性別)

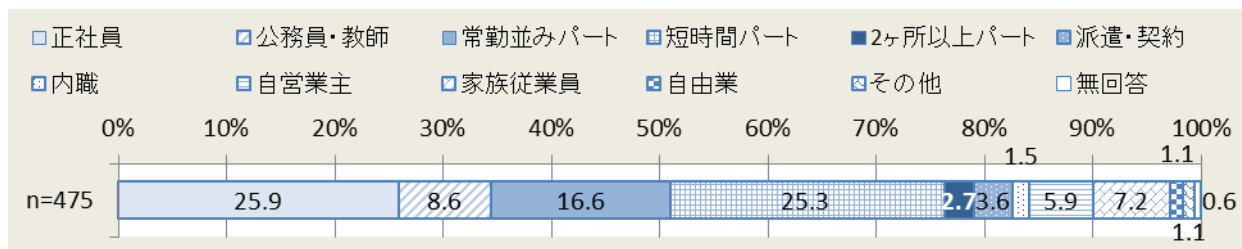
全体では、「正社員・正職員」が 45.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト(短時間)」が 16.8%となっています。性別でみると、女性では、「正社員・正職員」が 32.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト(短時間)」が 29.7%となっています。男性では「正社員・正職員」が 58.4%と最も高く、次いで「自営業主・会社経営」が 13.7%となっています。「正社員・正職員」の割合が、女性の約3割に対して男性は約6割、非正規雇用(※)の割合が、女性の約6割に対して男性では約2割と、性別による差が大きくなっています。

前回調査をみると、今回調査の方が、非正規雇用の割合が高くなっています。

※非正規雇用・・・「契約社員・嘱託職員」、「派遣社員」、「パート・アルバイト(フルタイム)」、「パート・アルバイト(短時間)」の合計(以下「非正規雇用」という。)



前回調査(平成 18 年) ※対象:20 歳～69 歳の女性

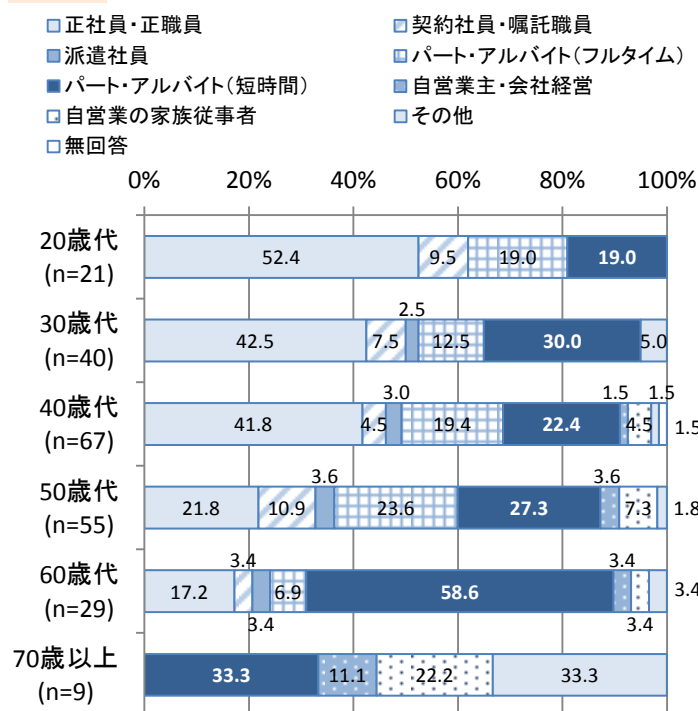


※今回(平成 28 年度)調査と選択肢が異なる。

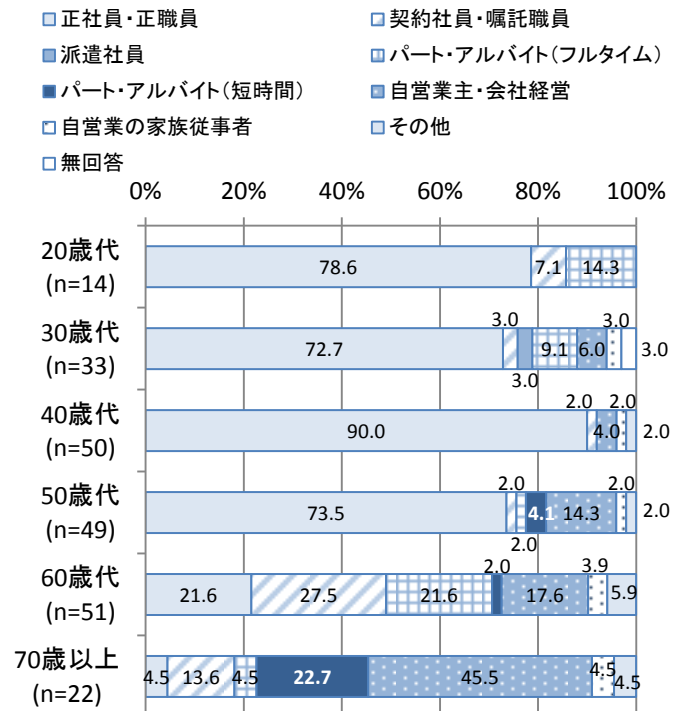
雇用形態について(性・年代別)

女性では、「正社員・正職員」の割合が年代が上がるにつれて減少するのに対し、非正規雇用の割合は 20 歳代から 60 歳代にかけて増加する傾向にあります。男性では、「正社員・正職員」の割合が 20 歳代から 50 歳代まで最も高く、「自営業主・会社経営」の割合が 30 歳代から 70 歳代にかけて増加する傾向にあります。

女性



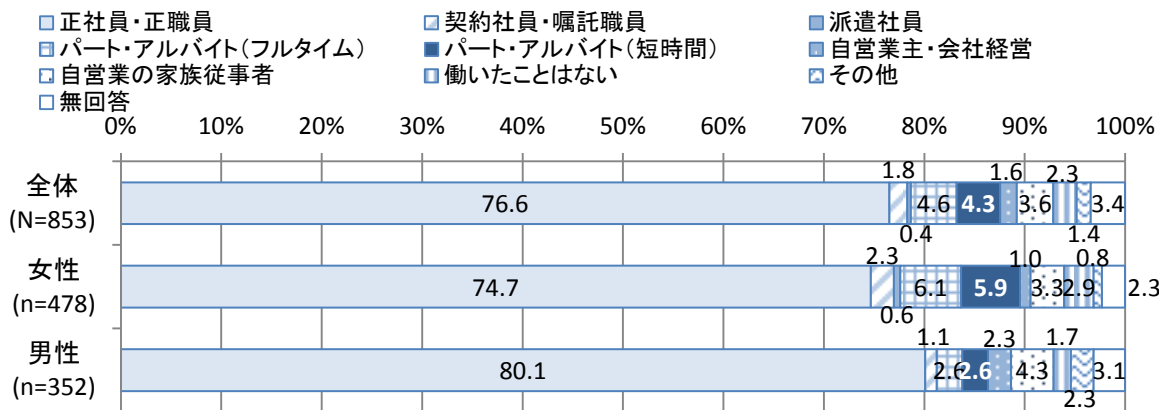
男性



Q5: 初めて就職された時の雇用形態(学生時代のアルバイト等はのぞく)を教えてください。(1つに○をつけてください)

初職の雇用形態について(全体・性別)

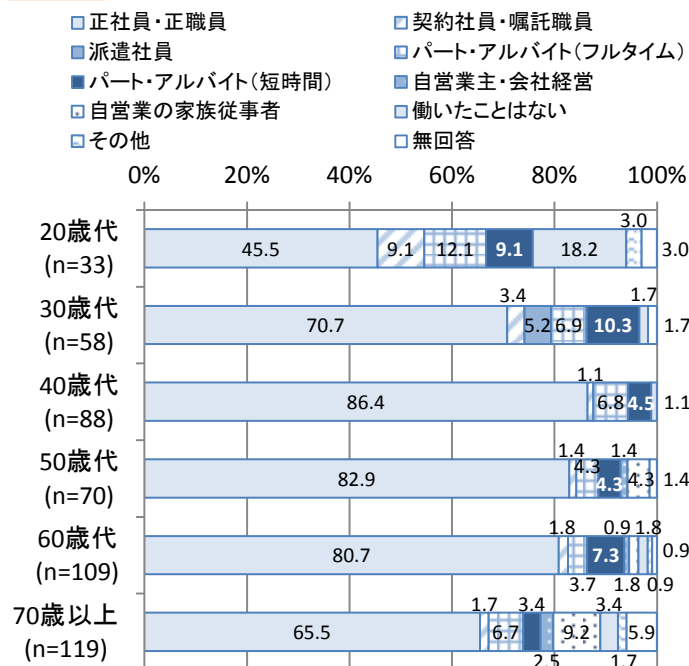
全体では、「正社員・正職員」が 76.6%と最も高くなっています。性別でみると、「正社員・正職員」の割合が、女性で 74.7%、男性で 80.1%とそれぞれ最も高くなっています。



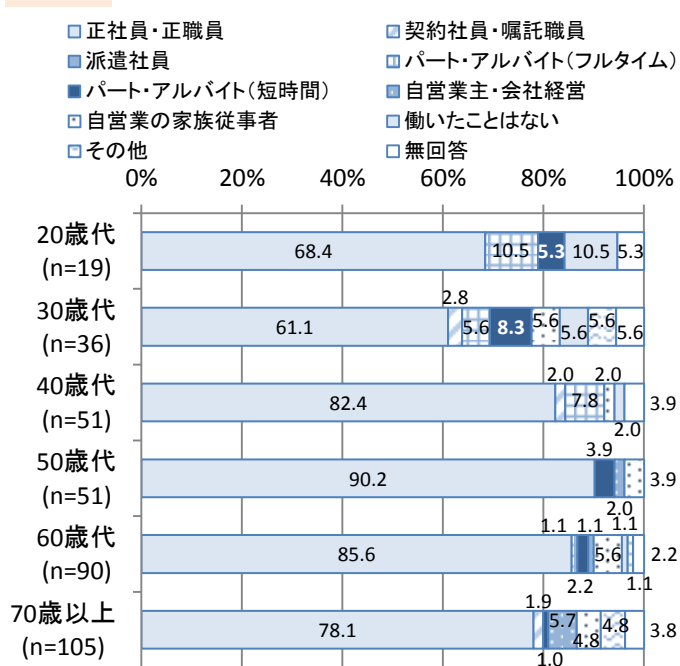
初職の雇用形態について(性・年代別)

男女ともすべての年代で、「正社員・正職員」の割合が最も高くなっています。30 歳代の「正社員・正職員」で、男性が女性より、9.6 ポイント低くなっているのが特徴です。また女性では、20 歳代で非正規雇用が 30.3%、30 歳代で非正規雇用が 25.8%となっています。一方男性では、20 歳代で非正規雇用が 15.8%、30 歳代で非正規雇用が 16.7%となっています。男女とも、20 歳代、30 歳代の若年層で非正規雇用の割合が高くなっています。

女性

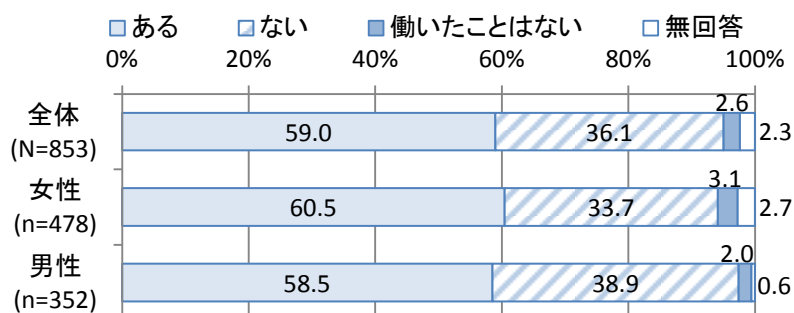


男性



Q6:あなたは、転職したことがありますか。(1つに○をつけてください)

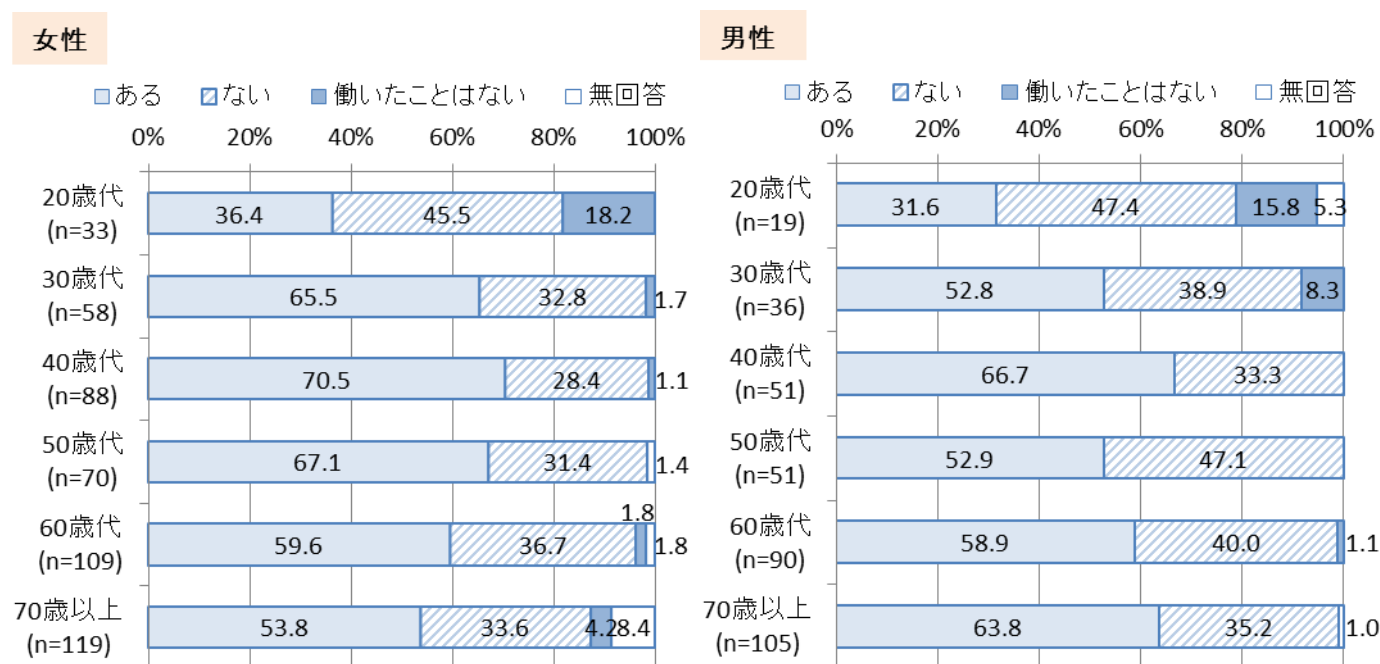
転職経験の有無について(全体・性別)



全体では、「ある」が 59.0%となっていて、女性では 60.5%、男性では 58.5%とほぼ同じです。

転職経験の有無について(性・年代別)

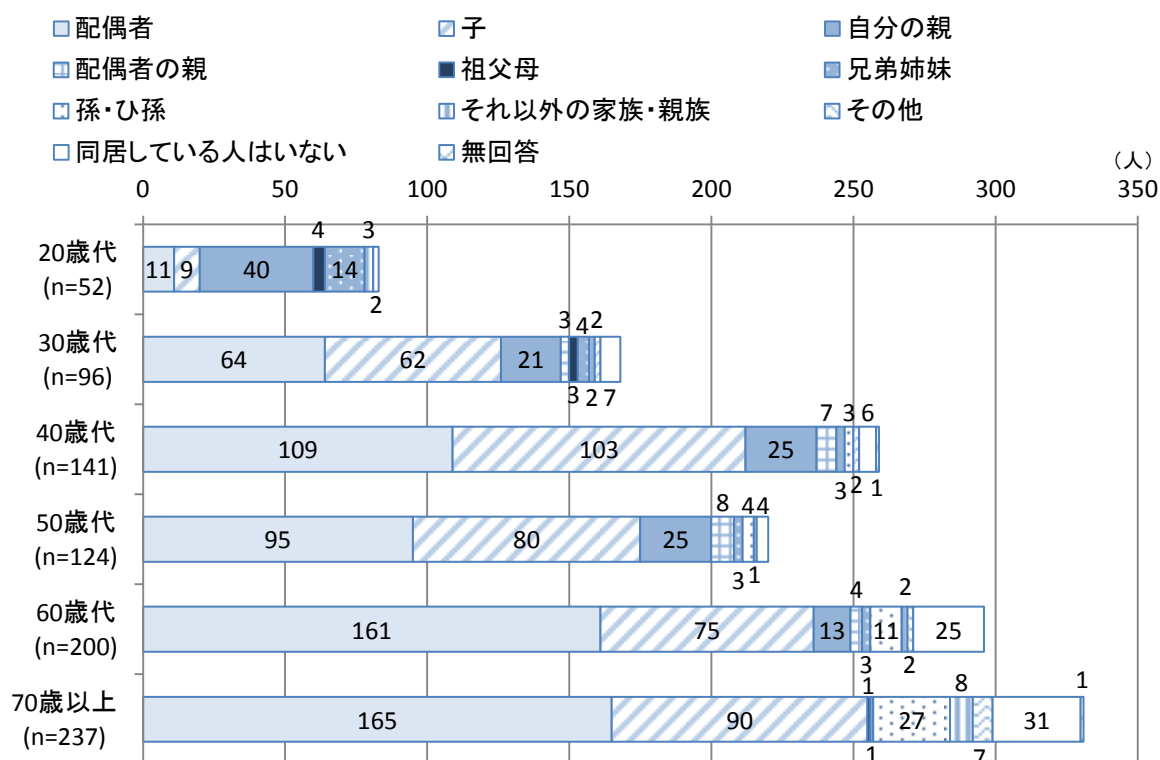
「ある」が一番高いのは、女性では40歳代、男性でも40歳代となっています。



Q7-1：現在、あなたと同居されている方はどなたですか。(当てはまるものすべてに○をつけてください)

同居家族について(全体)

20歳代では、「自分の親」と同居している割合が高くなっています。30歳代から70歳代までは、「配偶者」と同居している割合が最も高く、次いで「子」が高くなっています。

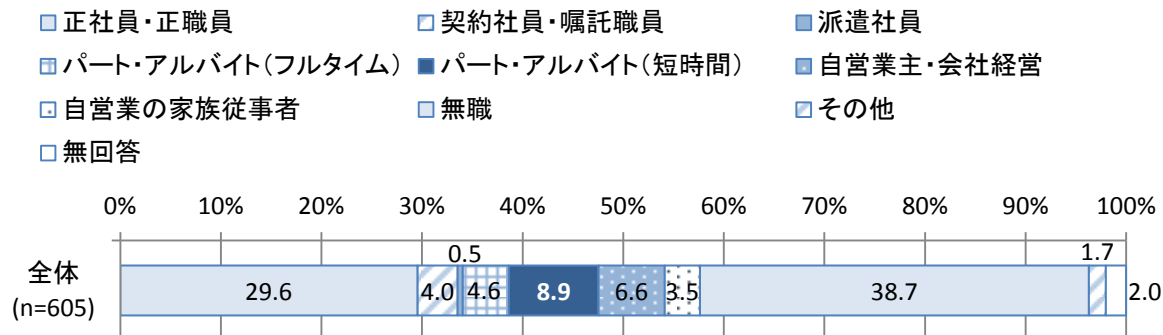


Q7-2: Q7-1で ① に○をつけた方におうかがいします

配偶者(妻あるいは夫)の就業状況を教えてください。(1 つに○をつけてください)

配偶者の就業状況について(全体)

「無職」が 38.7%と最も高くなっており、次いで「正社員・正職員」が 29.6%となっています。

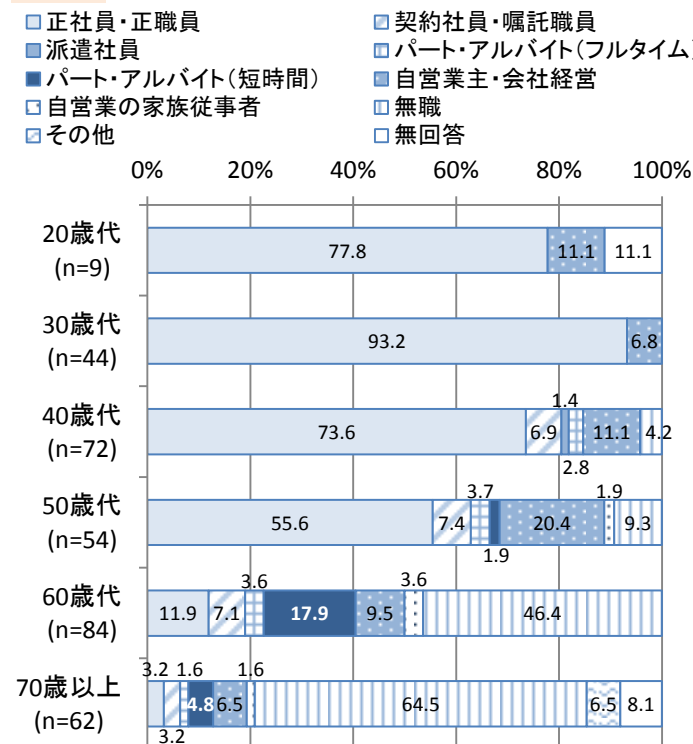


配偶者の就業状況について(性・年代別)

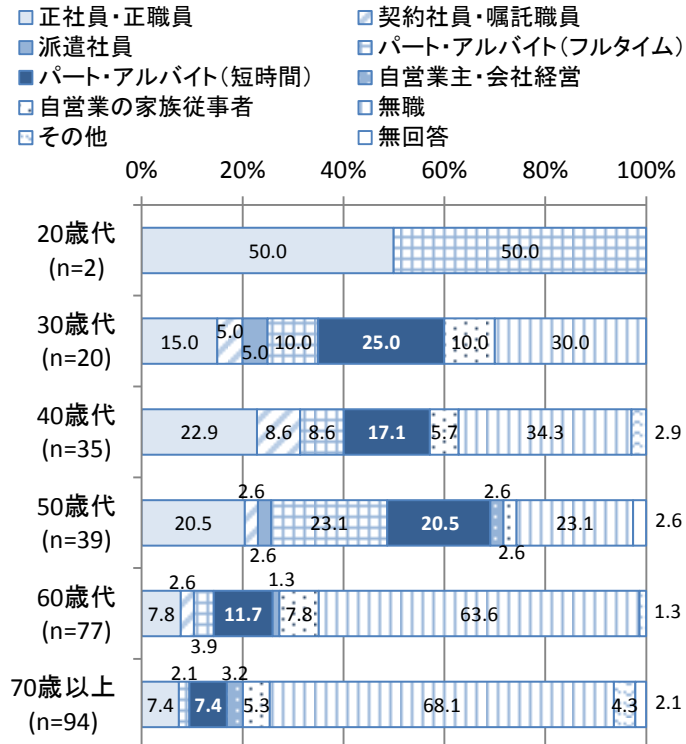
女性では、20 歳代から 50 歳代まで「正社員・正職員」の割合が最も高くなっています。男性では、「無職」が 30 歳代以降で最も高くなっており、30 歳代では非正規雇用の割合が 45.0%、40 歳代では非正規雇用の割合が 34.3%、50 歳代では非正規雇用の割合が 48.8%となっています。

※男性の 20 歳代については、有効回答数が少ないため参考とする。

女性



男性

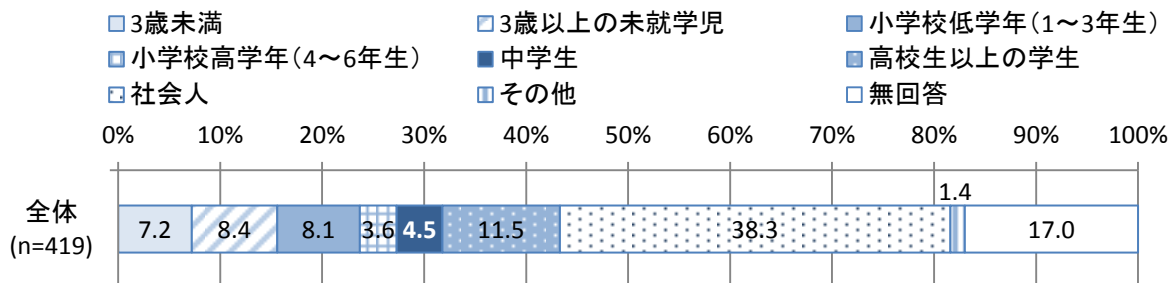


Q7-3: Q7-1で②に○をつけた方におうかがいします

最も年齢の低いお子さんの状況についてお答えください。

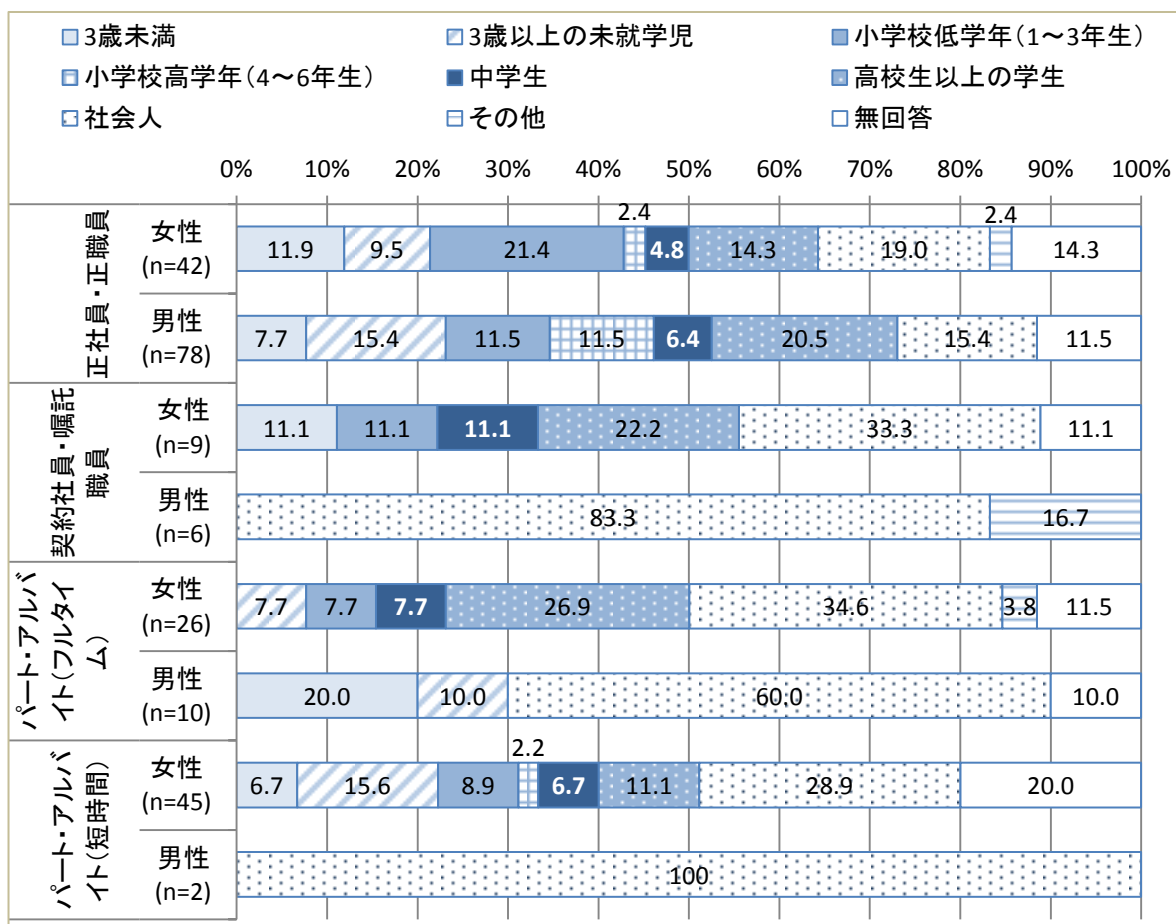
お子さんの状況について(全体)

「社会人」が 38.3%で最も高く、次いで「無回答」が 17.0%、「高校生以上の学生」が 11.5%となっています。未就学児（「3歳未満」、「3歳以上の未就学児」の合計）の割合は、15.6%となっています。



お子さんの状況について(雇用形態別)

小学校低学年(1～3年生)までのお子さんがいる子育て世代の割合は、正社員・正職員の女性で 42.8%、正社員・正職員の男性で 34.6%、パート・アルバイト(短時間)の女性で 31.2%となっています。非正規雇用の女性には、子育て中の方と子育てが終わった方がいて、正社員・正職員の男女より社会人の割合が高くなっています。



※「契約社員・嘱託職員」については、有効回答数が少ないため参考とする。

2 就労状況について

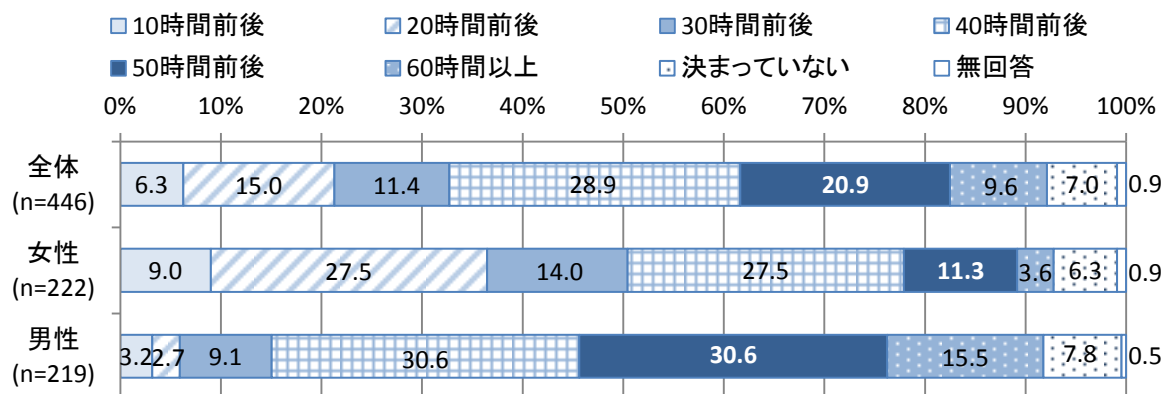
(1) 現在、就労している方への質問

Q8:あなたは1週間で、およそ何時間(残業時間も含みます)くらい働いていますか。(1つに○をつけてください)

1週間の就労時間(全体・性別)

女性では、「20 時間前後」と「40 時間前後」が最も高く、男性では、「40 時間前後」と「50 時間前後」が最も高い

全体では、「40 時間前後」が 28.9%と最も高く、次いで「50 時間前後」が 20.9%、「20 時間前後」が 15.0%となっています。「40 時間前後」(法定労働時間、一部規模・業種は除く)を超える割合は、女性では 14.9%、男性では 46.1%となっています。特に男性では、「60 時間以上」の長時間労働者は 15.5%となっています。

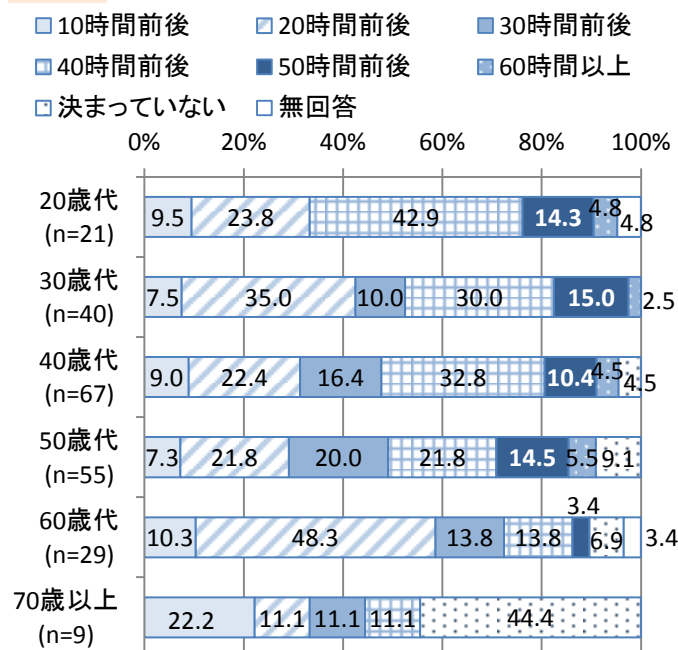


1週間の就労時間(性・年代別)

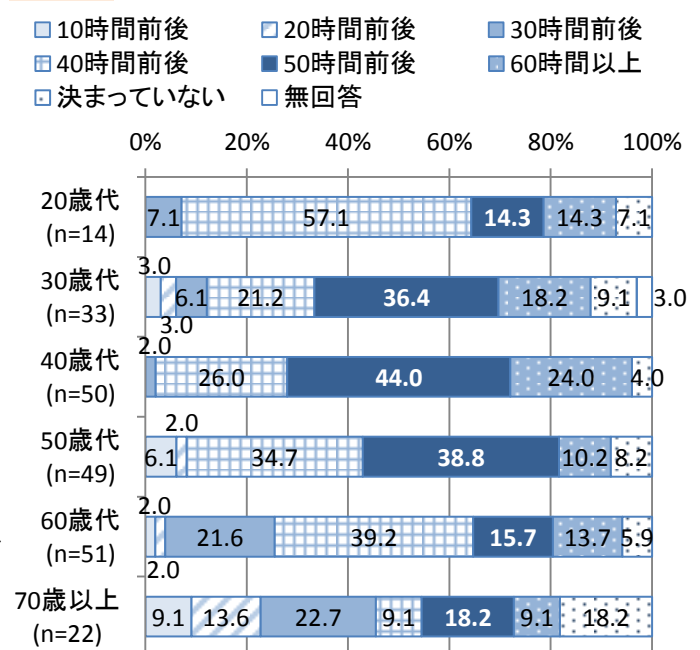
すべての年代で女性より男性のほうが長時間労働である

女性では、20 歳代と 40 歳代で「40 時間前後」が最も高く、30 歳代と 60 歳代で「20 時間前後」が最も高くなっています。男性では、30 歳代から 50 歳代まで「50 時間前後」が最も高く、20 歳代と 60 歳代では、「40 時間前後」が最も高くなっています。特に「60 時間以上」の長時間労働が 40 歳代の 24.0%をピークに、30 歳代 18.2%、20 歳代 14.3%となっています。

女性



男性

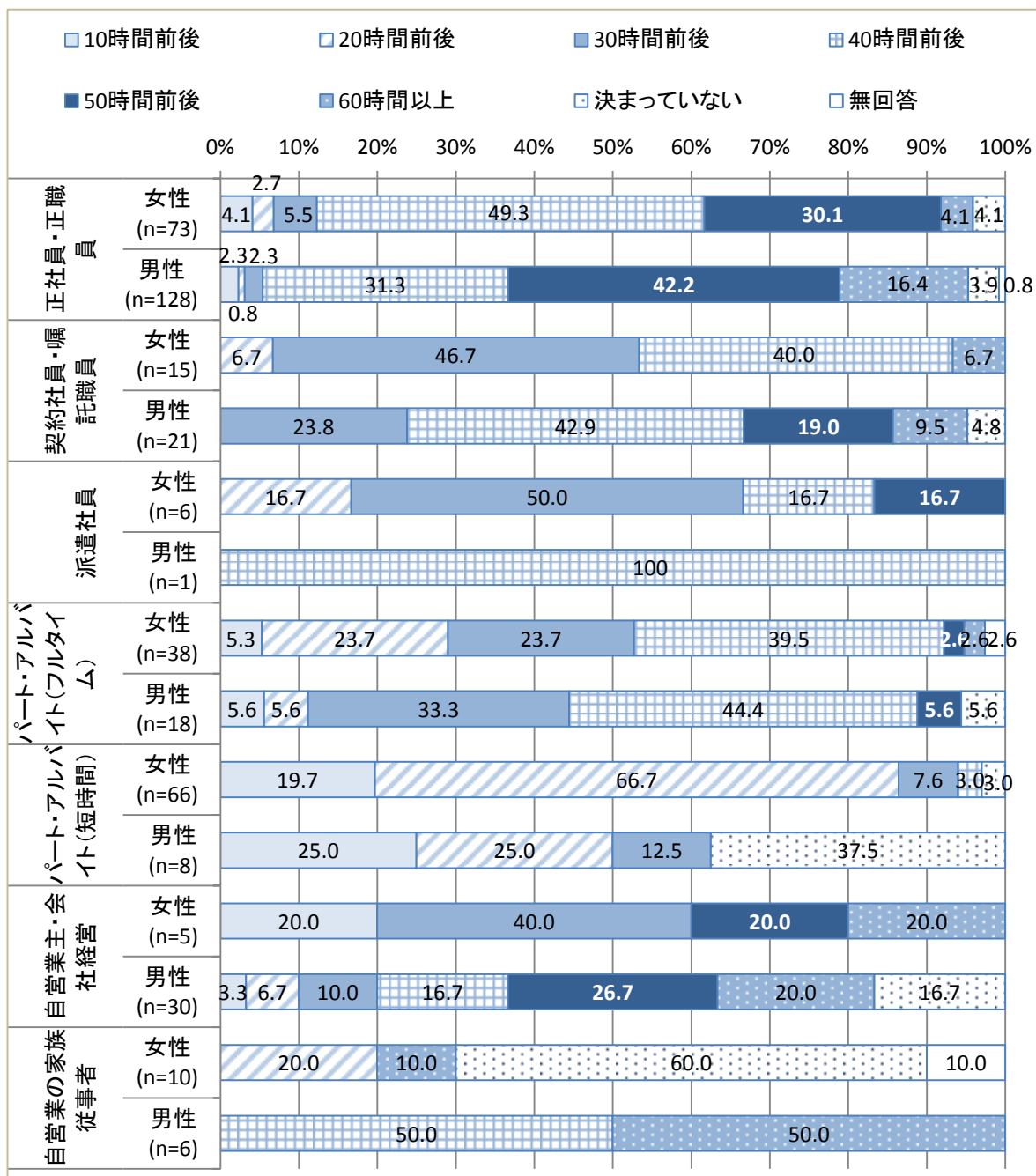


1週間の就労時間(雇用形態別)

正社員では「40 時間前後」以上が大半を占めている

「正社員・正職員」で「40 時間前後」以上の割合が女性で 83.5%、男性で 89.9%と、男女ともに大半を占めています。
「自営業主・会社経営」と「自営業の家族従事者」では、同じ雇用形態でも、男女の就労時間の差が大きくなっています。

※派遣社員については、有効回答数が少ないため参考とする。

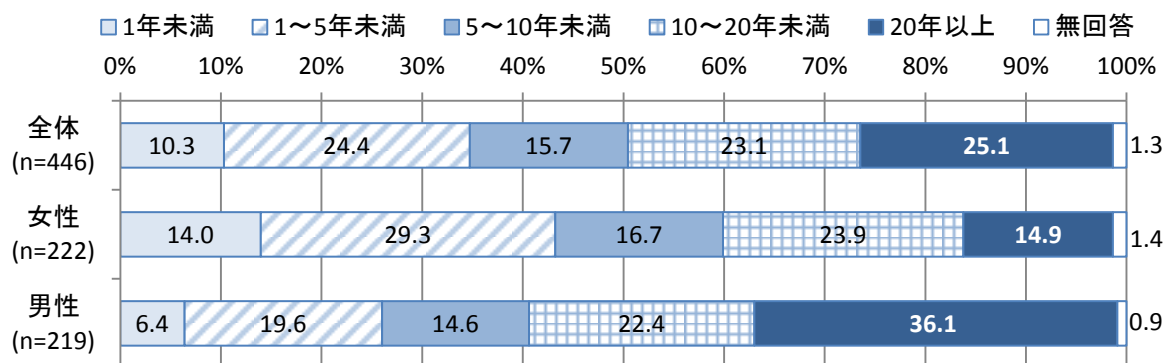


Q9: 現在の職場での勤続年数はどれくらいですか。(1つに○をつけてください)

勤続年数(全体・性別)

女性は「5年未満」が 43.3%、男性は「20 年以上」が 36.1%

全体でみると、「20 年以上」が 25.1%と最も高く、次いで、「1～5 年未満」が 24.4%、「10～20 年未満」が 23.1%となっています。性別でみると、女性では、「1～5 年未満」が 29.3%と最も高く、次いで「10～20 年未満」が 23.9%、「5～10 年未満」が 16.7%となっています。男性では、「20 年以上」が 36.1%と最も高く、次いで「10～20 年未満」が 22.4%、「1～5 年未満」が 19.6%となっています。

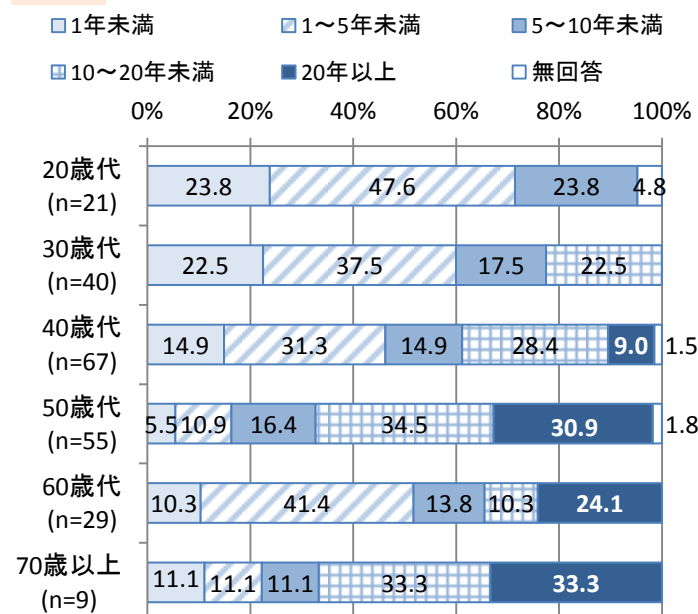


勤続年数(性・年代別)

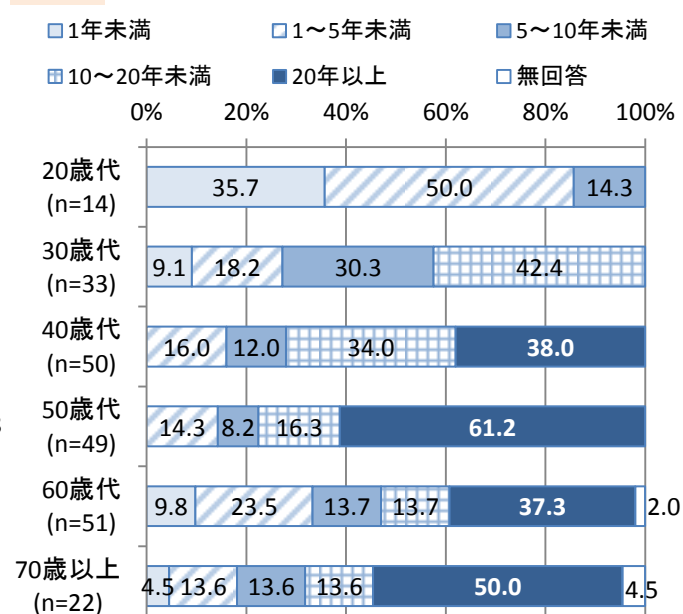
女性より男性のほうが、勤続年数が長い

性・年代別でみると、女性では、20歳代から40歳代と60歳代で「1～5年未満」が最も高くなっています。また50歳代と70歳代では、「10～20年未満」と「20年以上」の割合が高くなっています。男性では、20歳代で「1年未満」が35.7%と同じ年代の女性より高くなっています。また50歳代で「20年以上」が61.2%と高い割合になっています。

女性



男性



Q10: 昨年のあなたの年収(総支給額)は、どのくらいでしたか。(1つに○をつけてください)

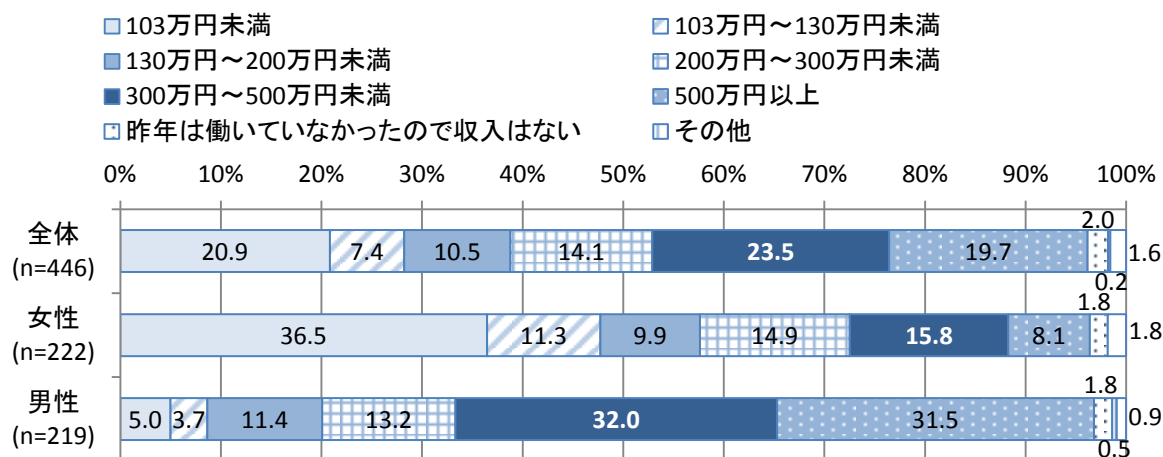
昨年の年収(全体・性別)

女性では「300万円未満」が約7割超、男性では「500万円以上」が31.5%

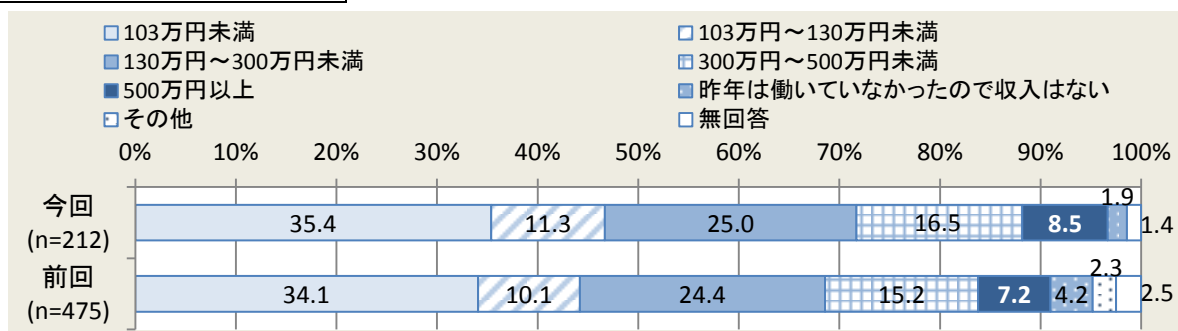
全体でみると、「300万円～500万円未満」が23.5%と最も高くなっています。次いで「103万円未満」(※)が20.9%となっています。性別でみると、女性では「103万円未満」が36.5%と最も高くなっており、「200万円未満」が約6割を占めています。それに対して、男性では、「300万円～500万円未満」と「500万円以上」をあわせると6割以上となっています。

※103万円未満・・・配偶者控除があり、所得税のかからない範囲の年収

前回調査と比較すると、あまり変化は見られませんでした。



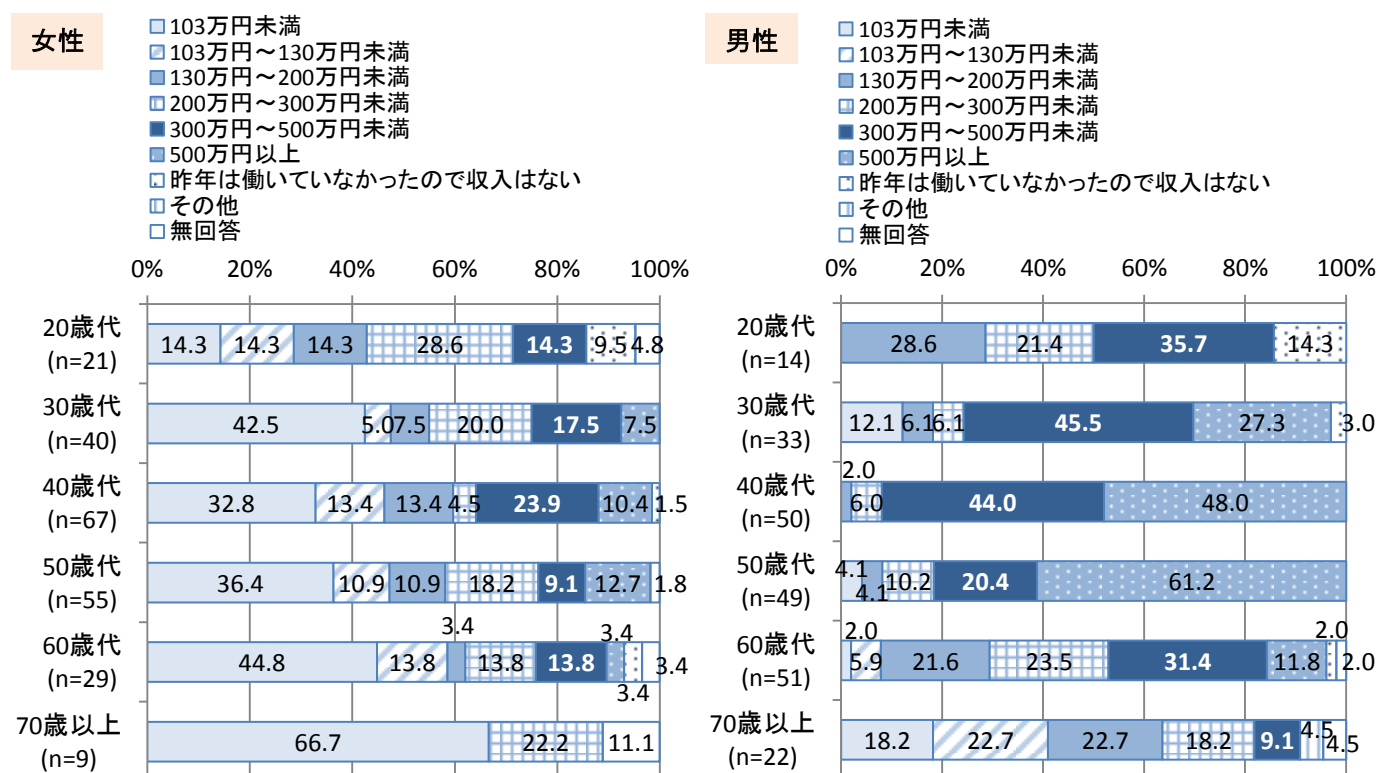
前回調査(平成 18 年)との比較 ※対象:20 歳～69 歳の女性



昨年の年収(性・年代別)

女性では「103 万円未満」の割合が 30 歳代以降は高くなる

性・年代別でみると、女性では「103 万円未満」の割合が、30 歳代以降は高くなります。男性では、30 歳代では、「300 万円～500 万円未満」が 45.5%、40 歳代と 50 歳代では、「500 万円以上」がそれぞれ 48.0%、61.2%と最も高くなっており、30 歳代から 50 歳代までは、年代が上がるほど「500 万円以上」の割合が高くなります。

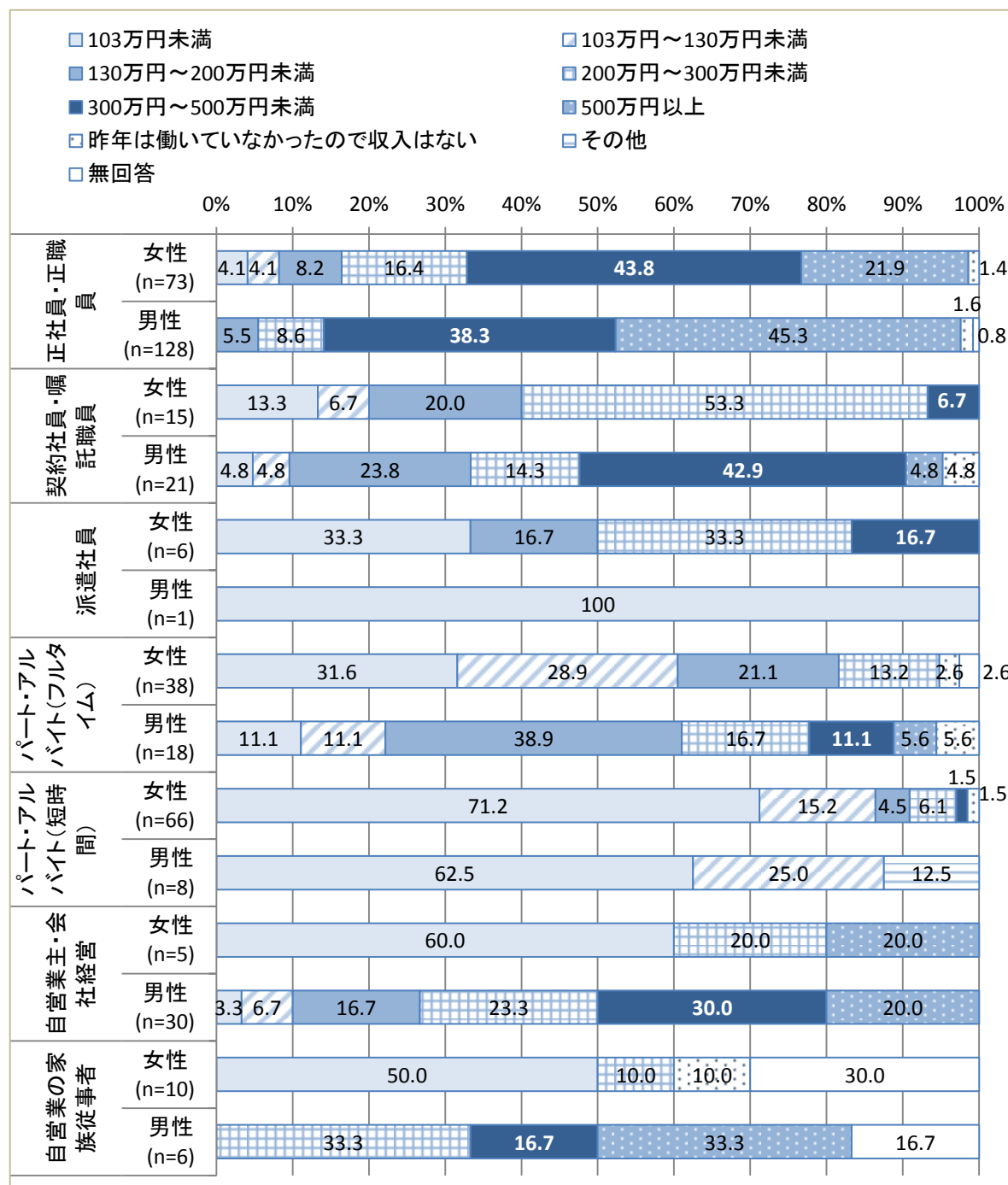


昨年の年収(雇用形態別)

同じ雇用形態でも、女性より男性の方が年収が高い傾向にある

「正社員・正職員」で「500 万円以上」では、女性で 21.9%、男性で 45.3%と 23.4 ポイントの差があります。「パート・アルバイト(フルタイム)」、「自営業主・会社経営」と「自営業の家族従事者」では女性と男性の年収の差が大きい傾向があります。

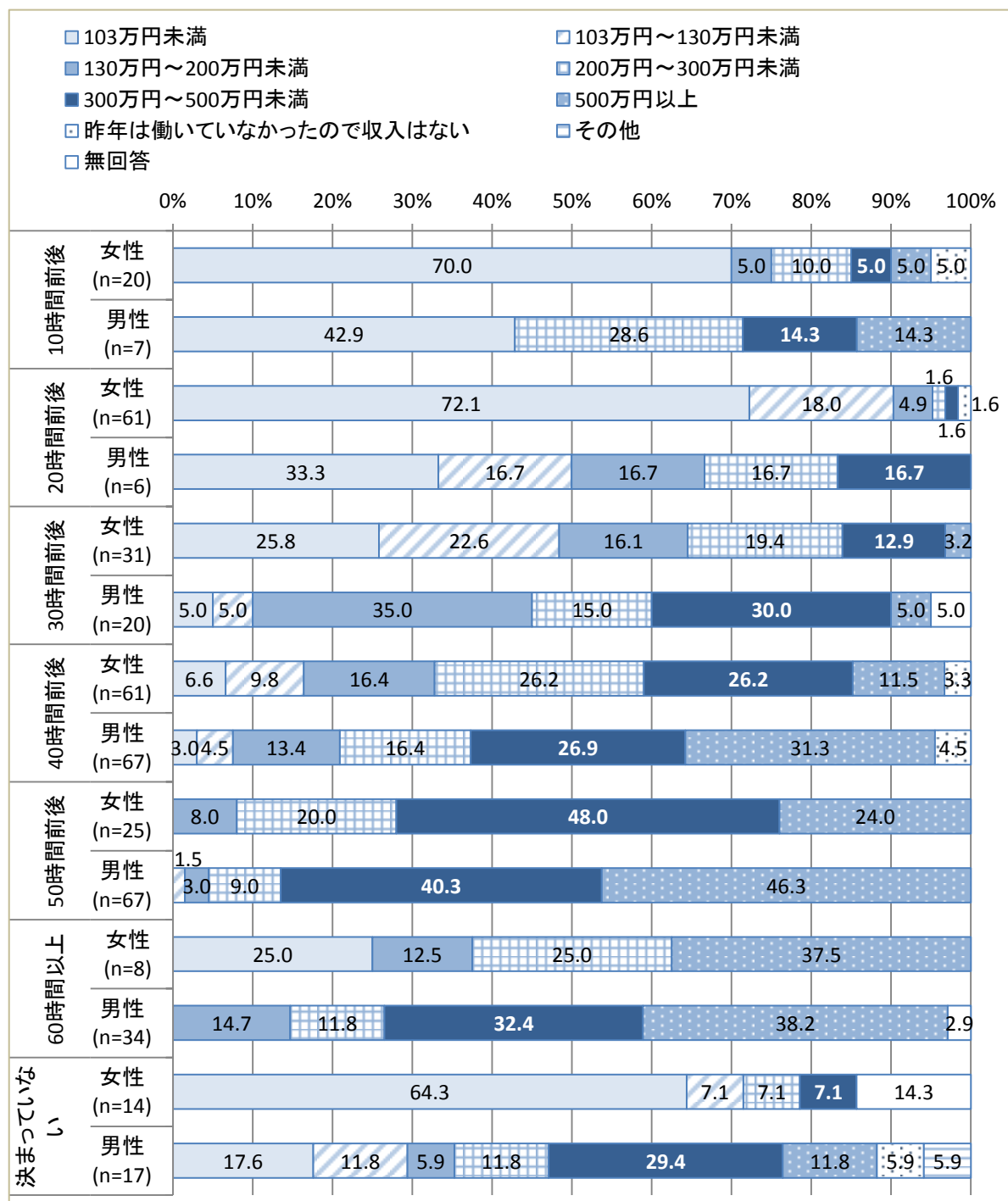
※「派遣社員」については、有効回答数が少ないため参考とする。



昨年の年収(1週間の労働時間別)

同じ労働時間でも、女性より男性の方が年収が高い傾向にある

「10 時間前後」と「20 時間前後」の女性でみると、「103 万円未満」がそれぞれ 70.0%と 72.1%と圧倒的に高くなっています。「40 時間前後」でみると、「500 万円以上」の女性は 11.5%に対し、男性は 31.3%と3倍近い差があります。「60 時間以上」でみると、長時間労働にもかかわらず、男女とも「50 時間前後」よりも年収が低い傾向になっているのは、「自営業主・会社経営」や「自営業の家族従事者」が含まれているためと考えられます。



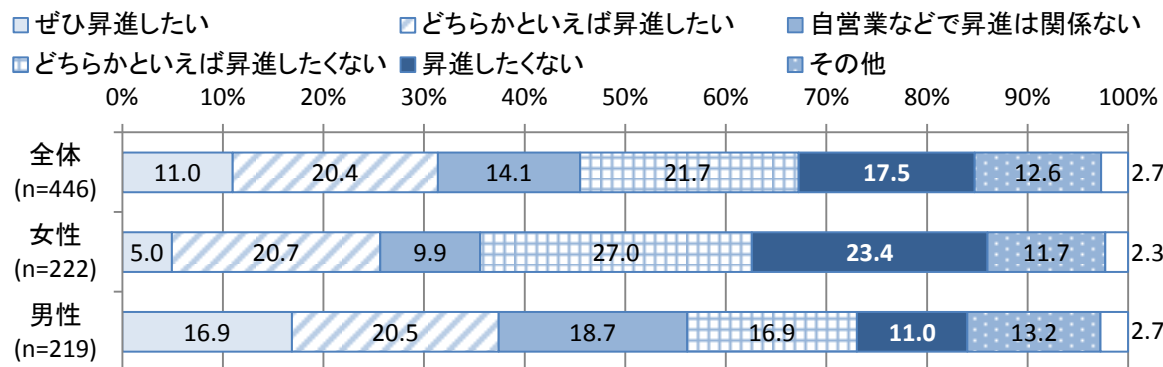
Q11-1:あなたは、昇進を希望しますか。(1つに○をつけてください)

昇進の希望(全体・性別)

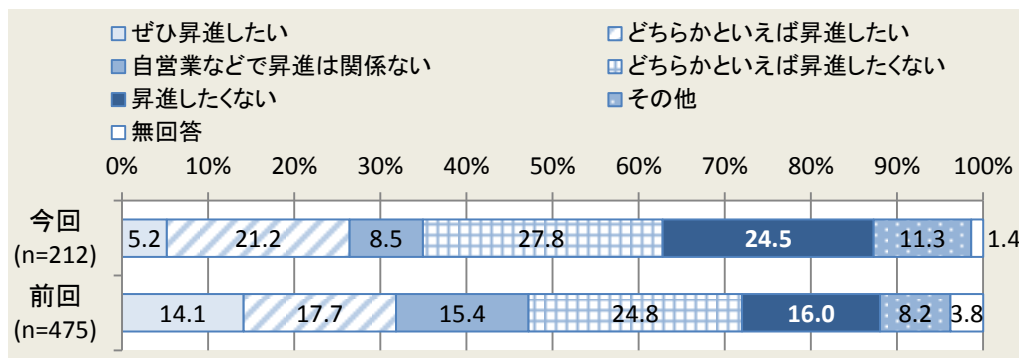
女性より男性のほうが昇進を希望する割合が高い

全体では、「昇進したくない」(「昇進したくない」17.5%と「どちらかといえば昇進したくない」21.7%の合計)が39.2%、「昇進したい」(「ぜひ昇進したい」11.0%と「どちらかといえば昇進したい」20.4%の合計)が31.4%で、「昇進したくない」人の割合が高くなっています。性別では、女性では「昇進したい」に比べると「昇進したくない」割合のほうが高く、男性では「昇進したくない」に比べると「昇進したい」割合のほうが高くなっています。

前回調査と比較すると、「昇進したい」割合が低くなり、「昇進したくない」割合が高くなっています。



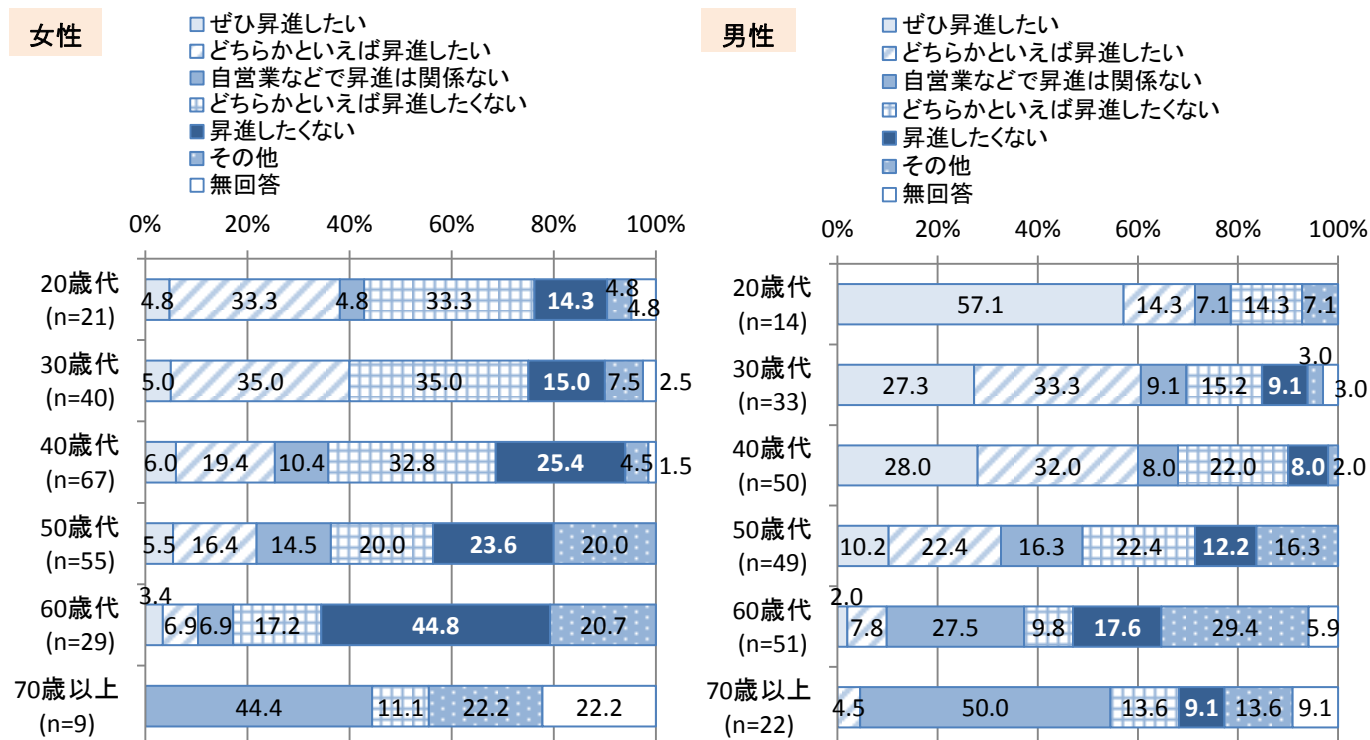
前回調査(平成 18 年)との比較 ※対象:20 歳～69 歳の女性



昇進の希望(性・年代別)

女性では 40 歳代以降「昇進したくない」割合が増加し、男性では 40 歳代まで「昇進したい」割合が 6 割を占めている

女性では、20 歳代と 30 歳代で「どちらかといえば昇進したい」と「どちらかといえば昇進したくない」がそれぞれ 33.3%と 35.0%と同じ割合となっています。40 歳代で「どちらかといえば昇進したくない」が 32.8%と最も高く、50 歳代と 60 歳代では「昇進したくない」がそれぞれ 23.6%、44.8%と最も高くなっています。男性では、20 歳代から 40 歳代にかけて、「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」が 6 割を占めていますが、50 歳代、60 歳代になると「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」割合が「昇進したい割合より増加します。

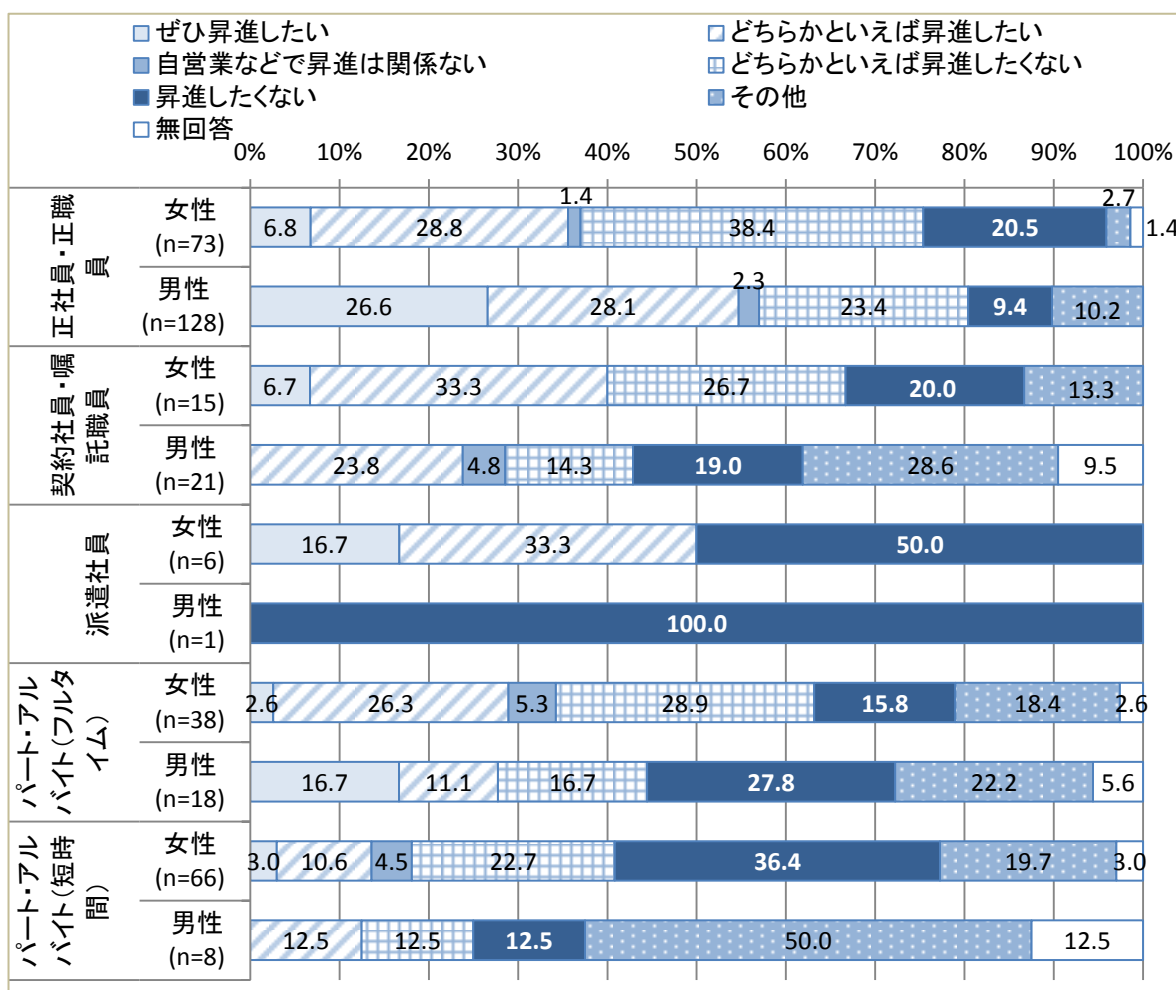


昇進の希望(雇用形態別)

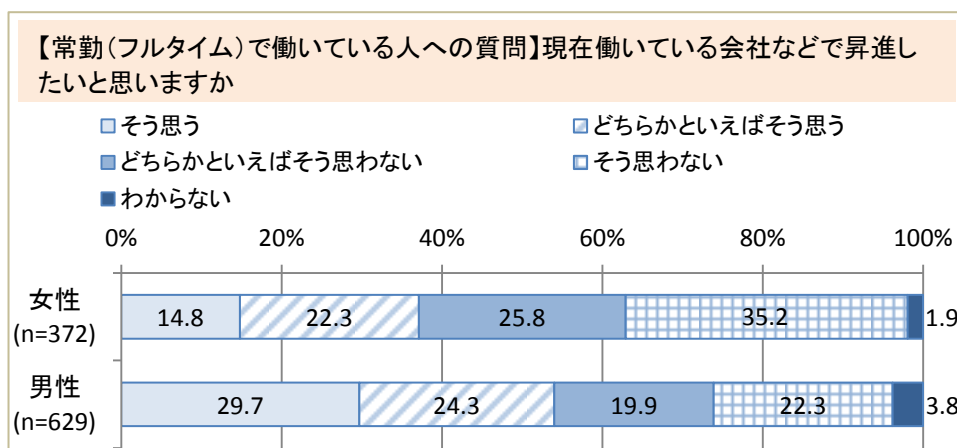
「正社員・正職員」の男性で、「昇進したい」割合が5割以上

「正社員・正職員」の男性が「昇進したい」割合は、5割以上に対して、「正社員・正職員」の女性が「昇進したくない」割合は、6割弱となっています。「パート・アルバイト(短時間)」でみると、男女とも「昇進したい」割合は低くなっています。

※「派遣社員」については、有効回答数が少ないため参考とする。

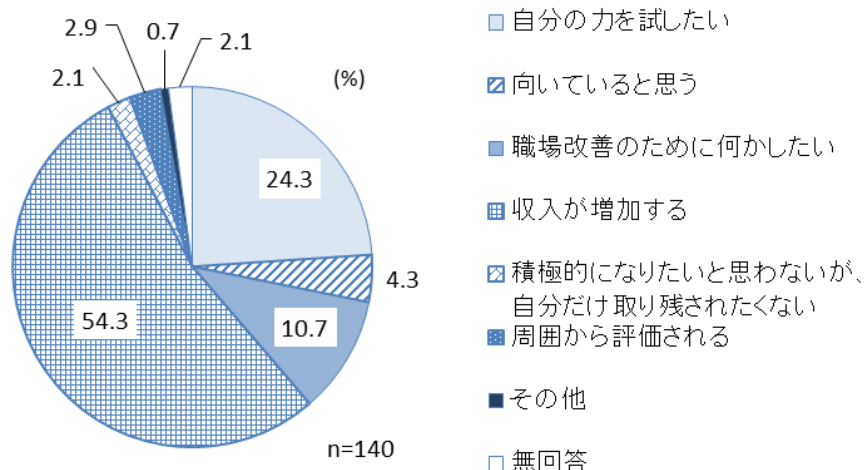


国【女性の活躍推進に関する世論調査】(平成 26 年) ※対象:20 歳以上の男女



Q11-2: Q11-1で ①または② に○をつけた方におうかがいします
それはなぜですか。(1つに○をつけてください)

昇進を希望する理由(全体)



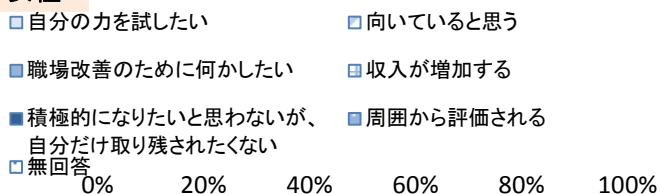
昇進を希望する理由は、収入が増加するから

全体でみると、「収入が増加する」が 54.3%と最も高く、次いで「自分の力を試したい」が 24.3%、「職場改善のために何かしたい」が 10.7%となっています。

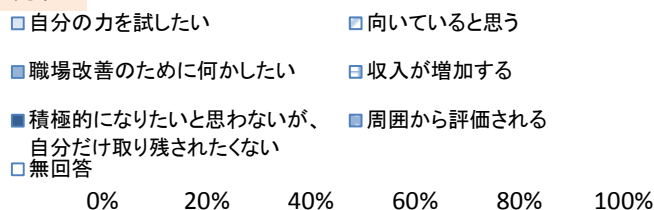
昇進を希望する理由(性・年代別)

女性では、どの年代でも「収入が増加する」が最も割合が高く、40 歳代、50 歳代で「自分の力を試したい」がそれぞれ 35.3%、25.0%と次いで高くなっています。男性でも、すべての年代で「収入が増加する」が5割以上と最も高く、次いで「自分の力を試したい」となっています。

女性



男性

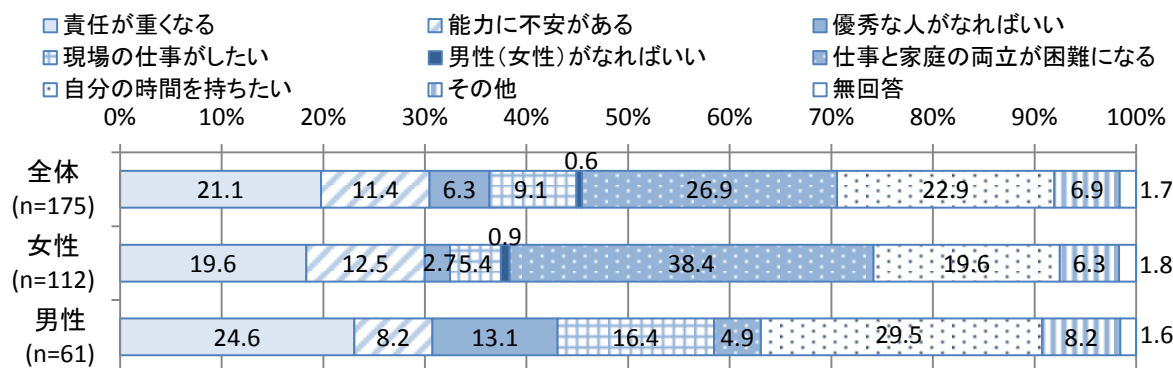


Q11-3: Q11-1で ④または⑤ に○をつけた方におうかがいします
それはなぜですか。(1つに○をつけてください)

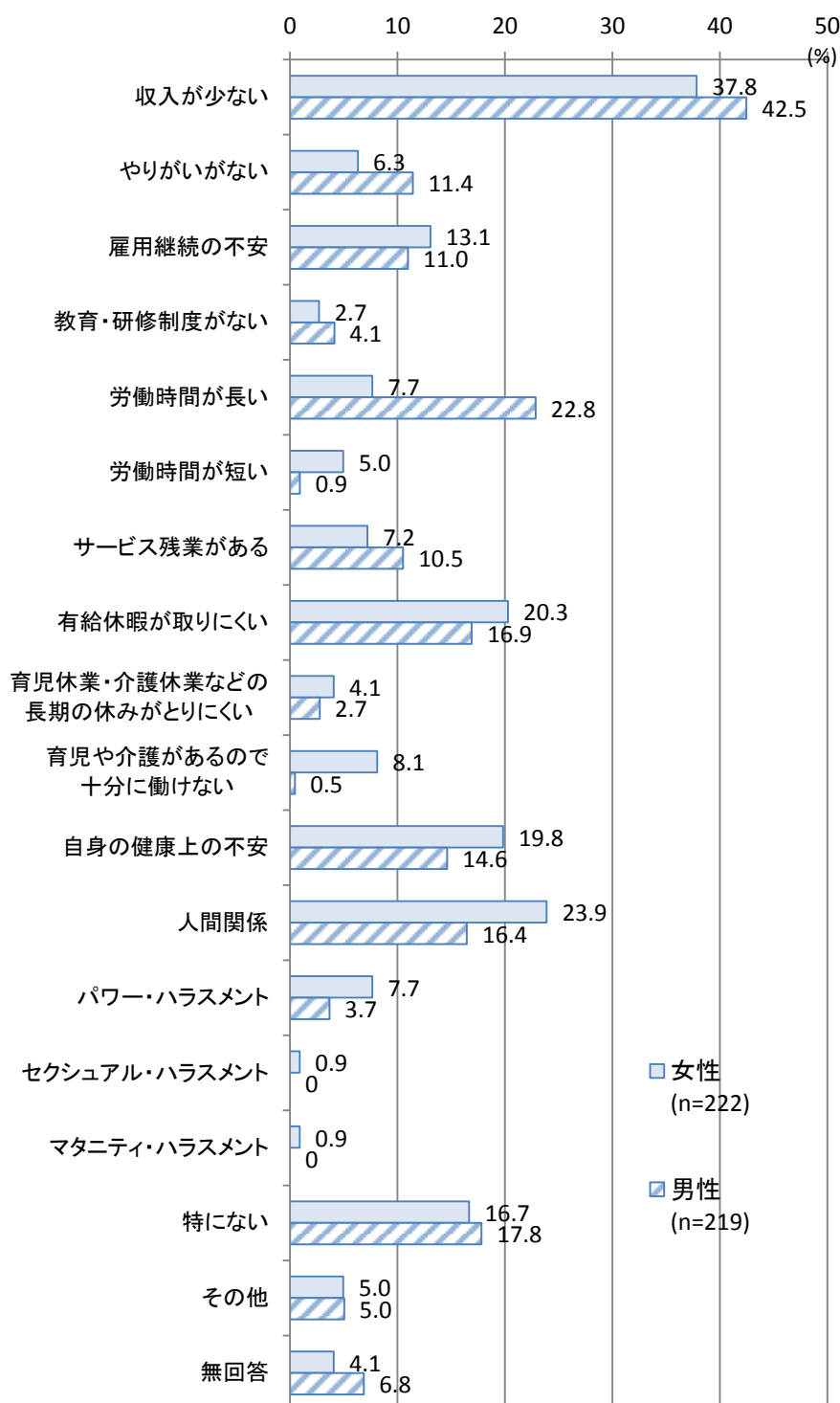
昇進を希望しない理由(全体・性別)

女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」、男性では「自分の時間を持ちたい」

全体でみると、「仕事と家庭の両立が困難になる」が 26.9%と最も高く、次いで「自分の時間を持ちたい」が 22.9%、「責任が重くなる」が 21.1%となっています。性別でみると、女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」が 38.4%と最も高く、次いで「責任が重くなる」と「自分の時間を持ちたい」が 19.6%となっています。男性では、「自分の時間を持ちたい」が 29.5%と最も高く、次いで「責任が重くなる」が 24.6%、「現場の仕事がしたい」が 16.4%となっています。



Q12: 仕事に関する悩みや不安はありますか。(当てはまるものすべてに○をつけてください)



仕事に関する悩みや不安 (性別)

男女とも「収入が少ない」ことに悩みや不安を抱えている

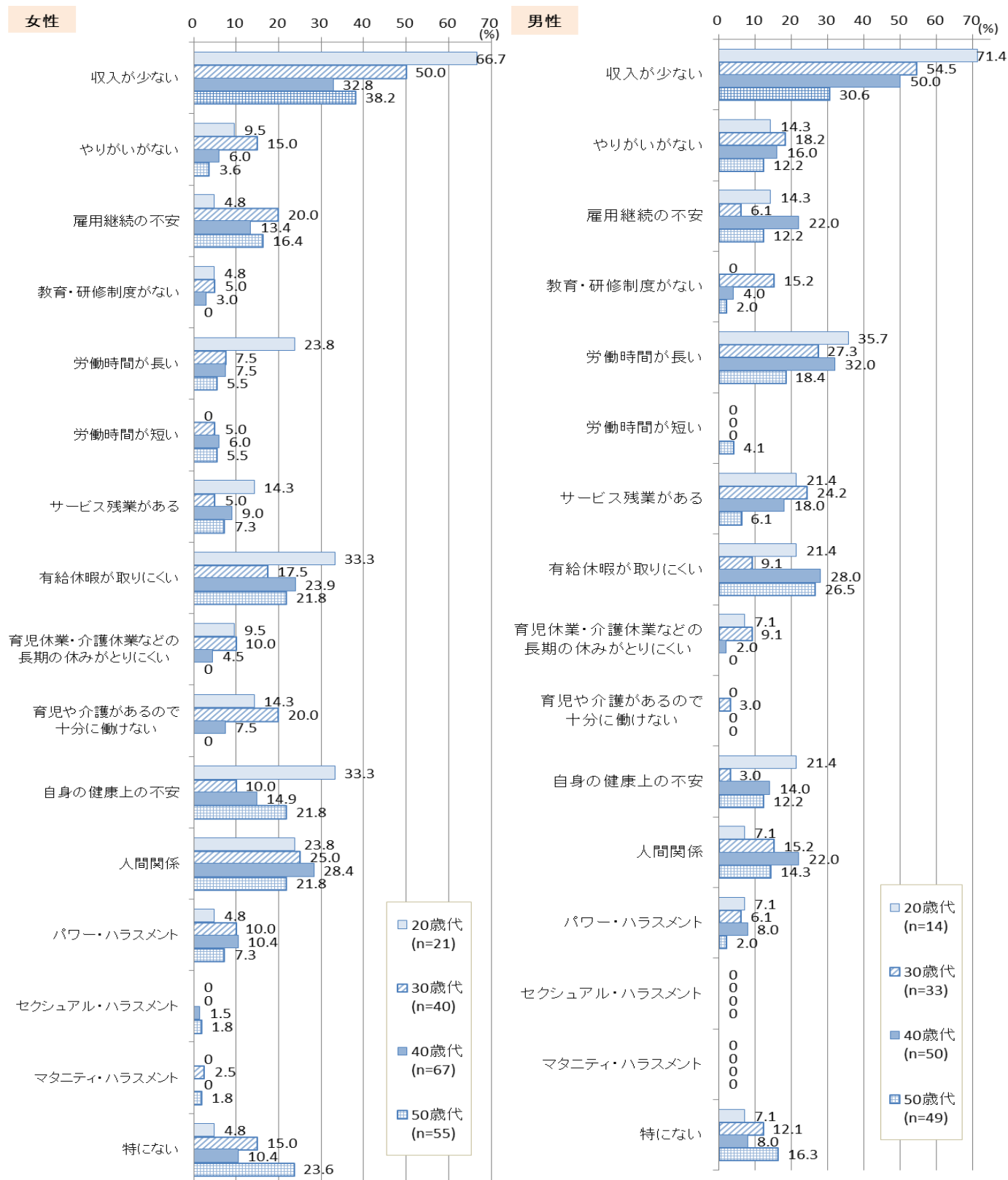
「収入が少ない」が女性で 37.8%、男性で 42.5%と最も高くなっています。女性では、次いで「人間関係」が 23.9%、「有給休暇が取りにくい」が 20.3%、「自身の健康上の不安」が 19.8%となっています。男性では、次いで「労働時間が長い」が 22.8%、「有給休暇が取りにくい」が 16.9%、「人間関係」が 16.4%となっています。

前回調査(P23)と比べると、女性で「収入が少ない」の割合が最も高い結果は今回と同様で、次いで「特に不満はない」が高くなっています。

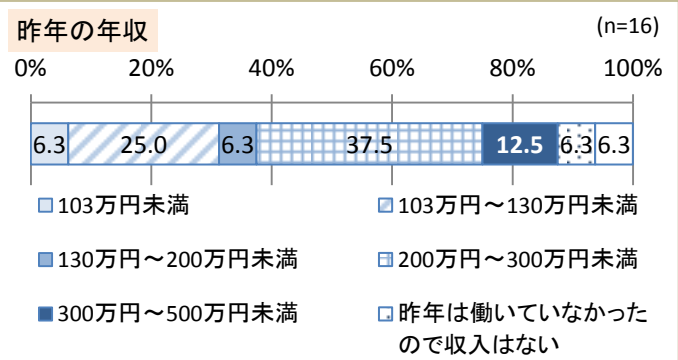
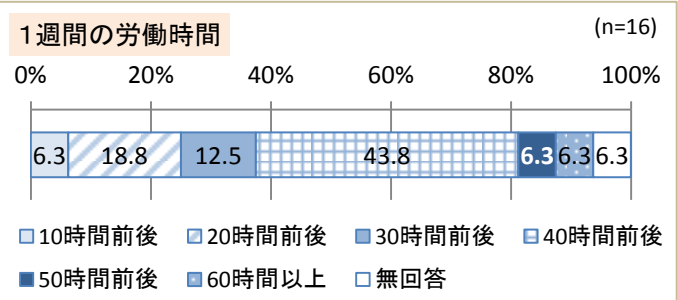
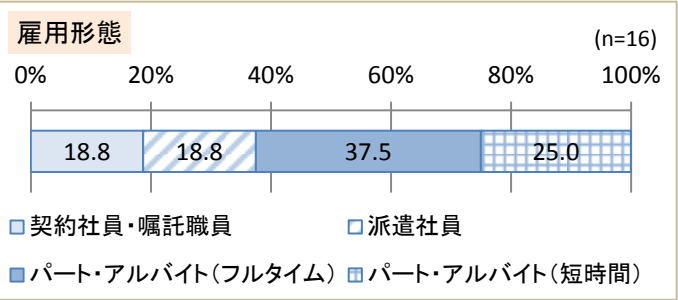
仕事に関する悩みや不安(性・年代別)

「セクシュアル・ハラスメント」「マタニティ・ハラスメント」に関する悩みや不安は女性のみ

性・年代別にみると、女性ではどの年代でも「収入が少ない」が最も高くなり、20歳代で66.7%、30歳代で50.0%と高くなっています。20歳代で、「有給休暇が取りにくい」が33.3%、「自身の健康上の不安」が33.3%、「労働時間が長い」が23.8%、と特に高くなっています。どの年代でも高いのは「人間関係」と「有休休暇が取りにくい」となっています。男性ではどの年代でも「収入が少ない」が最も高くなり、20歳代で71.4%、30歳代で54.5%、40歳代で50.0%と高くなっています。次いで「労働時間が長い」が20歳代から40歳代で高くなっています。その次に高いのが20歳代と30歳代で「サービス残業がある」、40歳代と50歳代で「有休休暇が取りにくい」となっています。



【参考】非正規シングル女性の状況 ※非正規シングル女性の抽出条件・・・女性、未婚、正社員以外で就労中



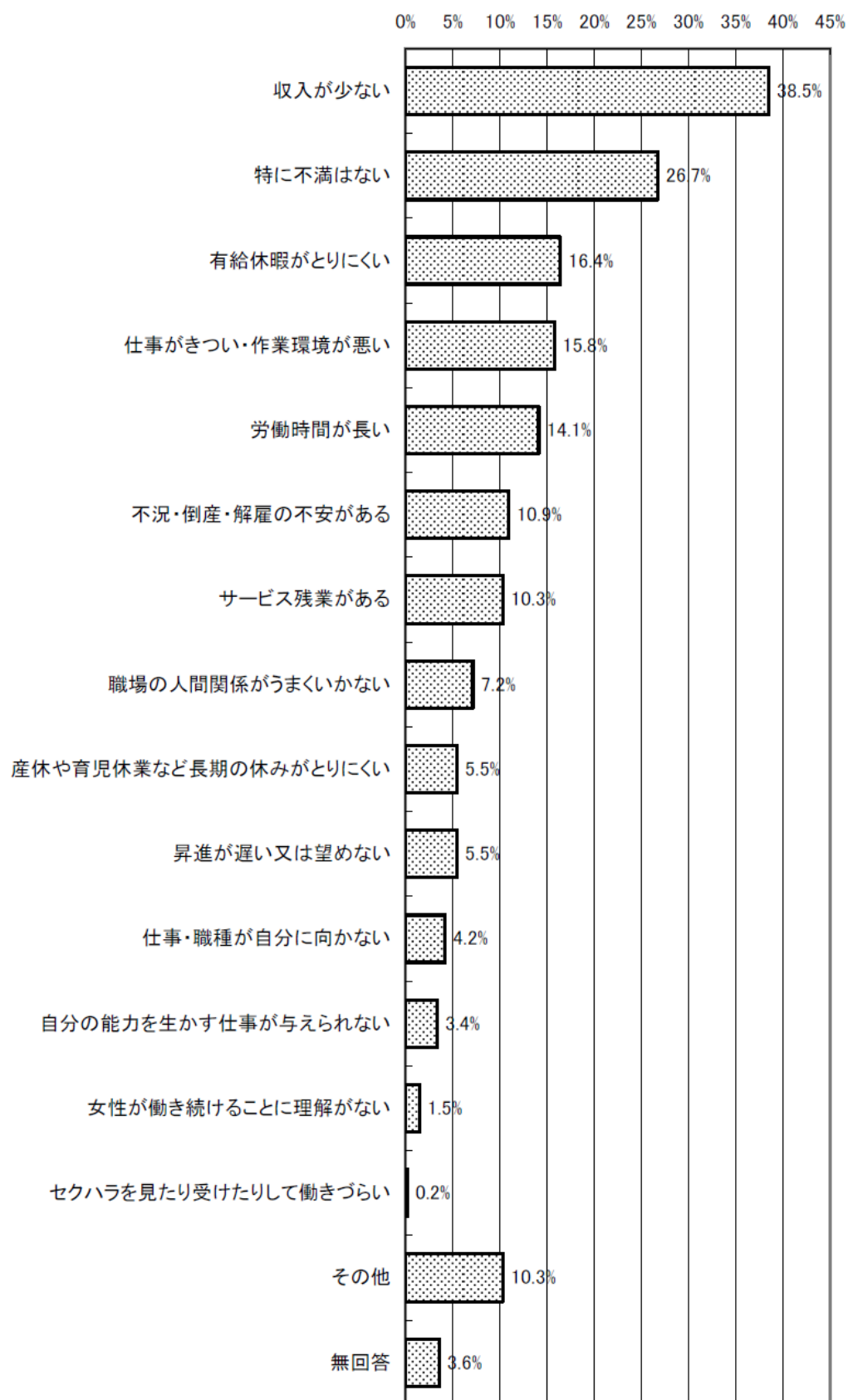
雇用形態でみると、「パート・アルバイト(フルタイム)」が 37.5%と最も高く、1週間の労働時間でみると、「40時間前後」が 43.8%と最も高く、昨年の年収でみると「200万円～300万円未満」が 37.5%と最も高くなっています。年収は約 75%が 300万円未満となっています。

仕事に関する悩みや不安では、「収入が少ない」が一番多く、「人間関係」、「有給休暇が取りにくい」などのほかに、「雇用継続の不安」が多くなっています。

仕事に関する不安や悩み

全体(人)	収入が少ない	やりがいがない	雇用継続の不安	教育・研修制度がない	労働時間が長い	労働時間が短い	サービス残業がある	有給休暇が取りにくい	長期の休みが取りにくい	育児・介護などの長期の休みがあるのに十分な働きに働けない	自身の健康上の不安	人間関係	パワー・ハラスメント	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント
16	11	1	5	0	1	1	1	5	0	0	4	6	3	0	0

職場での悩み (N=475 M.T.=170.5%)



※今回(平成 28 年度)調査と選択肢が異なる。

(2)現在、就労していない方への質問

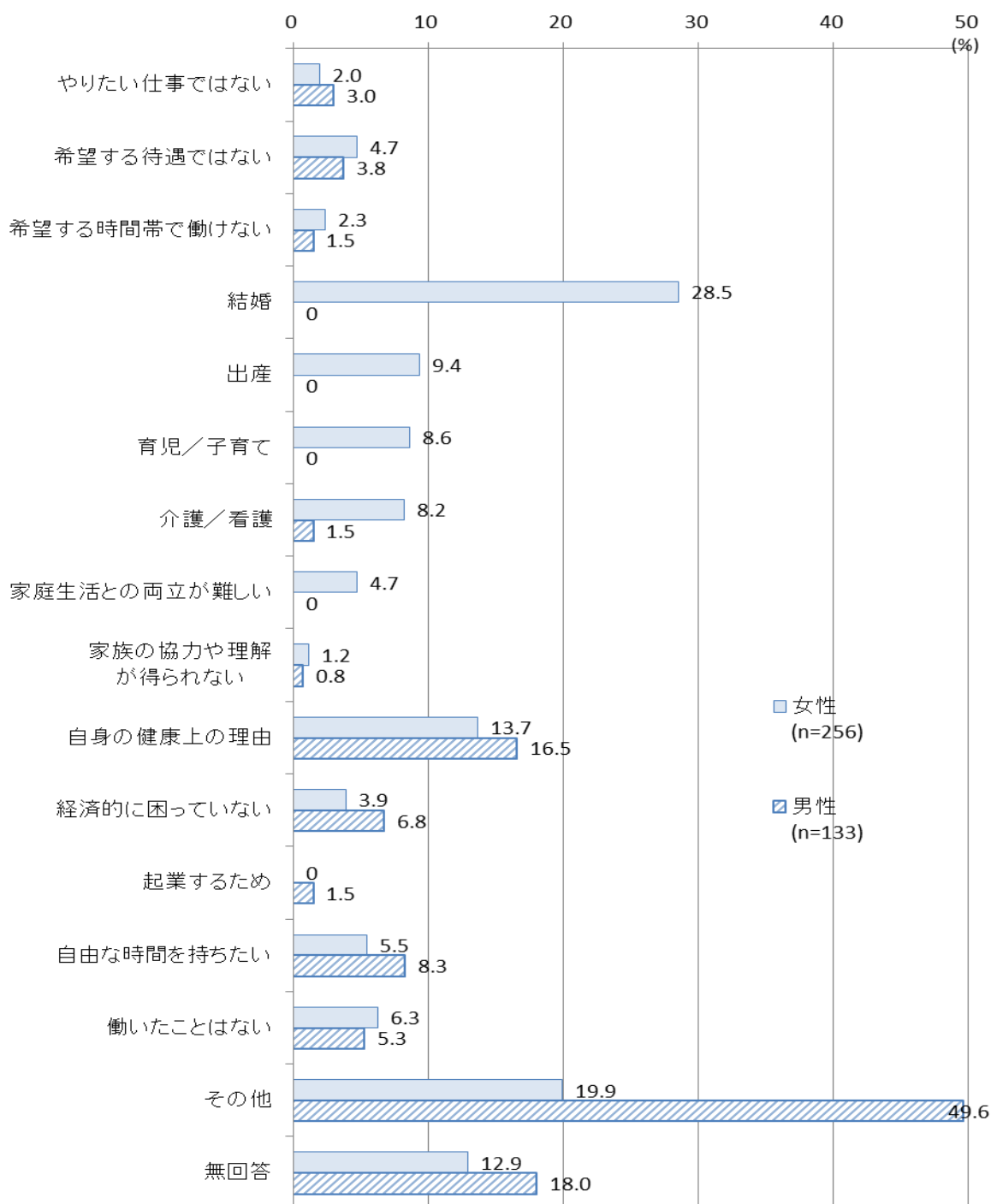
Q13:仕事を辞めた理由は何ですか。(当てはまるもの3つまで○をつけてください)

仕事を辞めた理由(性別)

女性では「結婚」が高く、男女とも「自身の健康上の理由」は高くなっている

女性では「結婚」が28.5%で最も高く、次いで「その他」が19.9%、「自身の健康上の理由」が13.7%となっています。男性では、「その他」が49.6%で最も高く、次いで「自身の健康上の理由」が16.5%、「無回答」が18.0%、「自由な時間を持ちたい」が8.3%となっています。「結婚」「出産」「育児／子育て」「家庭生活との両立が難しい」という理由は女性のみが回答しています。「その他」では、定年退職が半数以上を占めています。

前回調査を見ると、「結婚」が最も割合が高く、順に「第1子出産」、「自分の健康」と続き、今回とほぼ同じ結果となります。

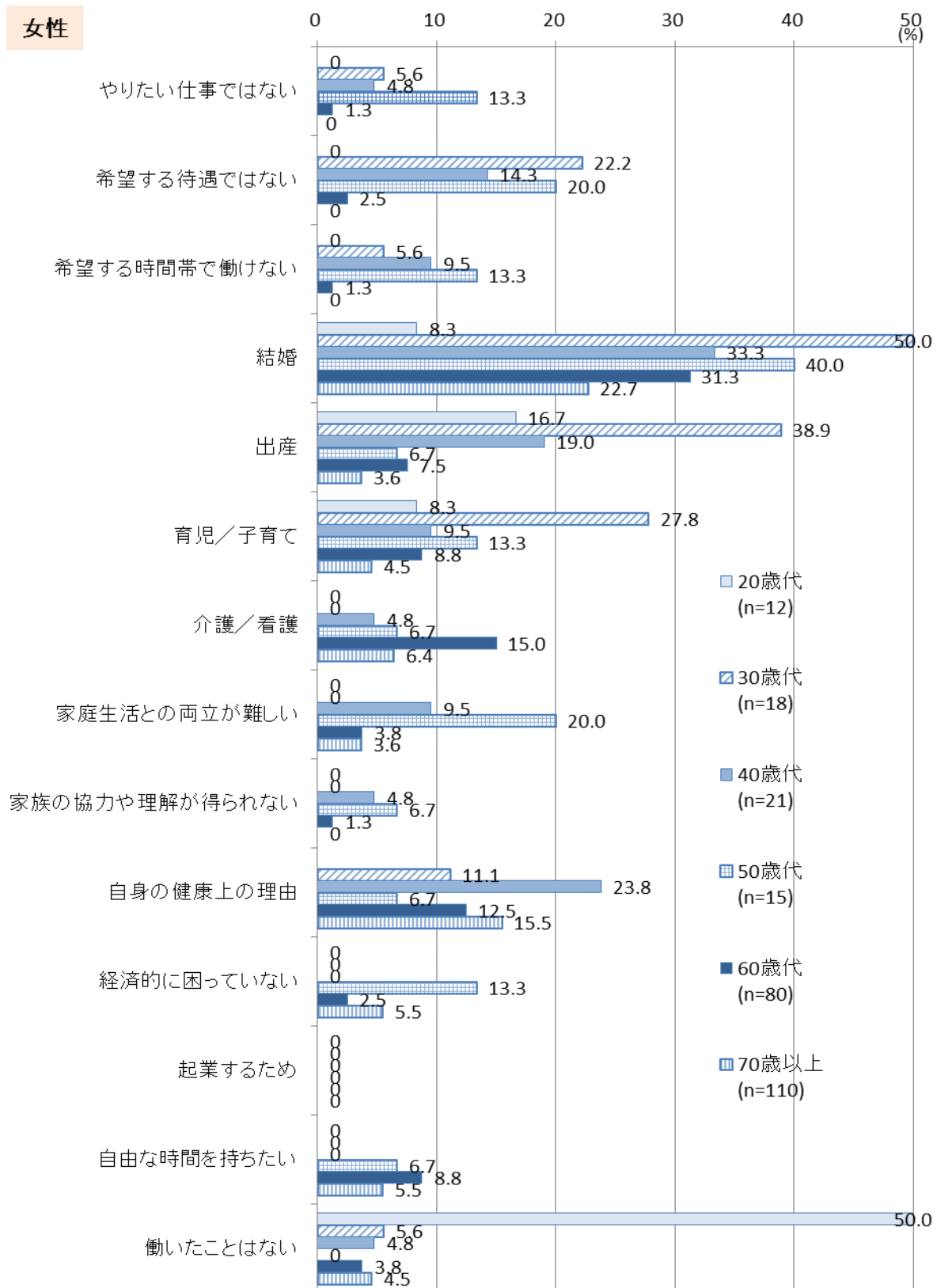


仕事を辞めた理由(女性・年代別)

※男性については、有効な回答数が得られなかったため掲載しない。

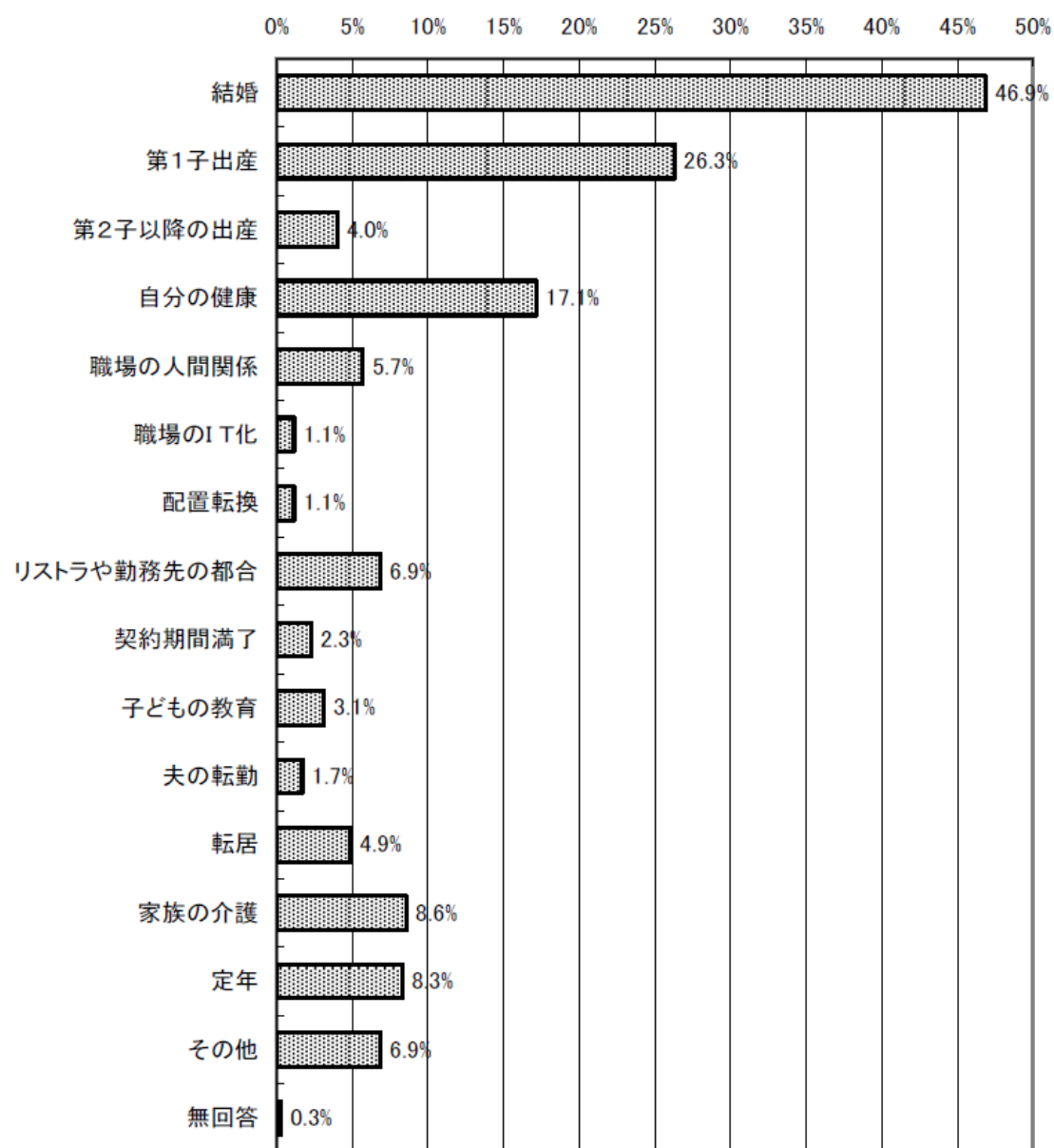
30 歳代は、「結婚」「出産」「育児／子育て」で辞める割合が高い

年代別でみると、「結婚」が30 歳代から70 歳代まですべての年代で最も高くなっています。一方20 歳代では「働いたことはない」が50.0%で最も高くなっています。30 歳代では、「結婚」に次いで「出産」が38.9%、「育児／子育て」が27.8%と高くなっています。40 歳代では、「結婚」に次いで「自身の健康上の理由」が23.8%、「出産」が19.0%となっています。50 歳代では、「結婚」に次いで「家庭生活との両立が難しい」と「希望する待遇ではない」がともに20.0%となっています。60 歳代では、「結婚」に次いで「介護／子育て」が15.0%、「自身の健康上の理由」が12.5%となっています。



仕事をやめた理由

N=350 M.T.=145.1%



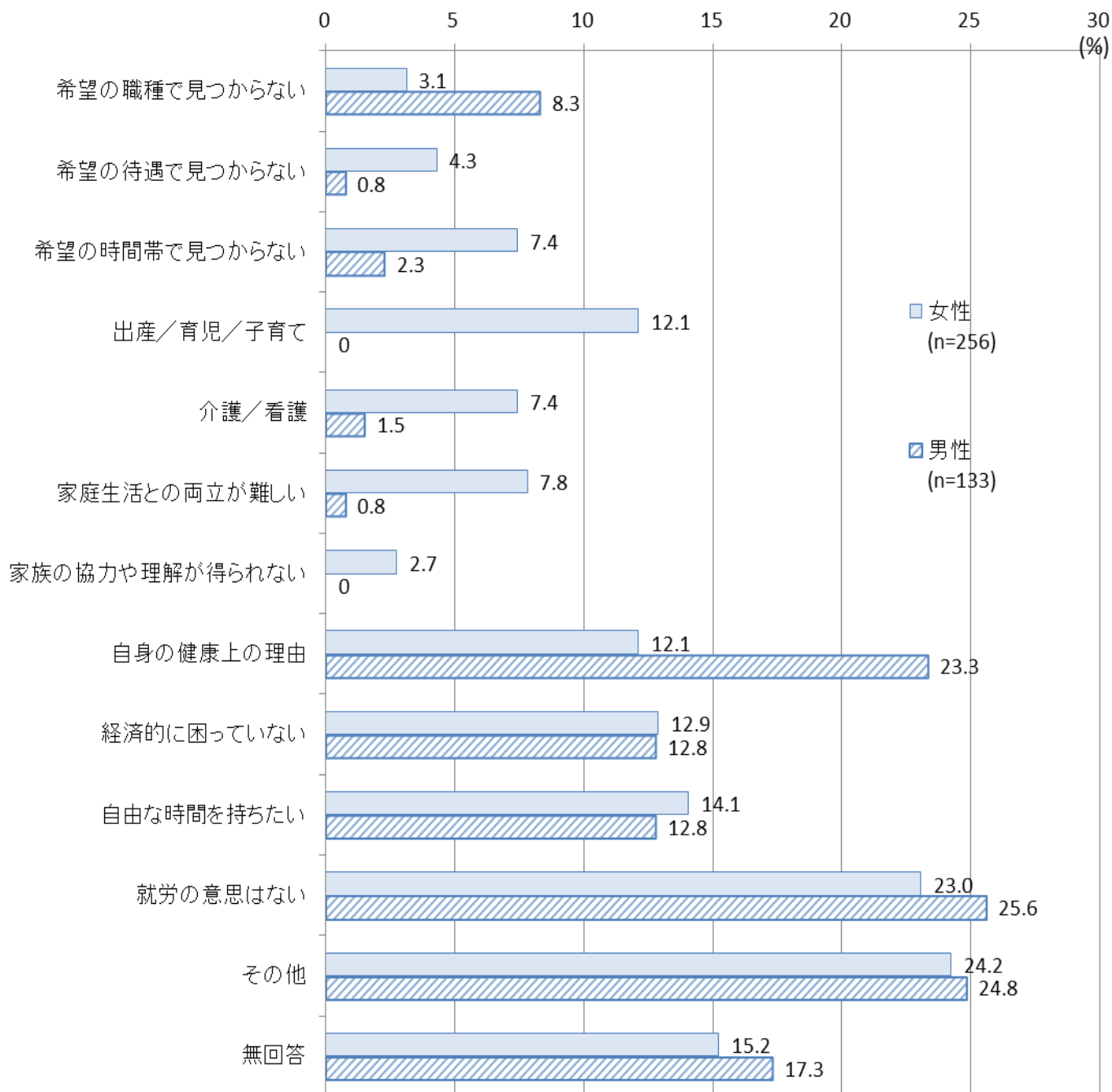
※今回(平成 28 年度)調査と選択肢が異なる。

Q14: 今、就労していない理由は何ですか。(当てはまるもの3つまで○をつけてください)

就労していない理由(性別)

「出産／育児／子育て」、「家族の協力や理解が得られない」と回答したのは、女性のみ

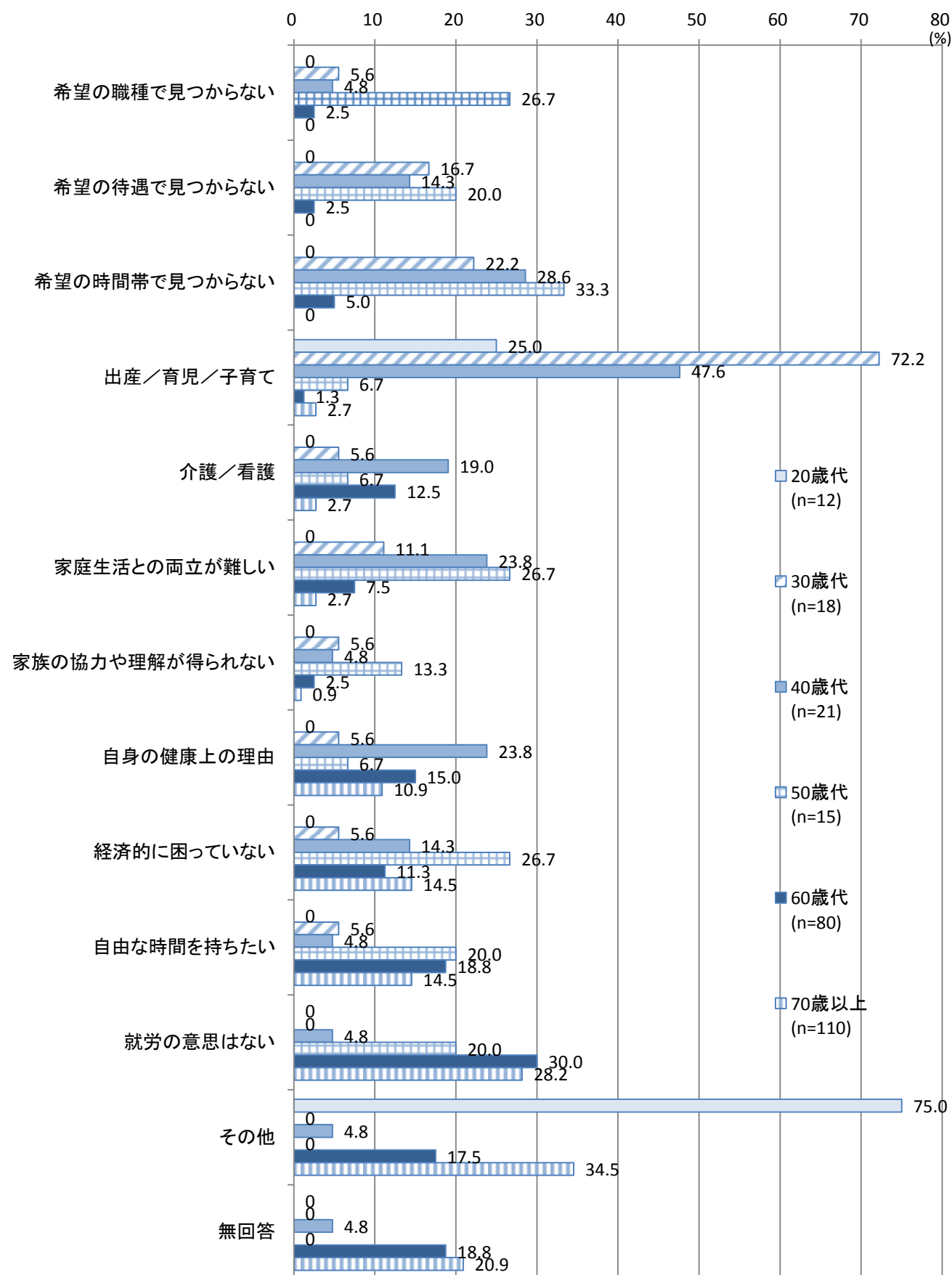
男女ともに、「就労の意思はない」「その他」が高くなっています。男性では、次いで「自身の健康上の理由」が続き、女性では、「自由な時間を持ちたい」「経済的に困っていない」が続きます。「出産／育児／子育て」「家族の協力や理解が得られない」と答えた人は、女性のみでした。「その他」には、高齢だからという理由が大半でした。



就労していない理由(女性・年代別) ※男性については、有効な回答数が得られなかったため掲載しない。

「出産／育児／子育て」、「その他」の割合が特に高い

30歳代と40歳代で「出産／育児／子育て」がそれぞれ72.2%、47.6%と特に高くなっています。50歳代では「希望の時間帯で見つからない」が33.3%で最も高く、60歳代では「就労の意思はない」が30.0%で最も高く、70歳代では「その他」が34.5%で最も高くなっています。20歳代の「その他」には、学生であるという回答が大半となっています。

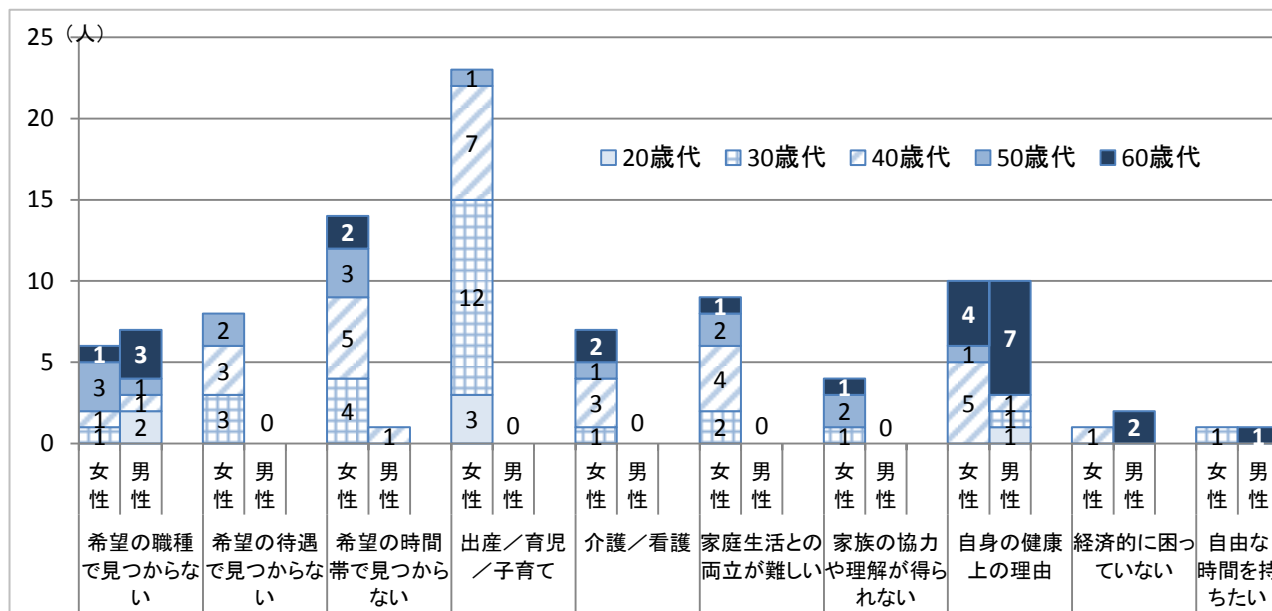


就労していない理由(就労意思があるが就労していない人の状況)

※就労意思がある人の抽出条件…Q15-1 で「すぐにでも働きたい」「将来働きたい」「働く意思があるが働けない」のいずれかを選んだ人

「出産／育児／子育て」の理由で就労していない女性の割合が高い

「出産／育児／子育て」を選んだ女性が最も多く、30 歳代と 40 歳代がほぼ占めています。次いで「希望の時間帯で見つからない」を選んだ女性が多くなっています。次に、「自身の健康上の理由」を選んだ男女が多く、なかでも 60 歳代が多くなっています。



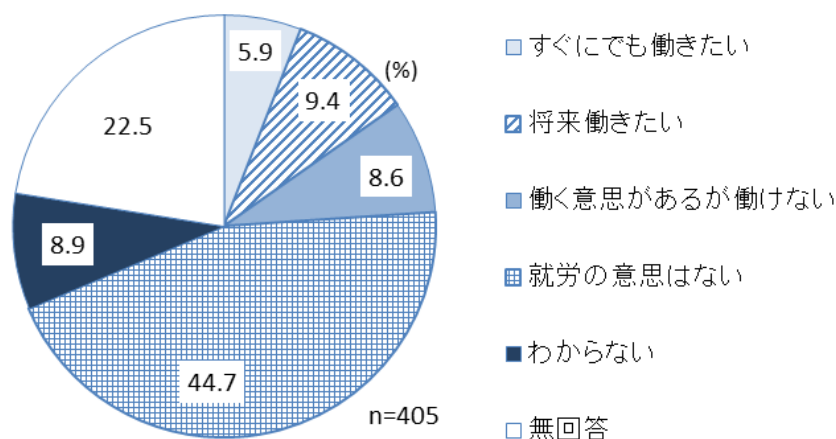
Q15-1: 今後、働きたいと思いますか。(1 つに○をつけてください)

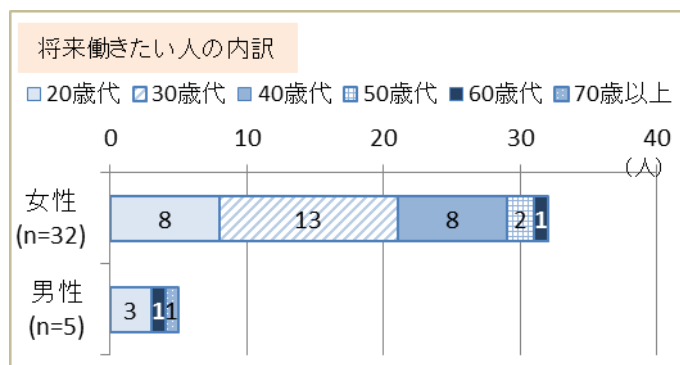
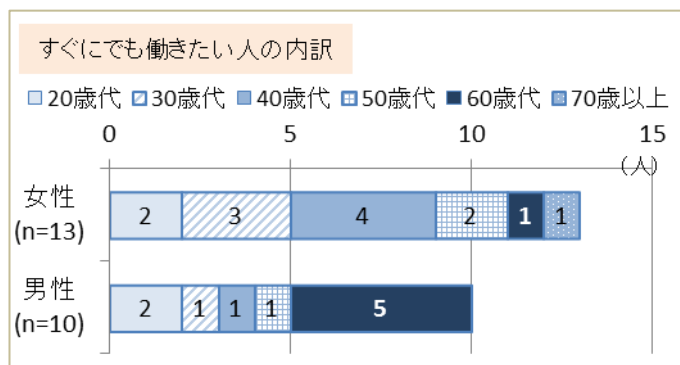
今後の就労の意思(全体)

現在就労していない人の中には、就労意思はない人の割合が高い

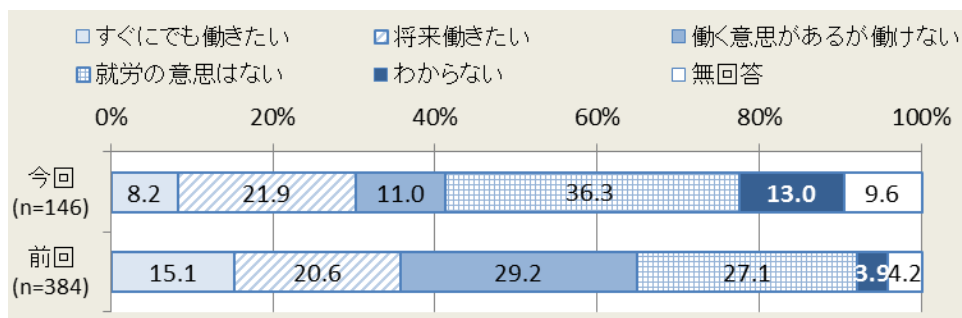
「就労の意思はない」が44.7%で最も高く、次いで「無回答」が22.5%、「将来働きたい」が9.4%となっています。「すぐにでも働きたい」人の内訳を見てみると、女性では 40 歳代、30 歳代が多いが、男性では 60 歳代が多くなっています。また「将来働きたい人」の内訳を見てみると、女性の若い世代が多くなっています。

前回調査と比べると、「すぐにでも働きたい」は、6.9 ポイント減り、「働く意思があるが働けない」は 18.2 ポイント減り、「就労意思はない」が 9.2 ポイント増えています。





前回調査との比較(平成 18 年) ※対象:20 歳～69 歳の女性

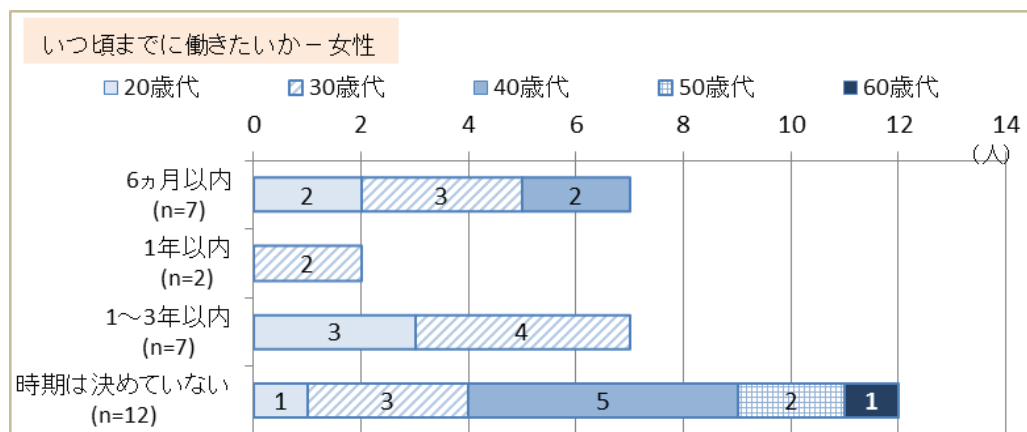
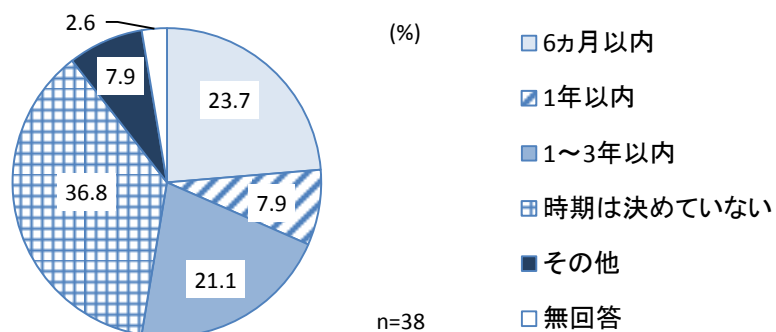


Q15-2:Q15-1で ② に○をつけた方におうかがいします
いつ頃までに働きたいと思いますか。(1つに○をつけてください)

いつ頃までに働きたいか(全体・性別)

就労に迫られていない割合が高い。

全体では、「時期は決めていない」が 36.8%と最も高く、次いで「6ヶ月以内」が 23.7%、「1～3年以内」が 21.1%となっています。女性でみると、若い世代のほうが、早い時期に働きたい傾向があります。

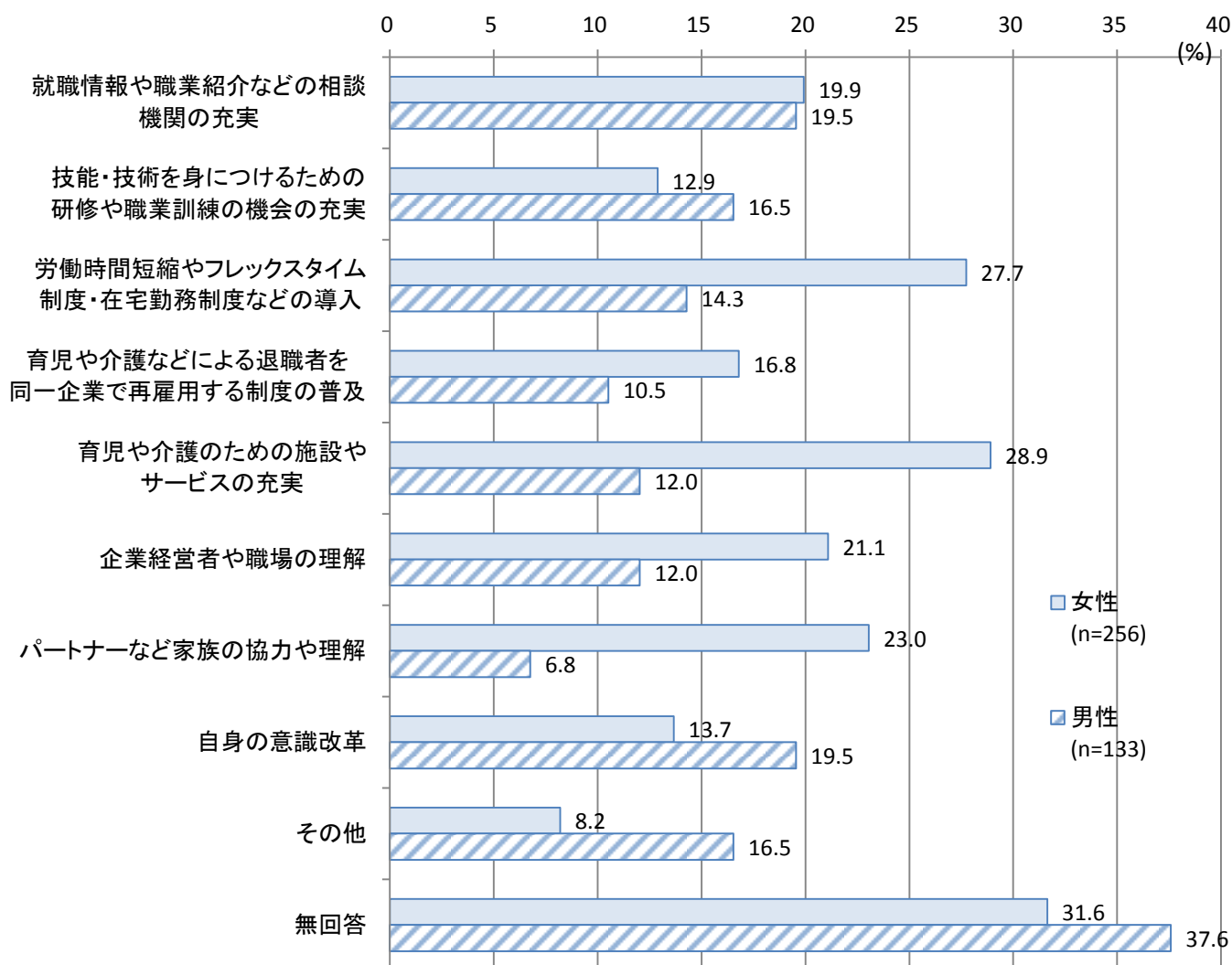


Q16:再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(当てはまるものすべてに○をつけてください)

再就職するために必要なこと(性別)

女性は「仕事と家庭生活の両立の支援制度」を挙げ、男性は「相談機関の充実と意識改革」を挙げています。

男女とも「無回答」を除くと、女性では、「育児や介護のための施設やサービスの充実」が 28.9%で高く、次いで「労働時間短縮やフレックスタイム制度・在宅勤務制度などの導入」が 27.7%、「パートナーなどの家族の協力や理解」が 23.0%となっています。男性では、「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」と「自身の意識改革」が 19.5%で高くなっています。

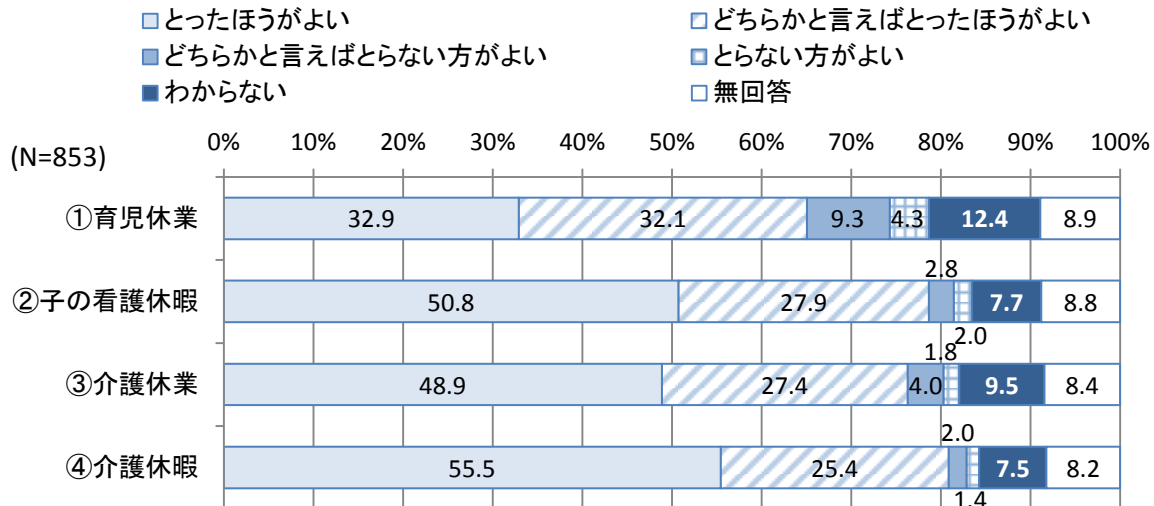


3 職場環境について

Q17-1: 男性が次の休業制度や休暇を取得することについてどう思いますか。(①から④のそれぞれについて、1～5から1つずつ選んで○をつけてください)

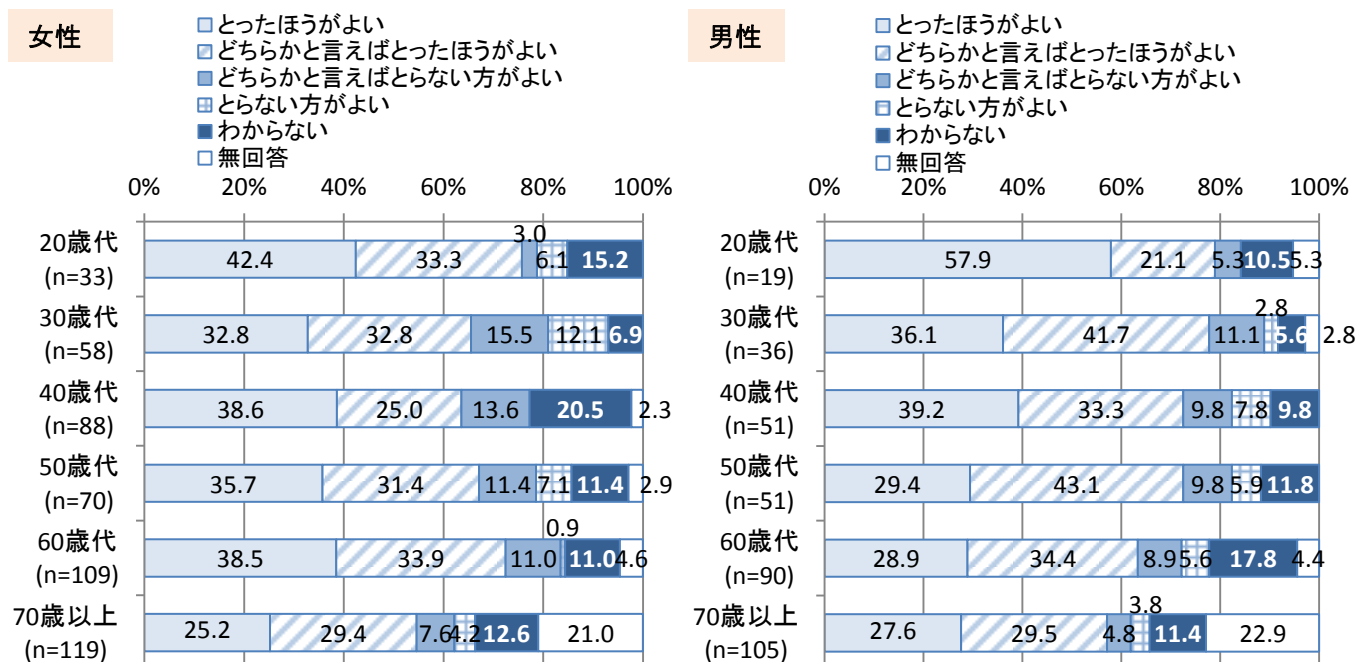
男性が休業制度や休暇を取得することについて(全体)

「子の看護休暇」「介護休業」「介護休暇」のいずれも「とったほうがよい」「とったほうがよい」と「どちらかと言えばとったほうがよい」の合計が約8割を占めています。「育児休業」でも「とったほうがよい」が 65.0%となっています。一方どの休業制度や休暇についても「とらない方がよい」という割合はわずかにあります。



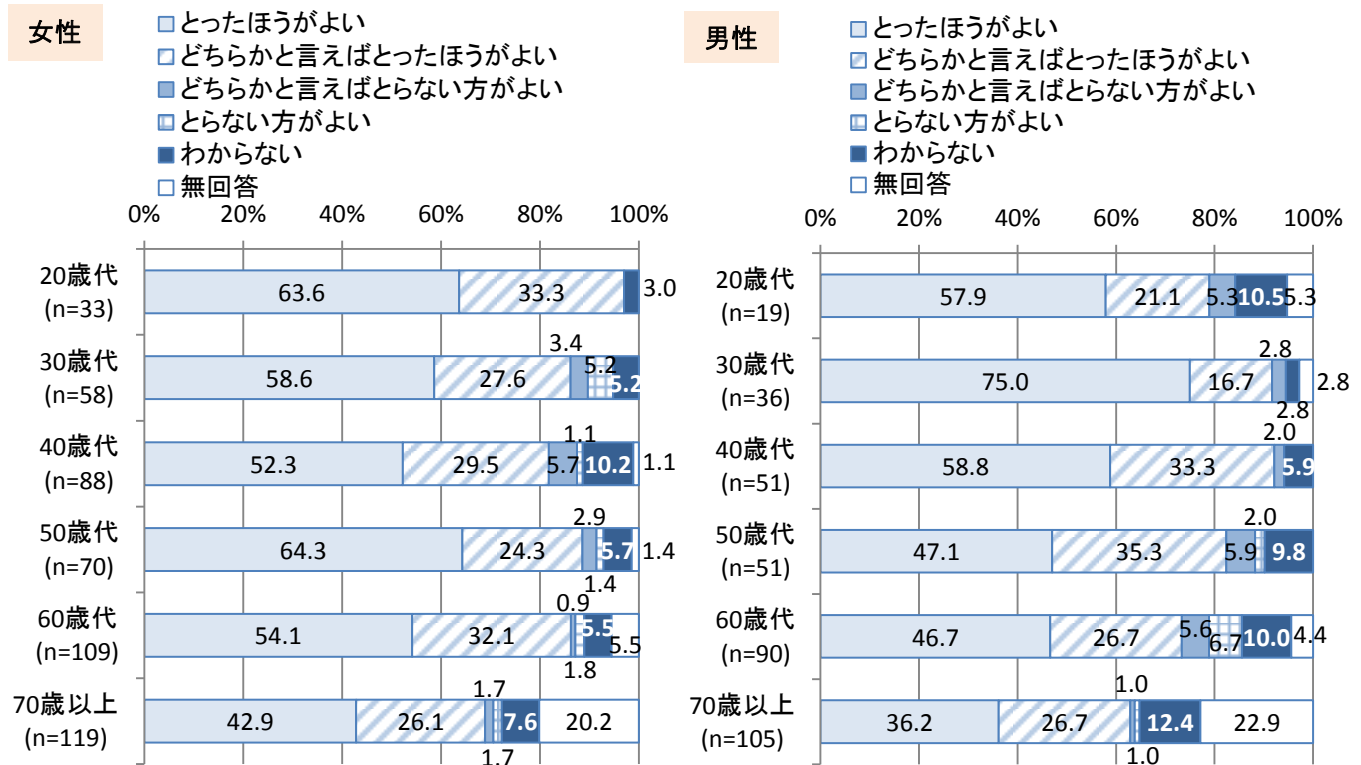
① 育児休業(性・年代別)

女性では、20歳代から60歳代までどの年代でも「とったほうがよい」「とったほうがよい」と「どちらかと言えばとったほうがよい」の合計が7割前後を占めています。一方「とらない方がよい」「とらない方がよい」と「どちらかと言えばとらない方がよい」の合計は30歳代で27.6%、50歳代で18.5%と高くなっています。男性では「とったほうがよい」が年代が上がるほど、減っています。「とらない方がよい」が20歳代と比べて30歳代から60歳代まで多くなっています。



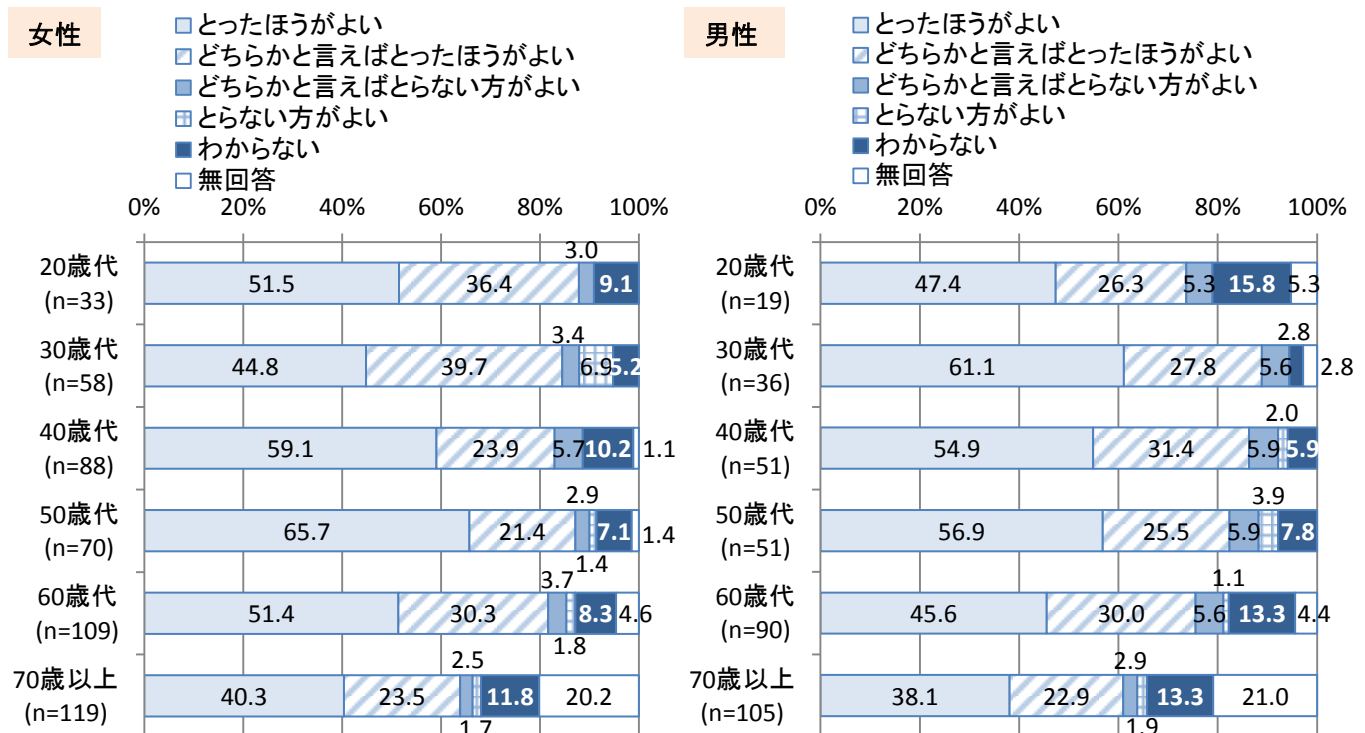
② 子の看護休暇(性・年代別)

「子の看護休暇」は、「育児休業」より「とったほうがよい」という割合が男女とも高くなっています。特に女性の20歳代、男性の30歳代と40歳代で9割以上を占めています。



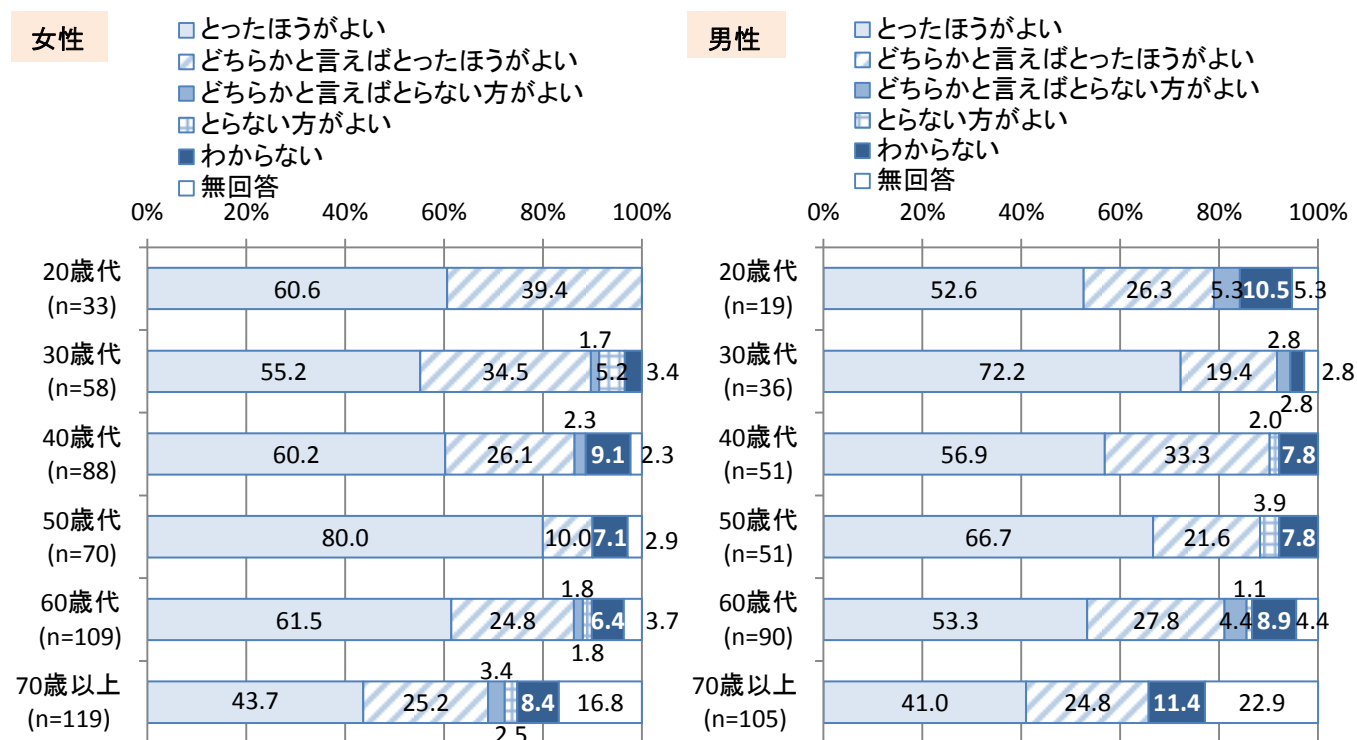
③ 介護休業(性・年代別)

女性では、20歳代から60歳代まで、男性では、30歳代から50歳代まで「とったほうがよい」「とったほうがよい」と「どちらかと言えばとったほうがよい」の合計という割合は、8割から9割を占めています、一方男女とも、70歳以上は「とったほうがよい」は6割にとどまっています。



④ 介護休暇(性・年代別)

「介護休暇」は「介護休業」より「とったほうがよい」という割合が男女とも高くなっています。特に 20 歳代の女性は 100%となっています。また女性の 30 歳代から 60 歳代、男性の 30 歳代から 50 歳代は9割近くを占めています。

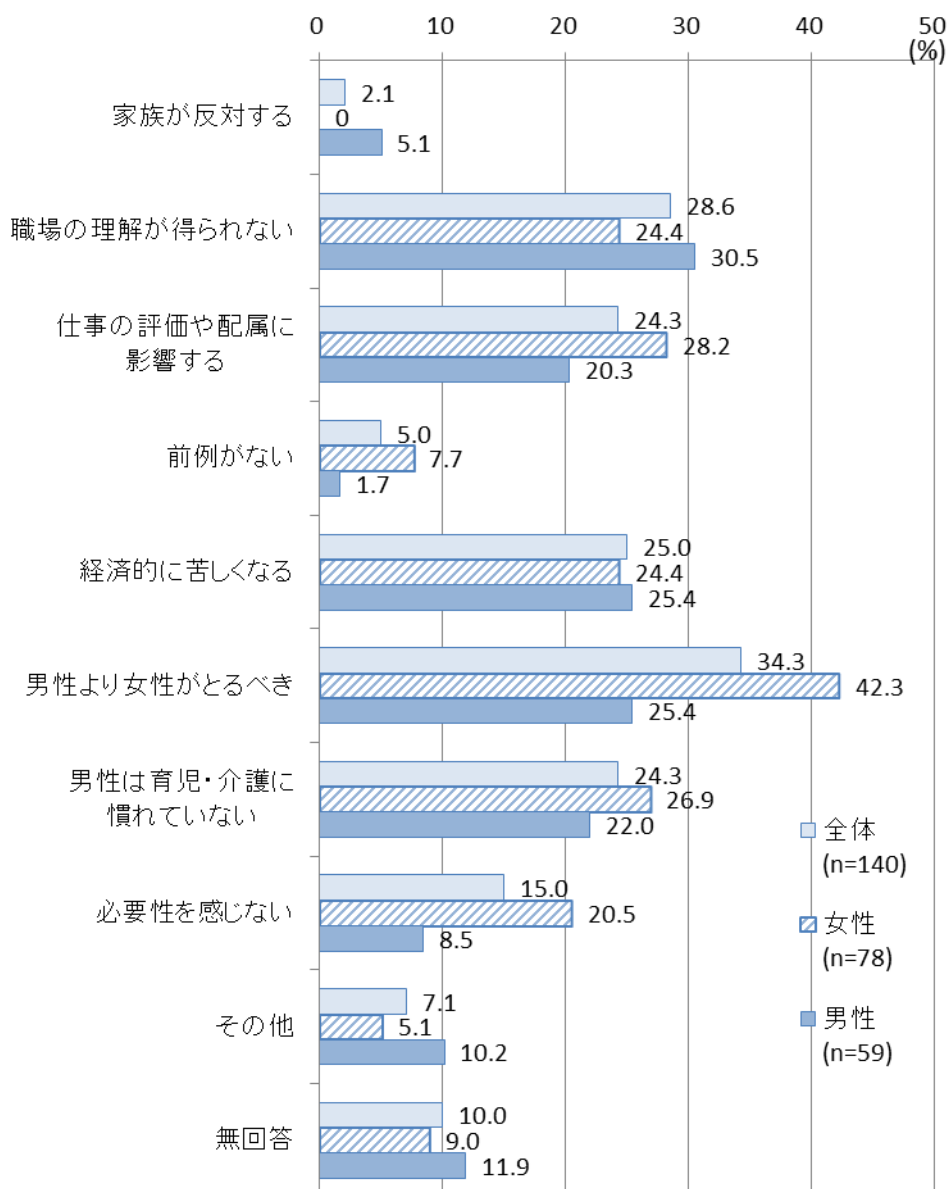


Q17-2: Q17-1でひとつでも「3:どちらかと言えばとらない方がよい」「4:とらない方がよい」に○をつけた方におうかがいします。それはなぜですか。(当てはまるものすべてに○をつけてください)

男性が休業制度や休暇を取得しない方がいいと思う理由(全体・性別)

女性のほうが、「男性より女性がとるべき」という意識を持っている人が多い

全体では、「男性より女性がとるべき」が34.3%で最も高く、次いで「職場の理解が得られない」が28.6%、「経済的に苦しくなる」が25.0%となっています。女性では「男性より女性がとるべき」が42.3%で最も高く、次いで「仕事の評価や配属に影響する」が28.2%、「男性は育児・介護に慣れていない」が26.9%となっています。男性では「職場の理解が得られない」が30.5%と最も高く、次いで「経済的に苦しくなる」と「男性より女性がとるべき」が25.4%となっています。



Q18:女性が働きやすい環境にするためには、特にどんなことが必要だと思いますか。(当てはまるもの3つまで○をつけてください)

女性が働きやすい環境にするために必要なこと(性別)

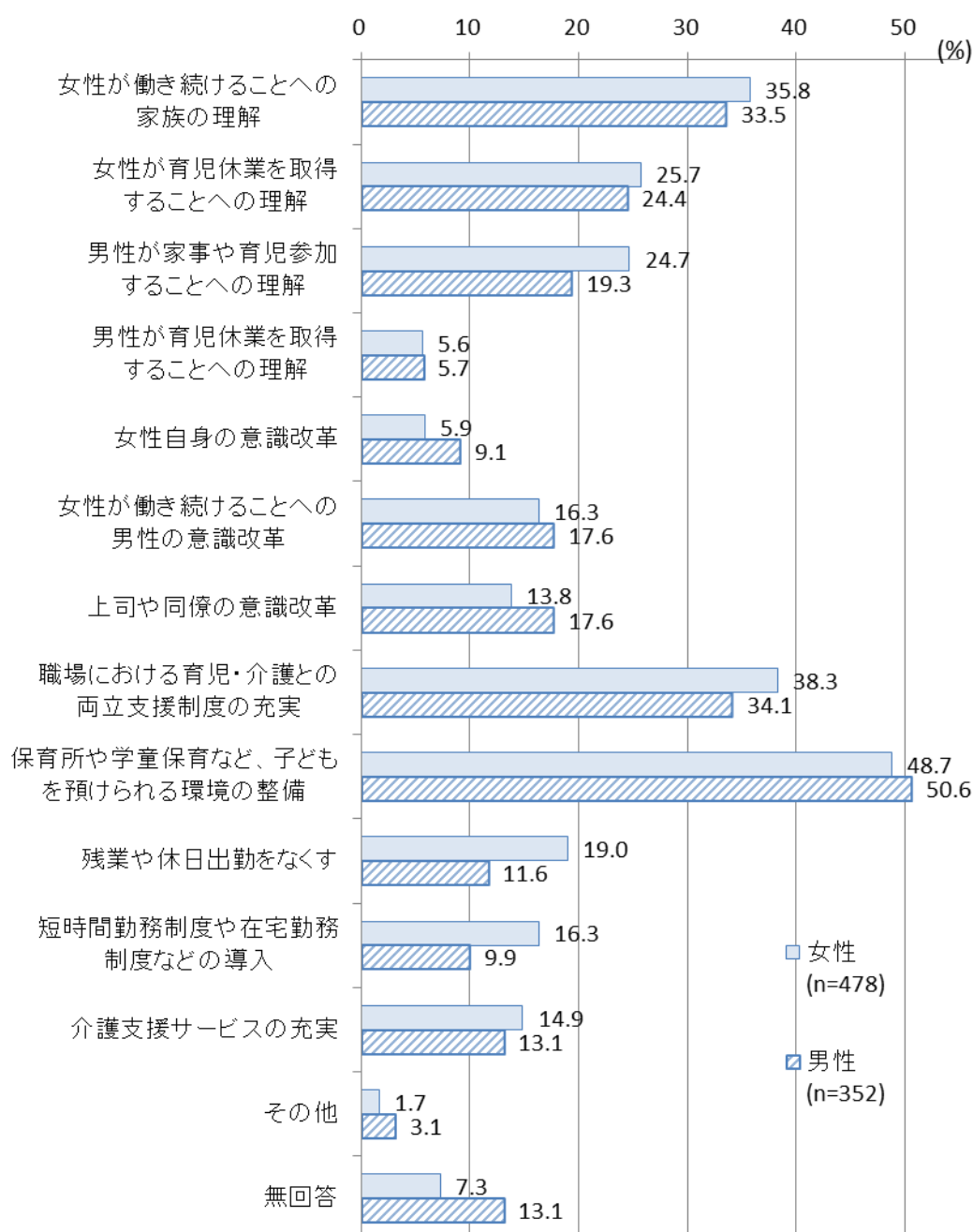
男女とも、子育て環境の整備、次いで職場の両立支援制度を望んでいる

「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が 女性で 48.7%、男性で 50.6%と最も高く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が女性で 38.3%、男性で 34.1%となり、続いて「女性が働き続けることへの家族の理解」が女性で 35.8%、男性で 33.5%と高くなっています。

前回調査(P38)を見てみると、「夫や家族も家事育児を分担する」が 47.6%と最も高く、「男女とも育児・介護休業、有休休暇などがとりやすい」、「保育所や学童保育が利用しやすい」の順になっています。

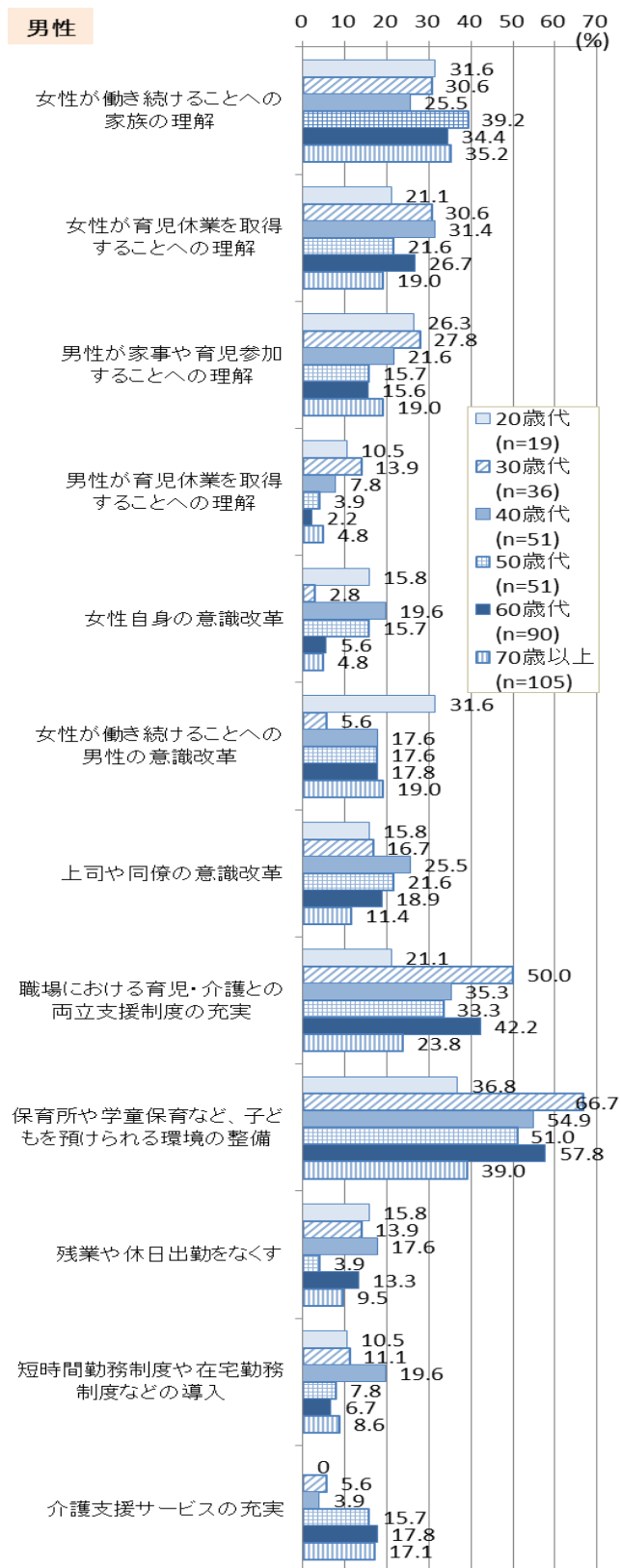
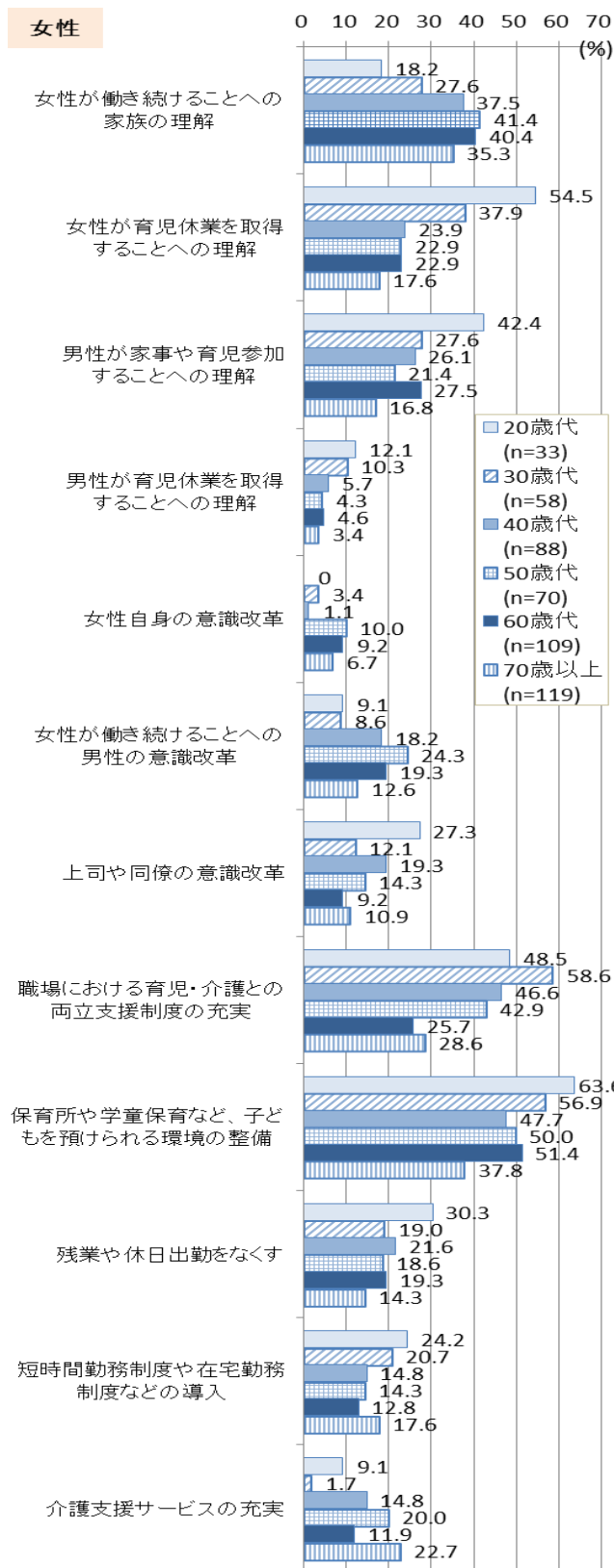
国の調査(P39)を見てみると、「保育所など、子どもを預けられる環境の整備」が男女とも最も割合が高くなり、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」、「男性の家事参加への理解・意識改革」の順になっています。

大阪府の調査(P40)を見てみると、「育児・介護休暇制度の充実」が最も割合が高く、順に「企業経営者や職場の理解」、「育児や介護のための施設やサービスの充実」の順になっています。



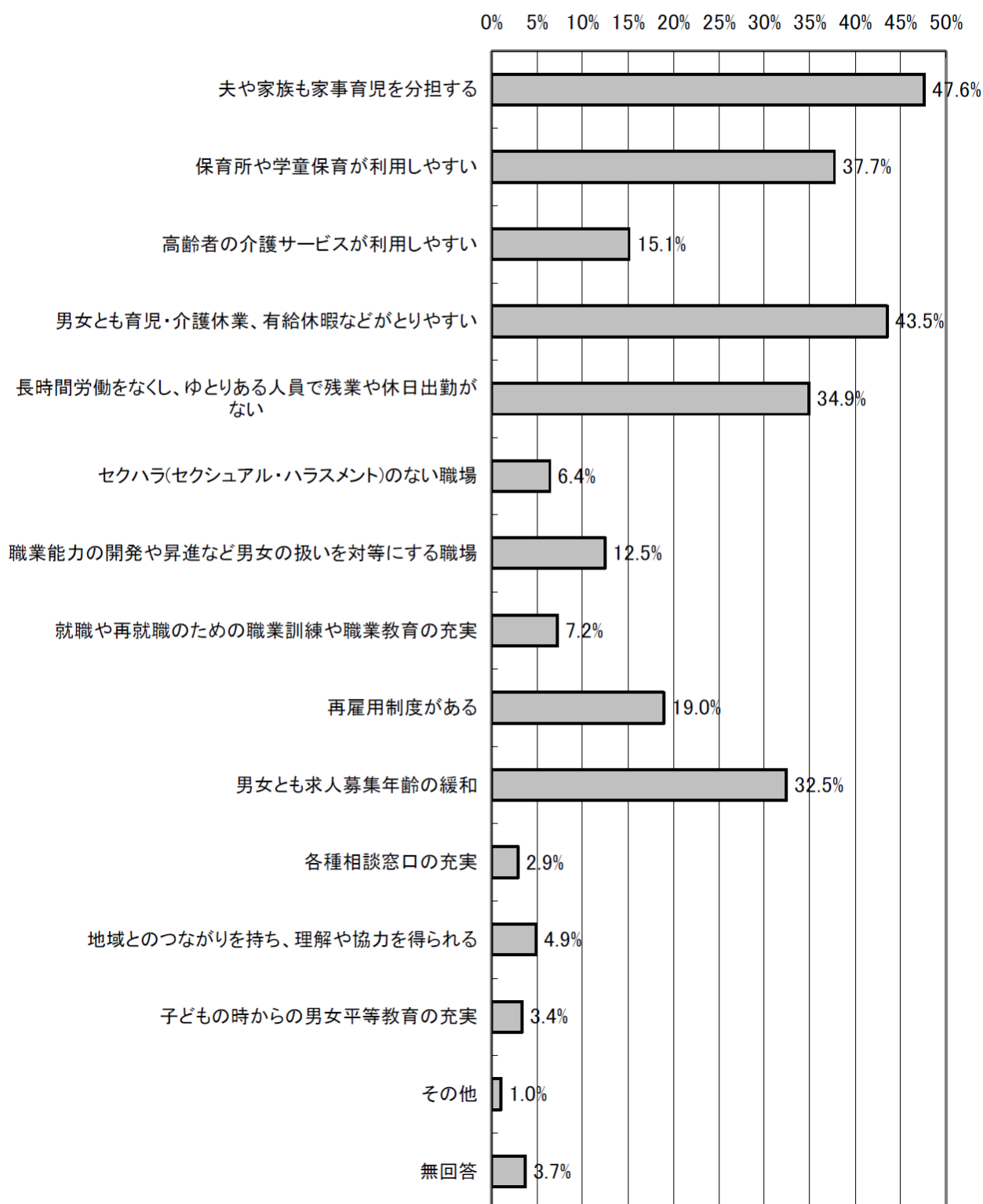
女性が働きやすい環境にするために必要なこと(性・年代別)

性・年代別にみると、女性では「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が30歳代を除き、どの年代でも最も割合が高くなっており、30歳代では「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が最も高くなっています。20歳代では、次いで「女性が育児休業を取得することへの理解」「男性が家事や育児参加することへの理解」が高いのが特徴となっています。40歳代と50歳代では、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が高くなっています。「女性が働き続けることへの家族の理解」が50歳代から70歳代で高い割合となっています。男性では「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」がどの年代でも高い割合となっています。20歳代では「女性が働き続けることへの男性の意識改革」が高いのが特徴となっています。



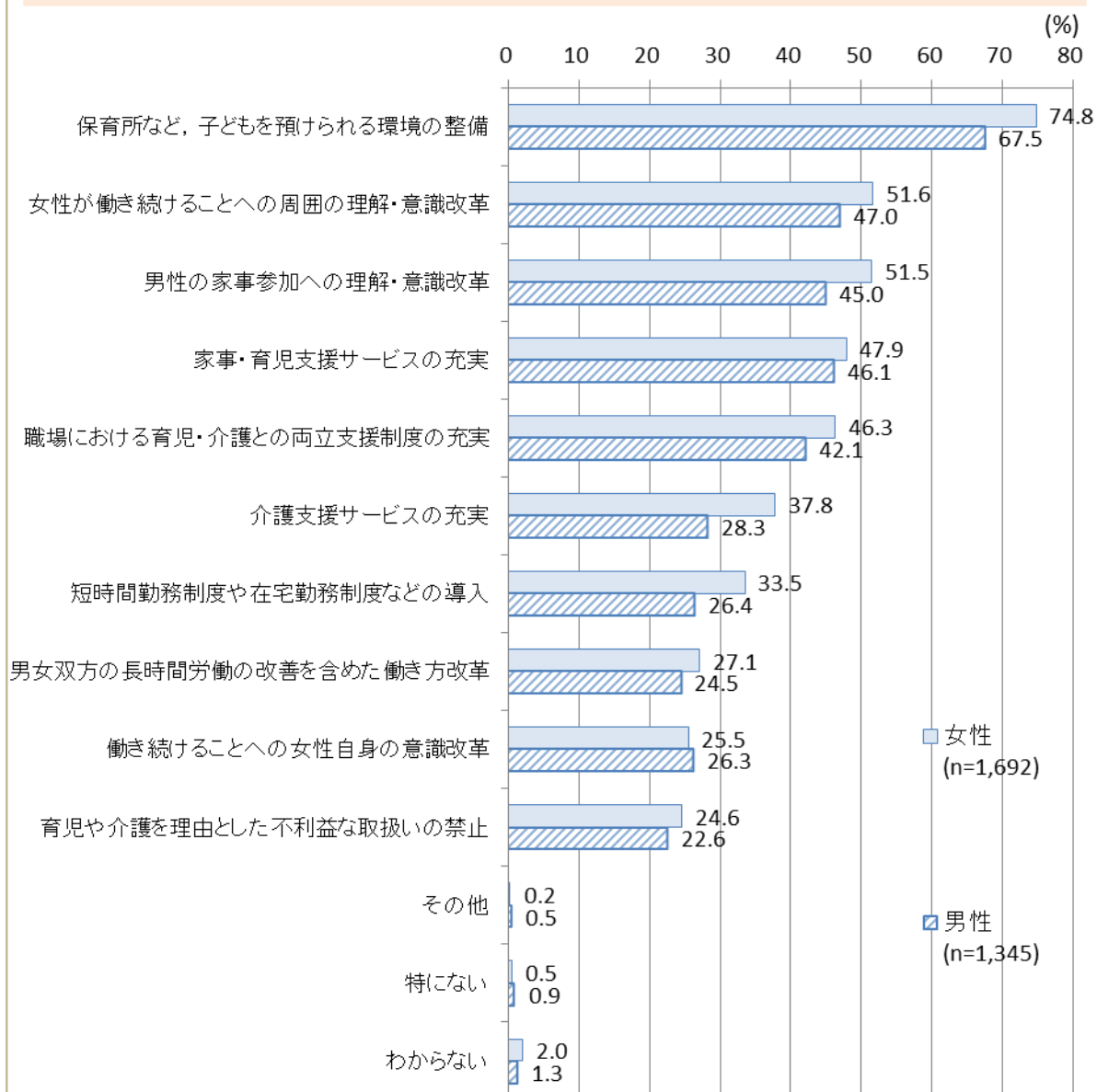
女性が働きやすい環境にするためには

N=859 M.T.=272.7%



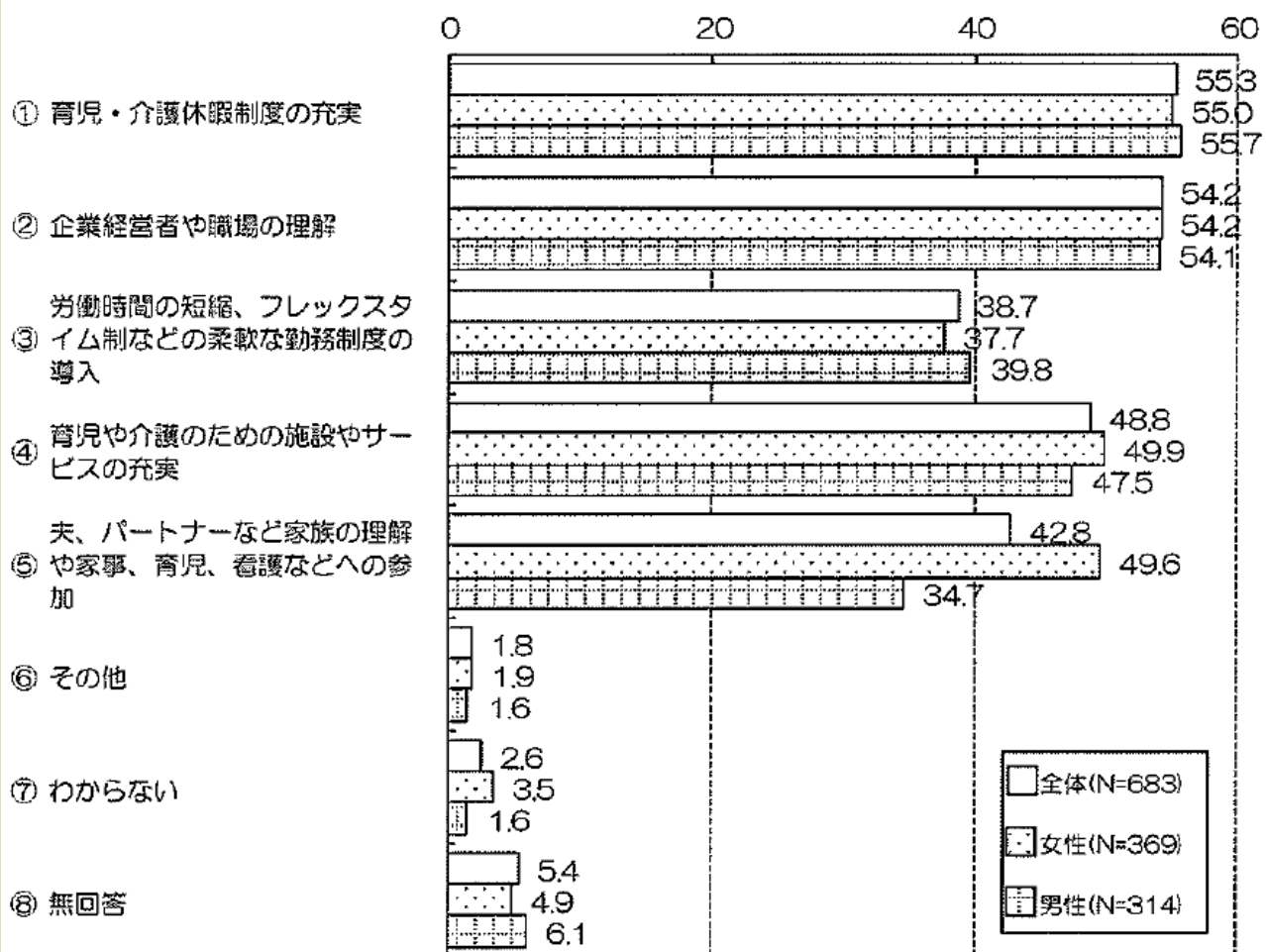
※今回(平成 28 年度)調査と選択肢が異なる。

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか



〔図表 5-6 女性が働き続けるために必要なこと(性別)〕

(単位: %)



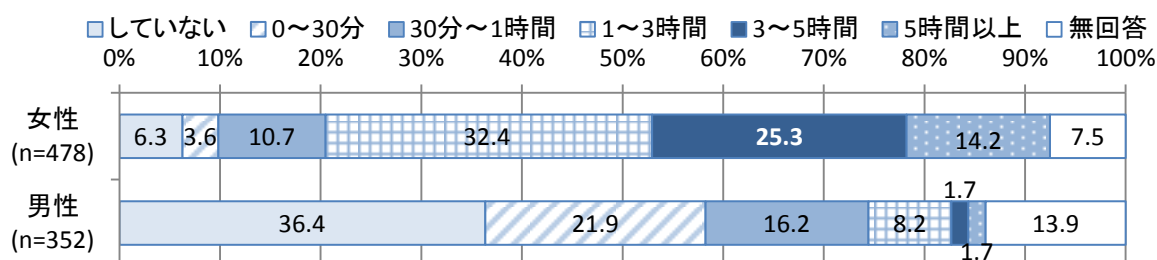
4 仕事と家庭生活について

Q19: 家庭において、あなたが家事・育児(孫の育児も含む)・介護に費やす時間は1日につきどのくらいですか。(①から⑥のそれぞれについて、1～6から1つずつ選んで○をつけてください)

【家事】

①平日(性別)

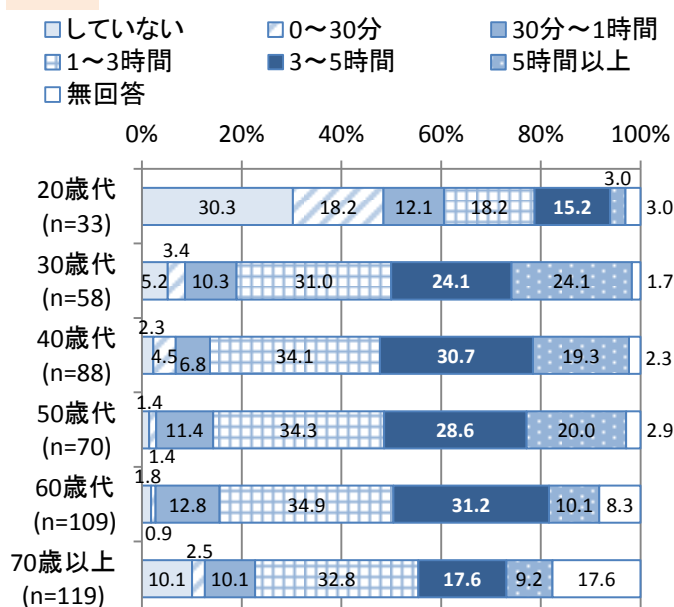
女性では、「1～3 時間」が 32.4%で最も高く、次いで「3～5 時間」が 25.3%となっています。男性では、「していない」が 36.4%で最も高く、次いで「0～30 分」が 21.9%となっています。



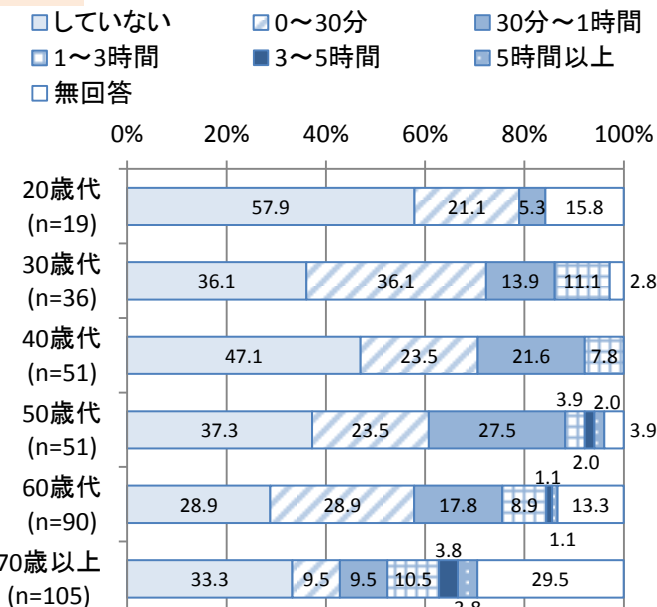
平日(性・年代別)

女性では、30 歳代以降で「1～3 時間」が最も割合が高く、次いで「3～5 時間」となっています。30 歳代では「5 時間以上」の割合が 24.1%と他の年代と比べると最も高くなっています。男性では、「していない」がすべての年代で最も高く、30 歳代では「0～30 分」が同じ割合で高く、50 歳代では「30 分～1 時間」が次いで高くなっています。

女性

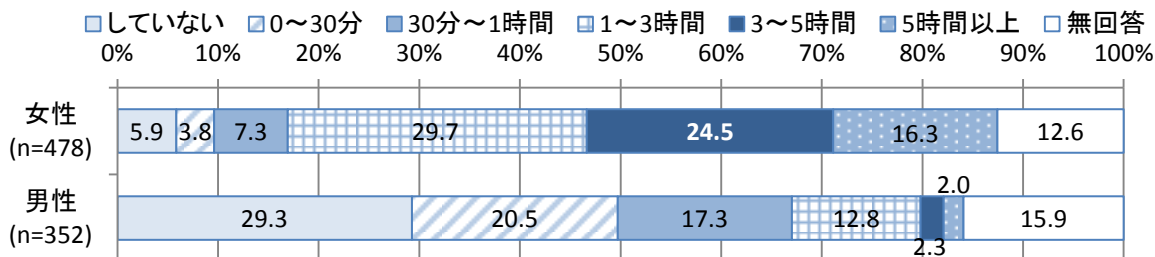


男性



②休日(性別)

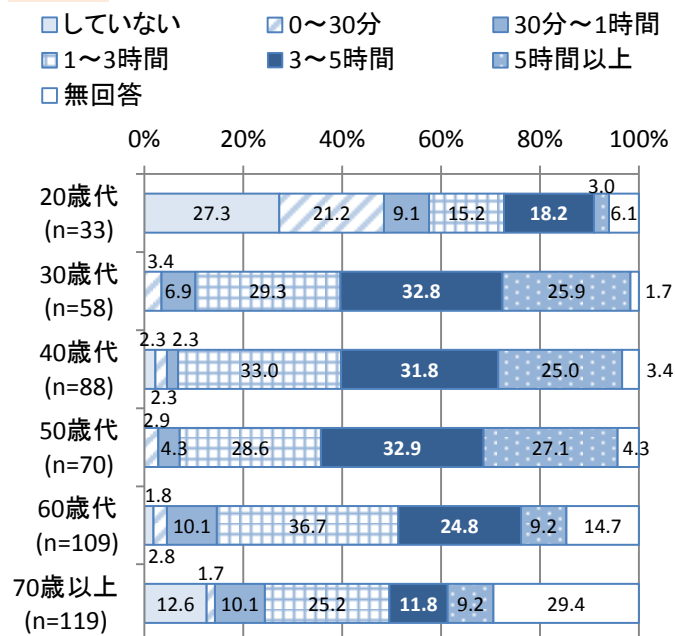
女性では「1～3 時間」が 29.7%と最も高く、次いで「3～5 時間」が 24.5%、「5 時間以上」が 16.3%の順となっています。男性では、「していない」が 29.3%と最も高く、次いで「0～30 分」が 20.5%、「30 分～1 時間」が 17.3%の順となっています。



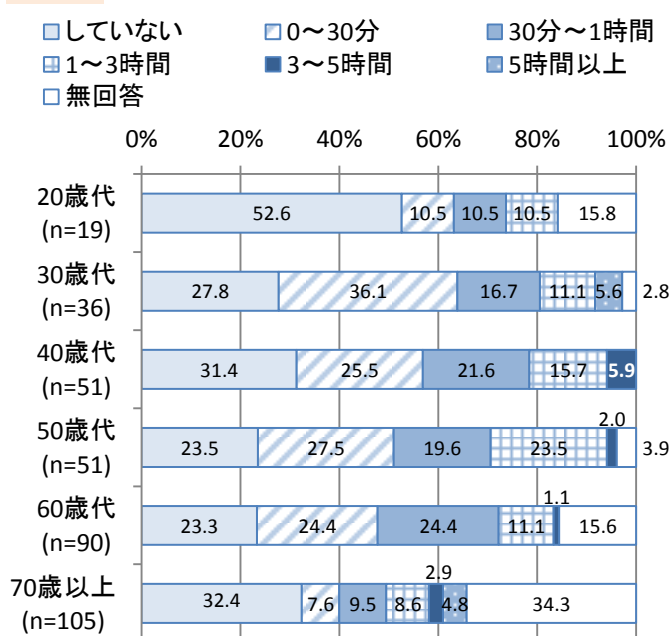
休日(性・年代別)

女性では、30 歳代から 50 歳代で「3～5 時間」と「5 時間以上」の合計が6割を占めています。男性では、20 歳代から 50 歳代で「していない」と「0～30 分」の合計が6割を占めており、50 歳代と 60 歳代で5割を占めています。

女性



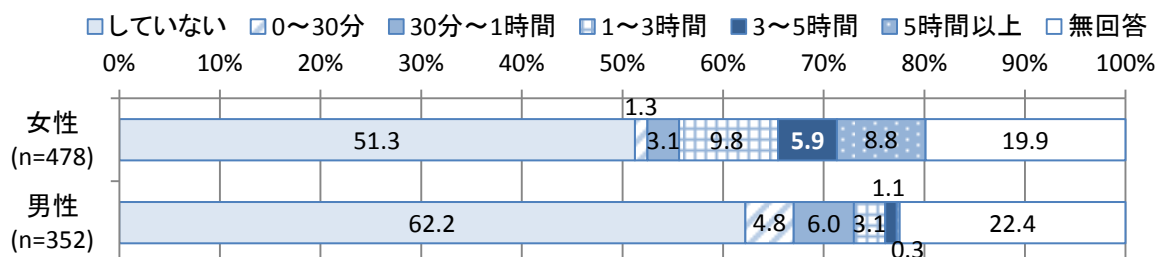
男性



【育児】

③平日(性別)

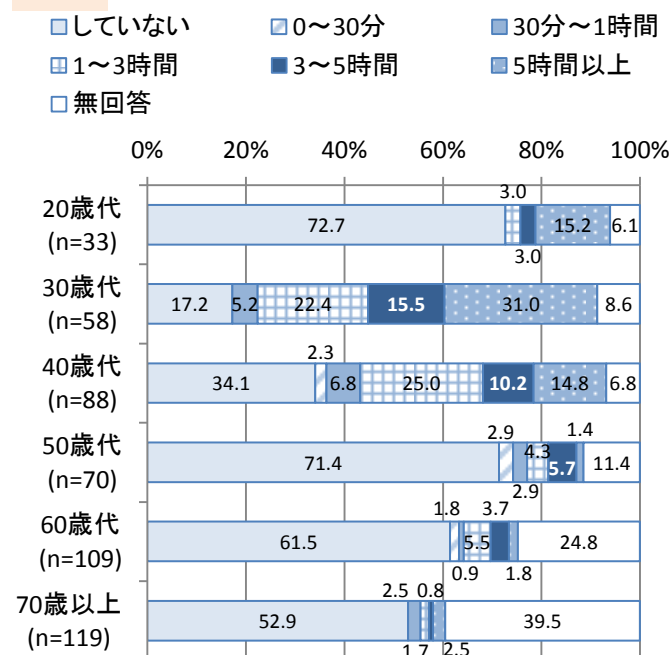
「していない」が、女性で51.3%、男性で62.2%と最も高くなっています。女性で「3 時間以上」育児をする割合は 14.7%、男性で「30 分以上」育児をする割合は 10.5%となっています。「していない」割合が高いのは、未就学児の末子がいる人の割合が全体の 7.8%ということが影響しています。



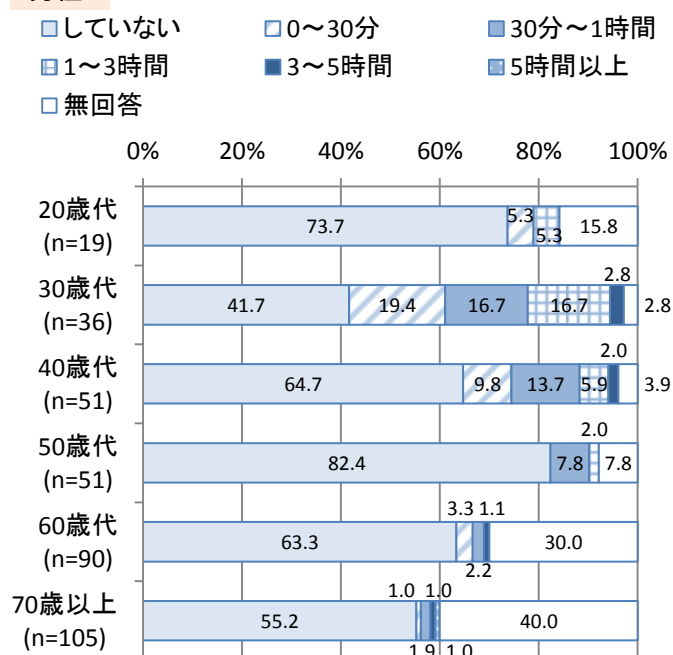
平日(性・年代別)

女性では、「3 時間以上」育児をする割合が、30 歳代で 46.5%、40 歳代で 25%となっています。男性では、「30 分以上」育児をする割合が、20 歳代で 5.3%、30 歳代で 36.2%、40 歳代で 21.6%となり、特に 30 歳代で高い割合となっています。

女性

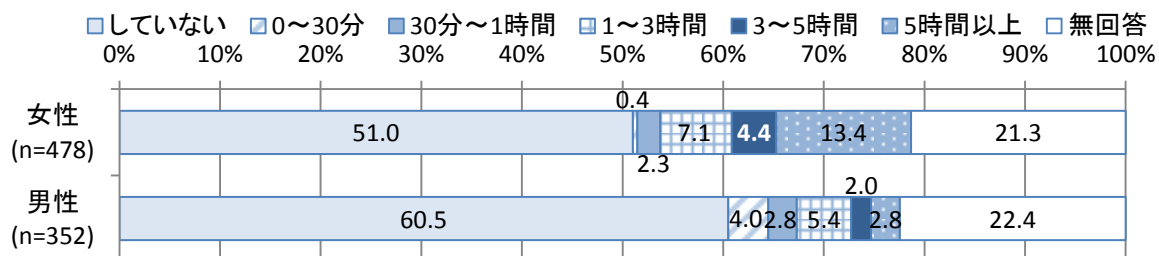


男性



④休日(性別)

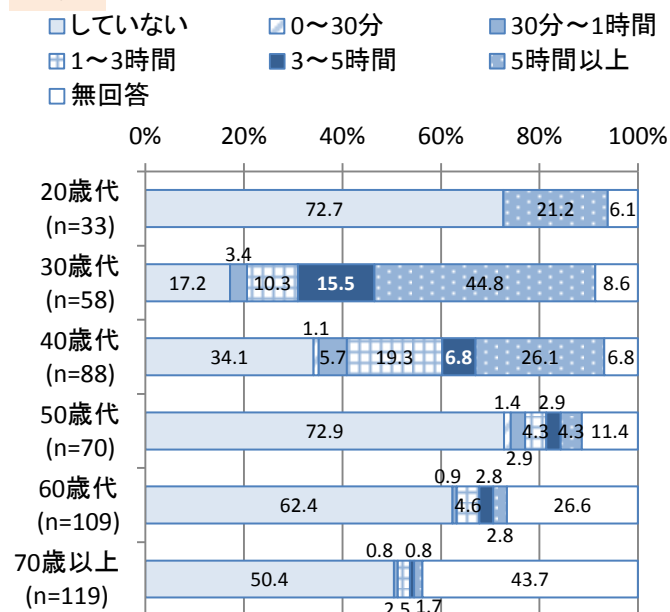
「していない」が、女性で51.0%、男性で60.5%と最も高くなっています。女性で「3 時間以上」育児をする割合は 17.8%、男性で「30 分以上」育児をする割合は 13.0%となっています。



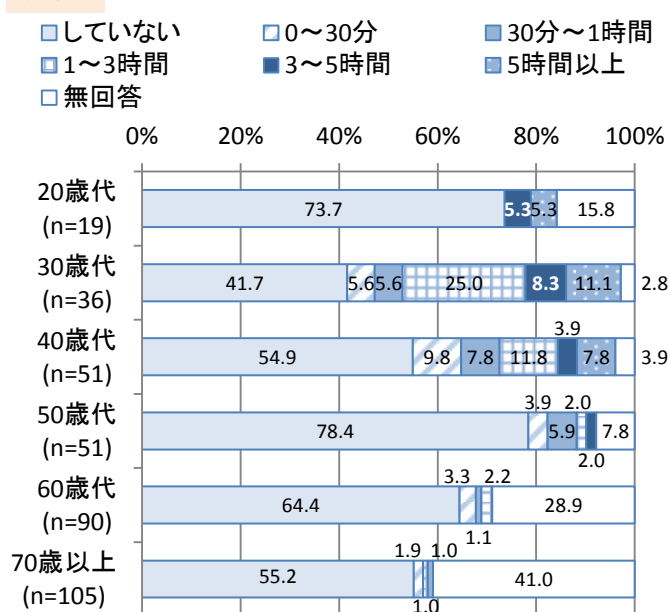
休日(性・年代別)

女性では、「3 時間以上」育児をする割合が、30 歳代で 60.3%、40 歳代で 32.9%となっています。男性では、「30 分以上」育児をする割合が、20 歳代で 10.6%、30 歳代で 50.0%、40 歳代で 31.3%となっており、特に 30 歳代で高い割合となっています。

女性



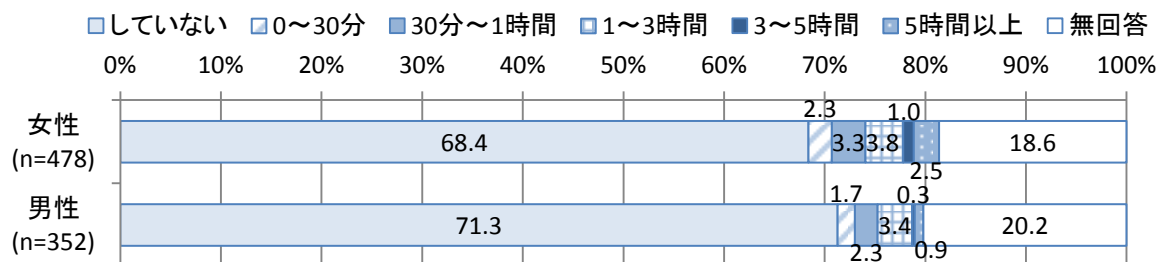
男性



【介護】

⑤平日(性別)

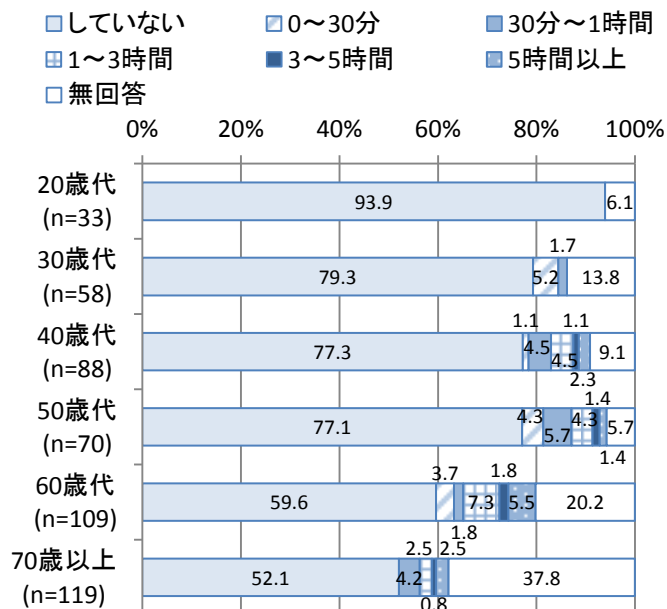
男女とも「していない」が、それぞれ 68.4%と 71.3%と最も高くなっています。女性で「30 分以上」介護をする割合は 10.6%、男性で「30 分以上」介護をする割合は 6.9%となっています。



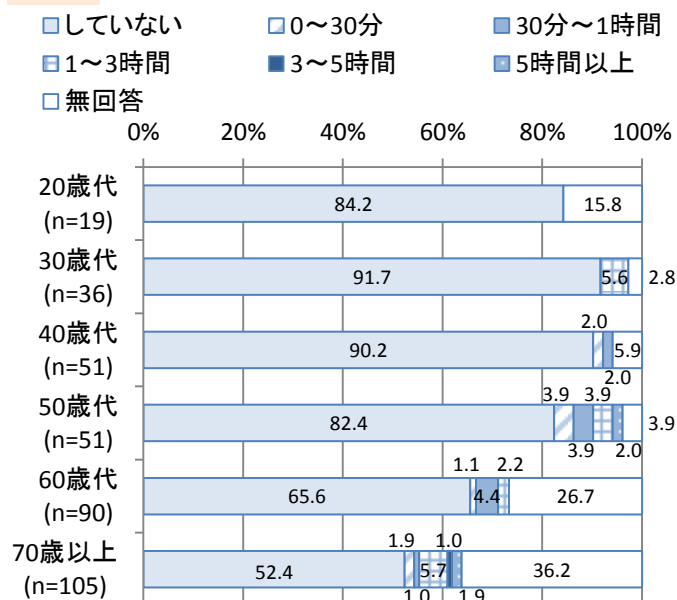
平日(性・年代別)

女性では、「30 分以上」介護をする割合が、40 歳代で 12.4%、50 歳代で 12.8%、60 歳代で 16.4%、70 歳代で 10.0%となっています。男性では、「30 分以上」介護をする割合が、50 歳代で 9.8%、60 歳代で 6.6%、70 歳代で 9.6%となっています。

女性

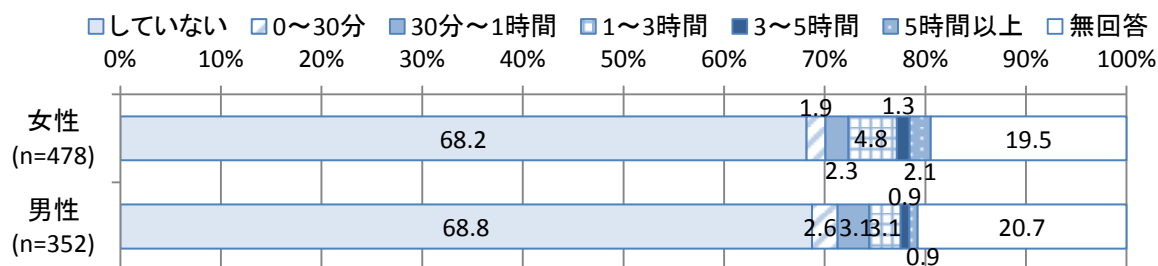


男性



⑥休日(性別)

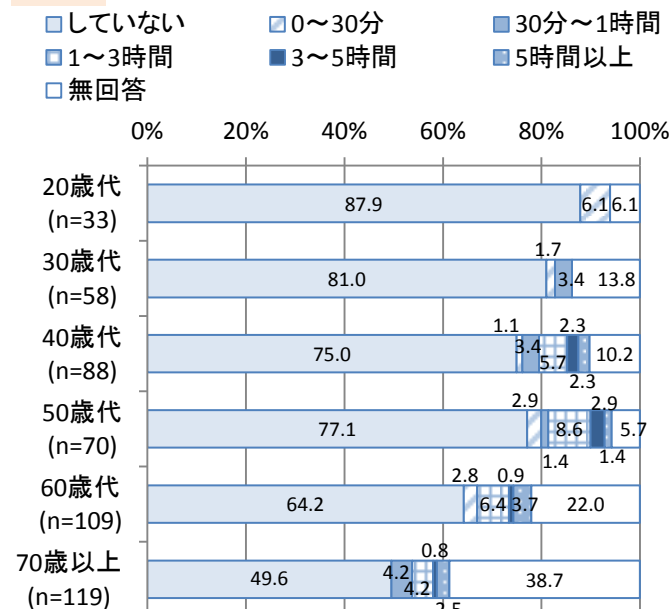
男女とも「していない」が、それぞれ 68.2%と 68.8%と最も高くなっています。女性で「30 分以上」介護をする割合は 10.5%、男性で「30 分以上」介護をする割合は 8.0%となっています。



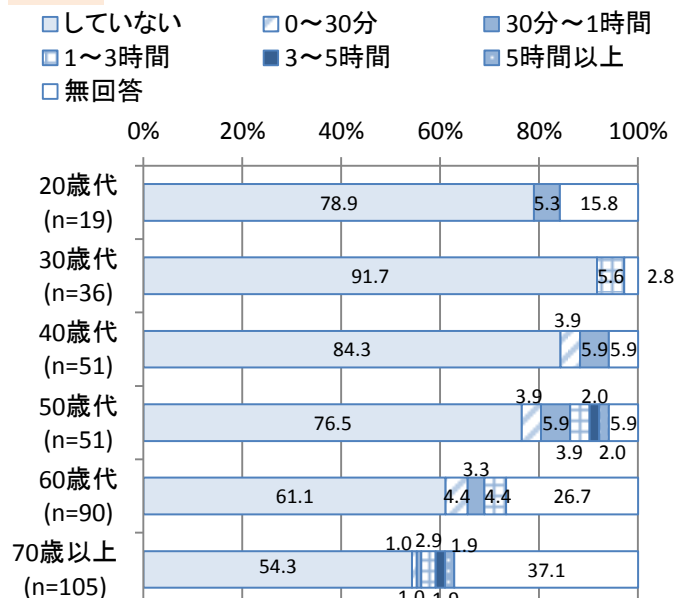
休日(性・年代別)

女性では、「30分以上」介護をする割合が、40歳代で13.7%、50歳代で14.3%、60歳代で11.0%、70歳代で11.7%となっています。男性では、「30分以上」介護をする割合が、50歳代で13.8%、60歳代で7.7%、70歳代で7.7%となっています。

女性



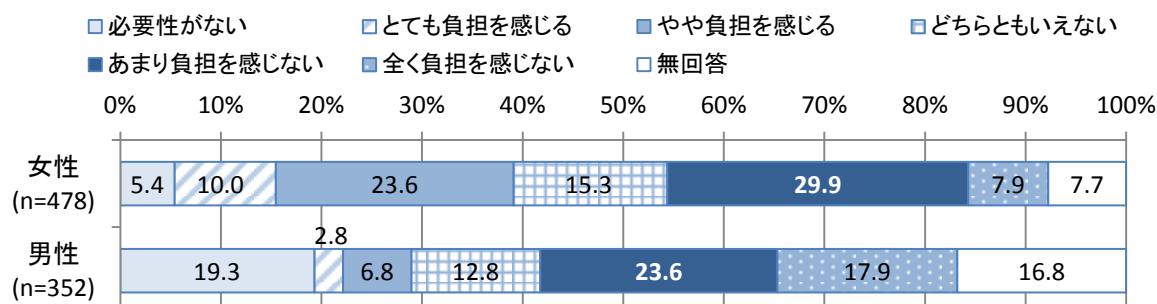
男性



Q20-1:あなたはふだん、家事・育児・介護に対して負担を感じていますか。(①から③のそれぞれについて、1~6から1つずつ選んで○をつけてください)

①家事(性別)

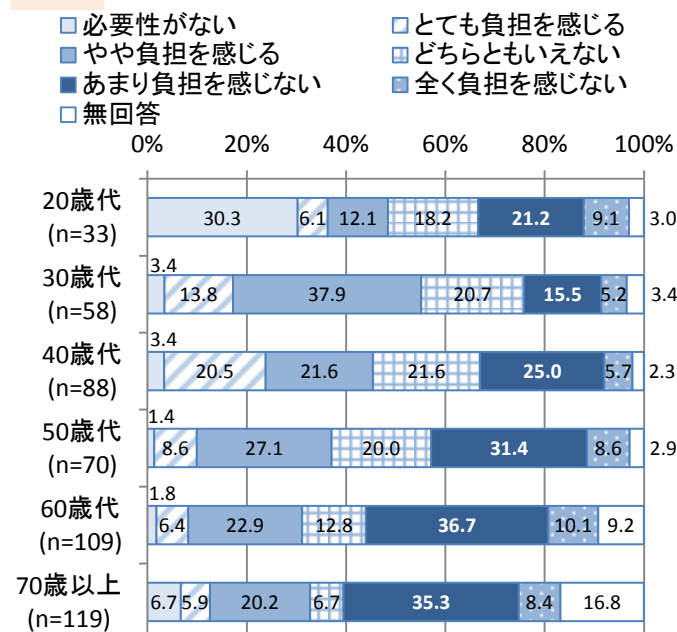
女性では、「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)が33.6%、「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)が37.8%となっています。特に「とても負担を感じる」が10.0%となっています。男性では、「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)が9.6%、「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)が41.5%となっています。



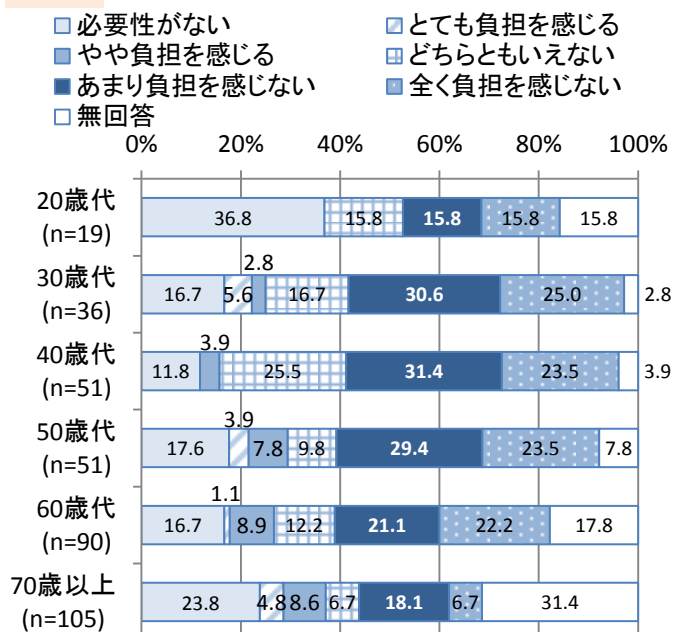
家事(性・年代別)

女性では、30 歳代と 40 歳代で「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)割合が、「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)割合より高くなっています。50 歳代から 70 歳代で「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)割合が、「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)割合より高くなっています。男性では、すべての年代で、「負担を感じない」割合のほうが高くなっています。

女性

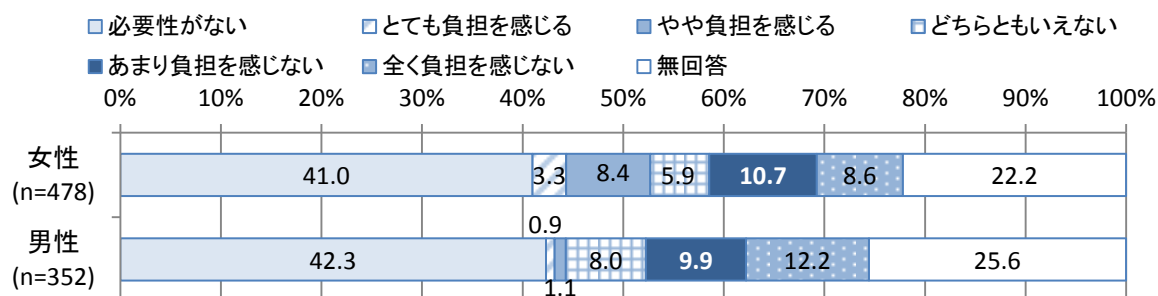


男性



②育児(性別)

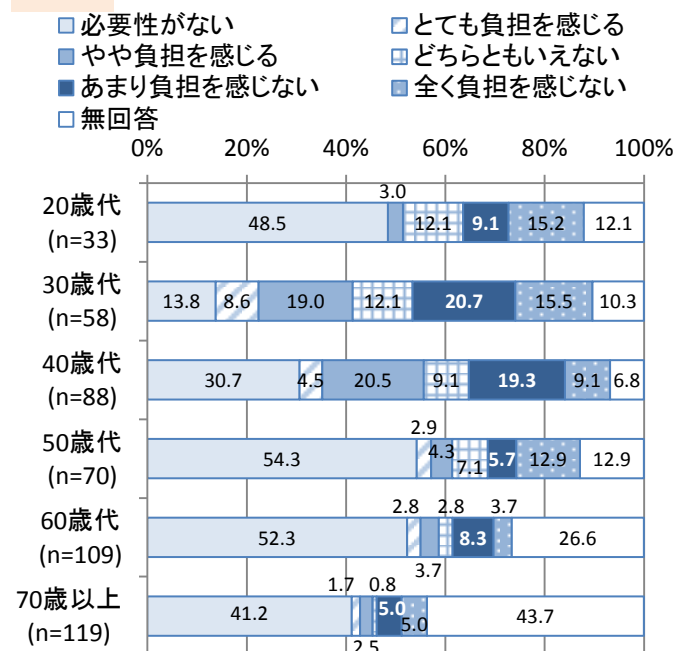
男女とも、「必要がない」割合が最も高くなっています。女性では、「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)が 11.7%、「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)が 19.3%となっています。男性では、「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)が 2.0%、「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)が 22.1%となっています。



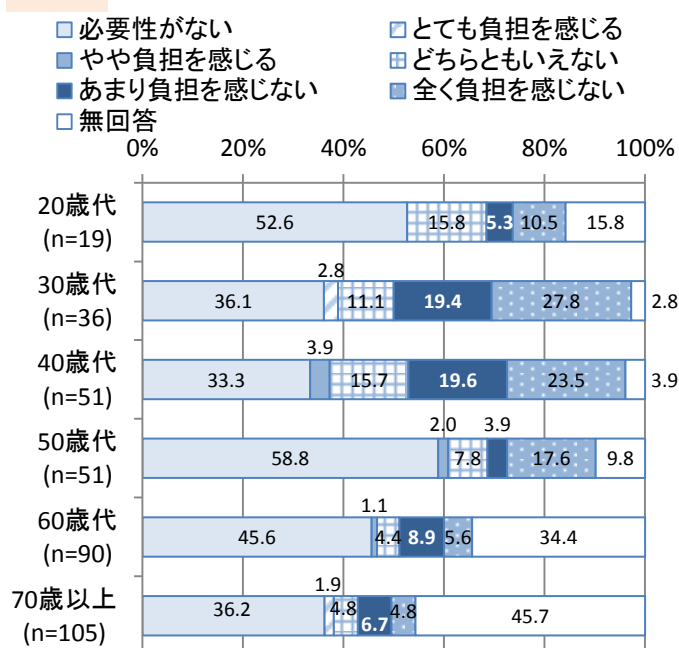
育児(性・年代別)

女性では、30 歳代で「必要性がない」が 13.8%と他の年代より低く、「負担を感じる」割合が他の年代より高くなっています。男性では、「負担を感じる」割合が、すべての年代において低くなります。

女性

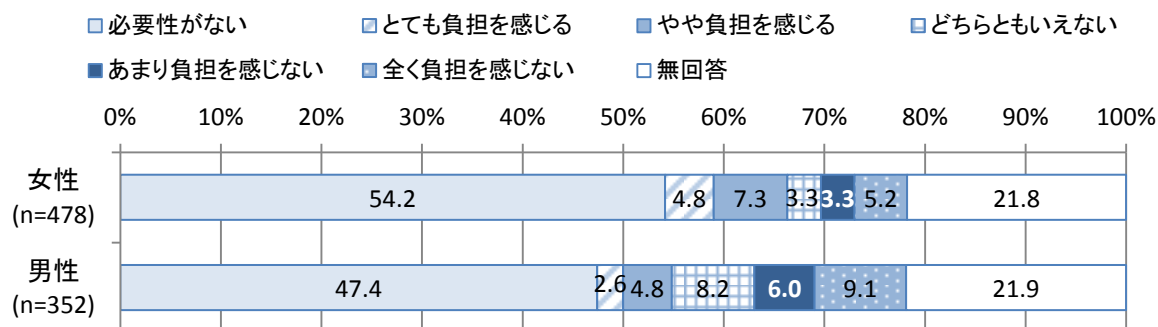


男性



③介護(性別)

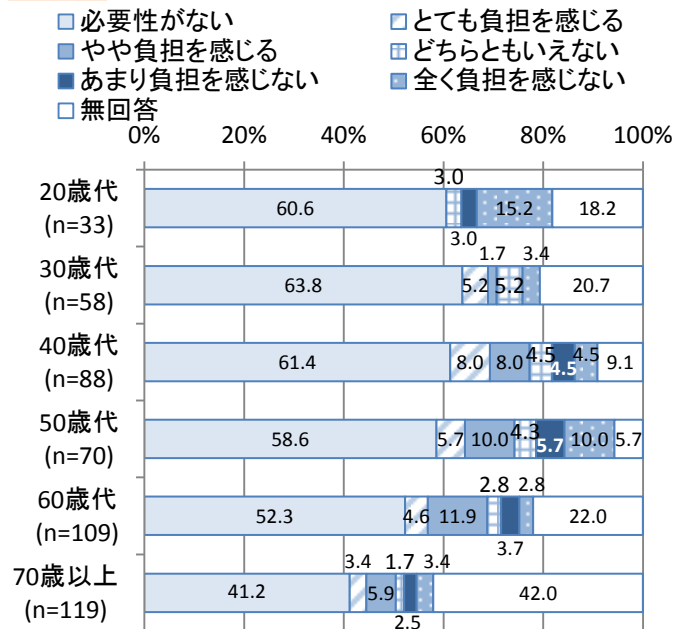
男女とも、「必要性がない」割合が最も高くなっている。女性では、「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)が 12.1%、「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)が 8.5%となっています。男性では、「負担を感じる」(「とても負担を感じる」と「やや負担を感じる」の合計)が 7.4%、「負担を感じない」(「あまり負担を感じない」と「全く負担を感じない」の合計)が 15.1%となっています。



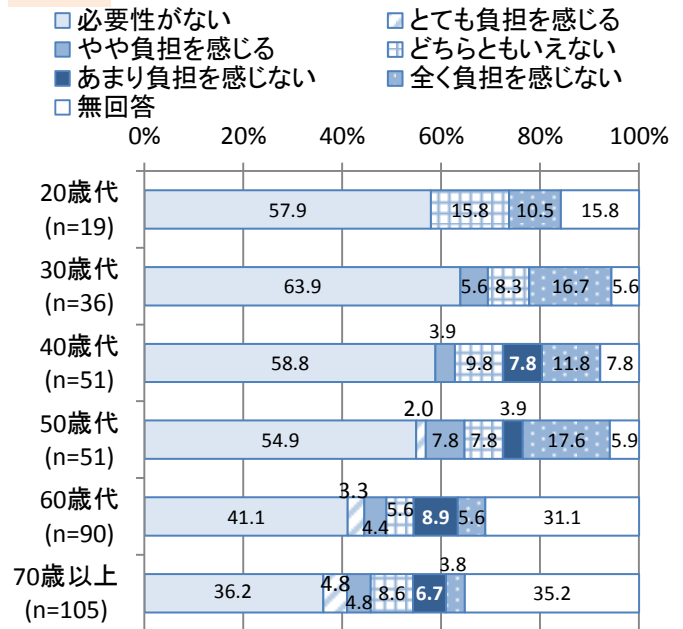
介護(性・年代別)

男女とも、年代があがるにつれ「必要性がない」は減少しています。女性では、30 歳代、40 歳代、60 歳代、70 歳代で「負担を感じる」割合が、「負担を感じない」割合より高くなっています。男性では、すべての年代で、「負担を感じない」割合が「負担を感じる」割合より高くなっています。

女性



男性

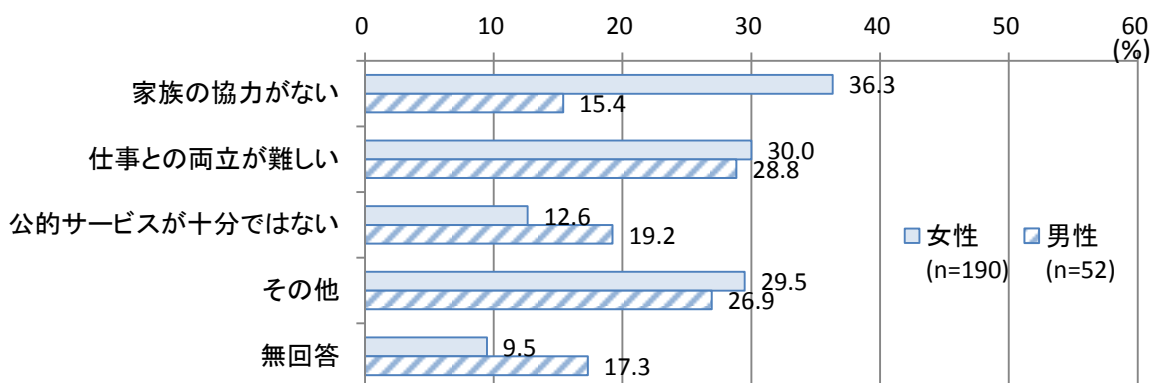


Q20-2: Q20-1 でひとつでも「2: とても負担を感じる」「3: やや負担を感じる」に○をつけた方におうかがいします。それはなぜですか。

負担を感じる理由(性別)

女性では「家族の協力がいない」という理由の割合が高い

女性では、「家族の協力がいない」が 36.3%と最も高く、男性では、「仕事との両立が難しい」が 28.8%と最も高くなっています。「家族の協力がいない」は男女の差が 20.9 ポイントと最も大きくなっています。

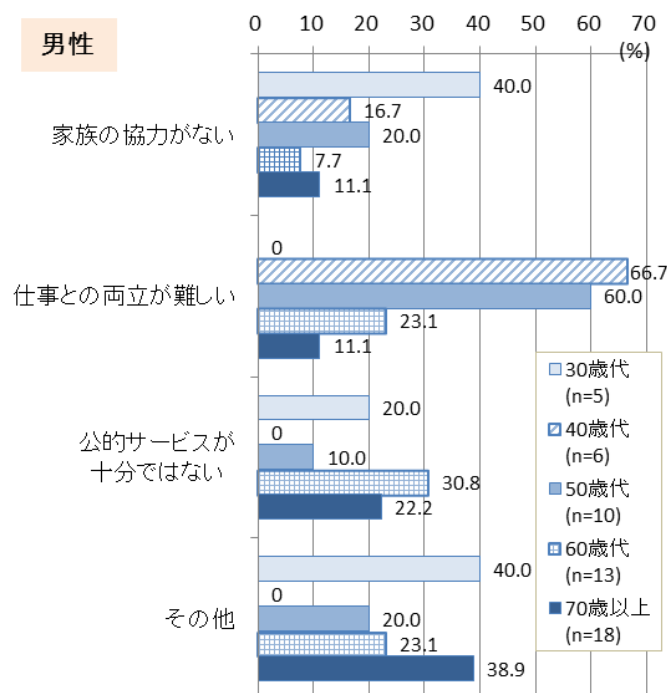
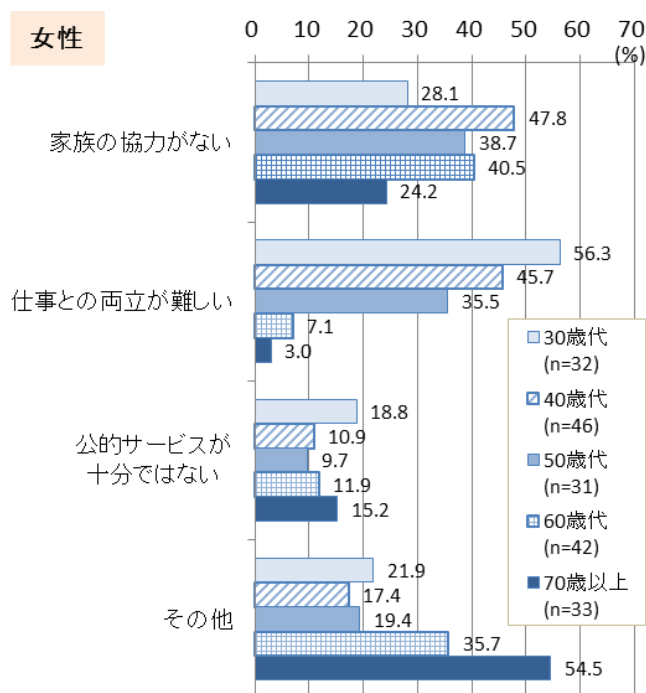


負担を感じる理由(性・年代別)

女性では「仕事との両立が難しい」と感じる割合が高い

女性では、30 歳代で「仕事との両立が難しい」が 56.3%と最も高くなっています。40 歳代、50 歳代、60 歳代では、「家族の協力がいない」が最も高くなっています。

※男性については、有効回答数が少ないため参考とする。

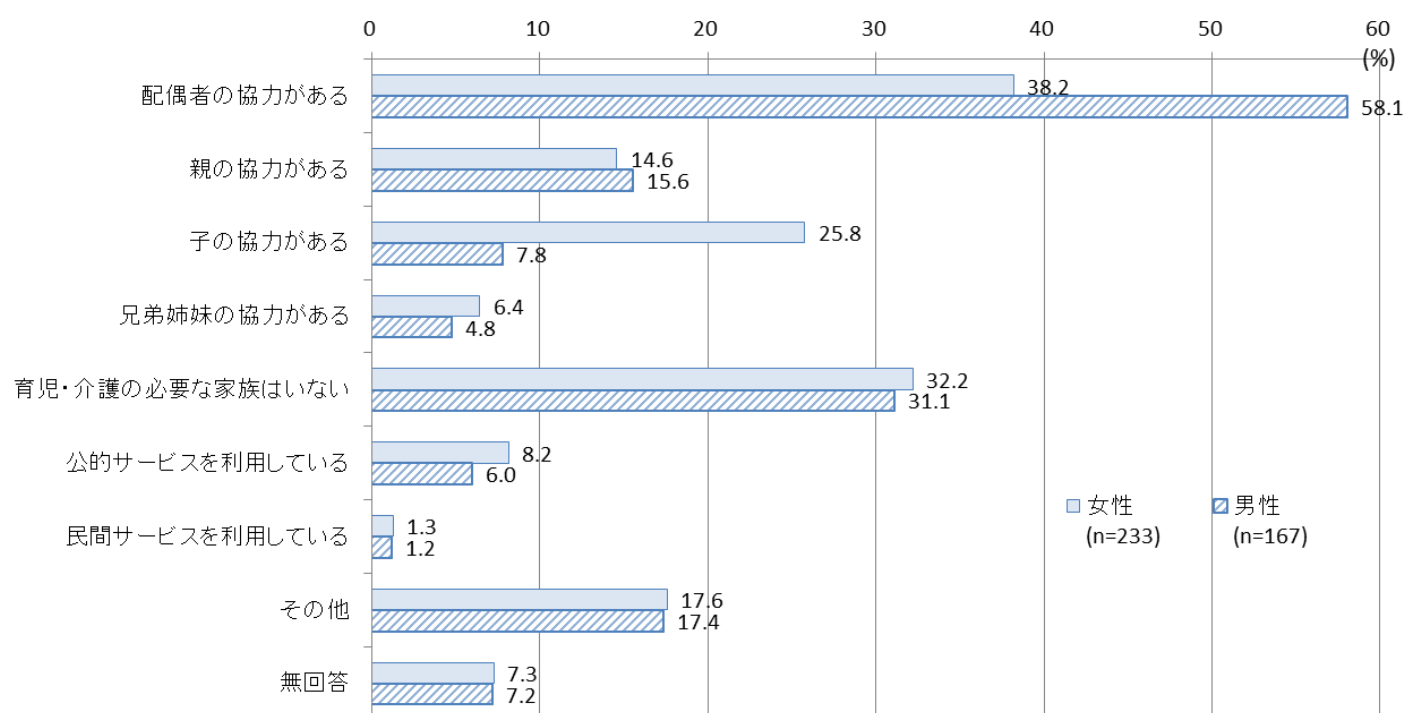


Q20-3: Q20-1でひとつでも「5:あまり負担を感じない」「6:全く負担を感じない」に○をつけた方におうかがいします。それはなぜですか。

負担を感じない理由(性別)

「配偶者の協力がある」という理由は女性より男性の方が多い

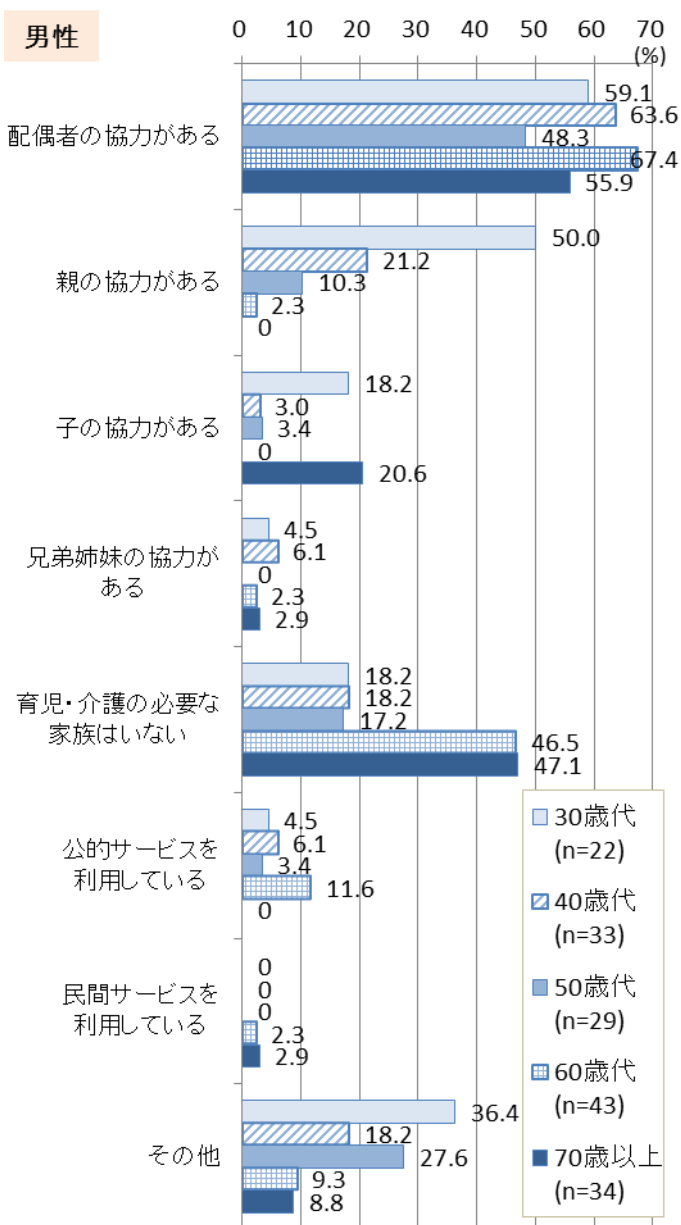
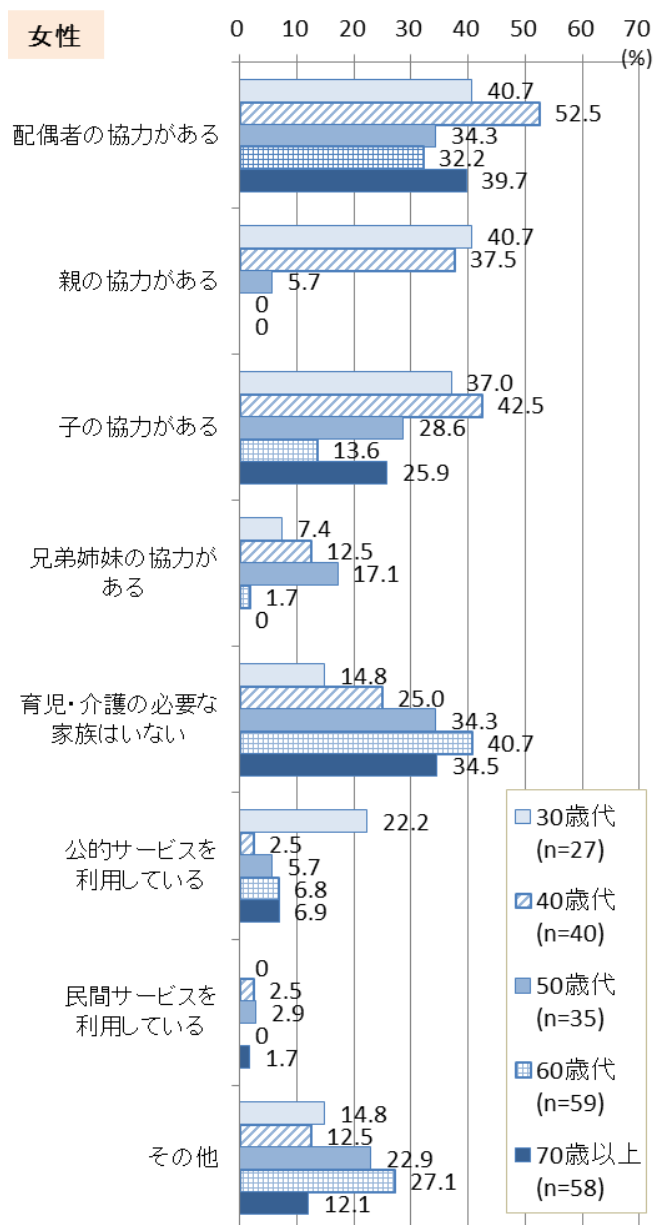
「配偶者の協力がある」が、女性で 38.2%、男性で 58.1%と最も高く、次いで「育児・介護の必要な家族はいない」が女性で 32.2%、男性で 31.1%となっています。「配偶者の協力がある」と答えた男女の差は 19.9 ポイントと大きくなっています。女性では、「子の協力がある」が 25.8%と、男性の 7.8%と差が 18 ポイントと大きくなっています。



負担を感じない理由(性・年代別)

男性は「配偶者の協力がある」という理由の割合が高い

女性では、30 歳代では「配偶者の協力がある」と「親の協力がある」が 40.7%と最も高くなっていて、40 歳代では「配偶者の協力がある」が 52.5%で最も高く、次いで「子の協力がある」が 42.5%となっています。50 歳代から 70 歳代では、「配偶者の協力がある」と「育児・介護の必要な家族はいない」割合が高くなっています。男性では、すべての年代で「配偶者の協力がある」が最も高くなっています。30 歳代で「親の協力がある」割合が高くなっています。60 歳代と 70 歳代で「育児・介護の必要な家族はいない」割合が高くなっています。

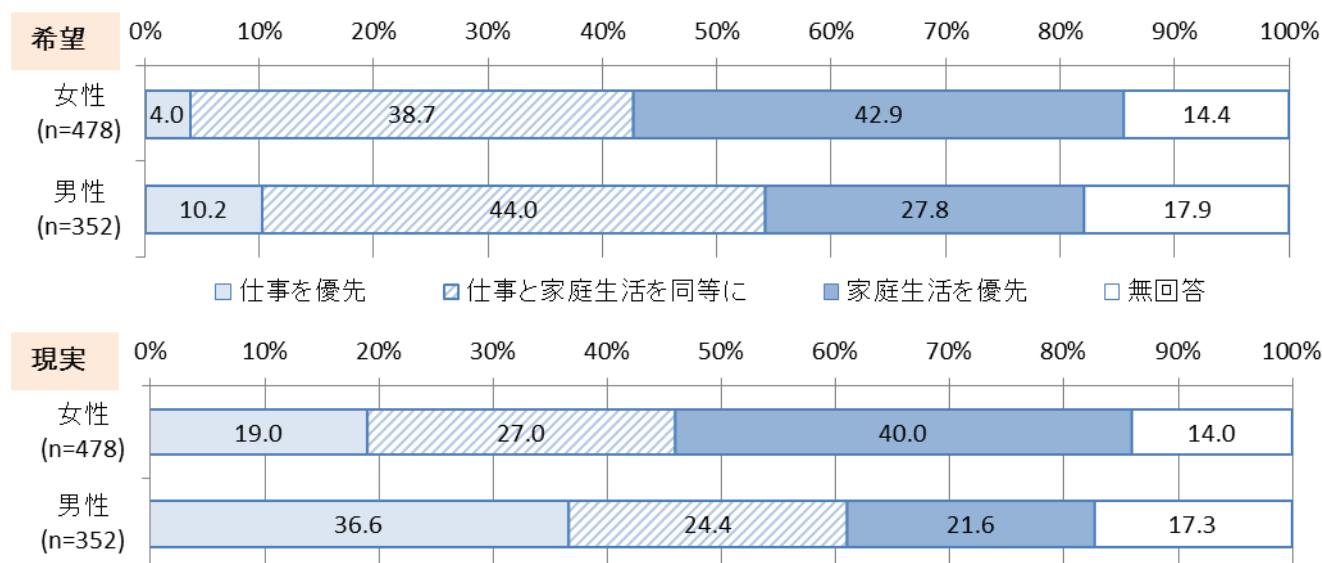


Q21:生活の中での「仕事」「家庭生活」の優先度について、あなたの「①希望」と「②現実(現状)」に最も近いものをお答えください。(①、②のそれぞれについて、1～3から1つずつ選んで○をつけてください)

① 希望と現実(現状)(性別)

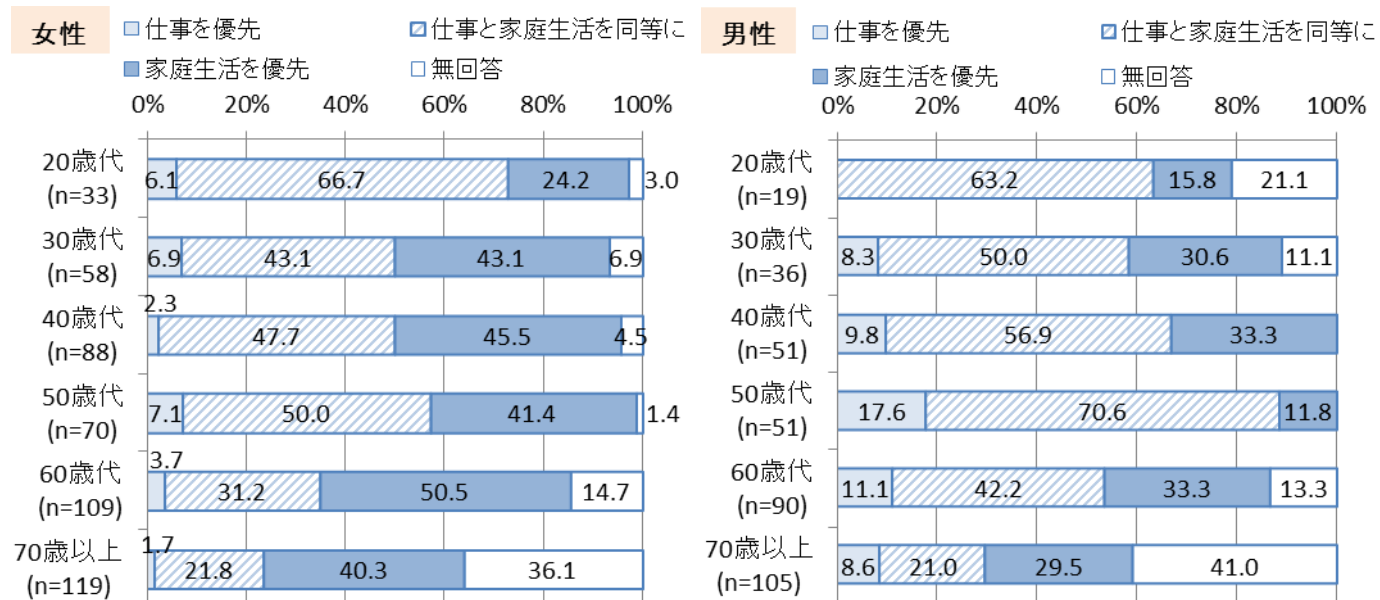
希望では「仕事と家庭生活を同等に」が現実では「仕事を優先」している。

女性は希望では、「家庭生活を優先に」が 42.9%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活を同等に」が 38.7%となっています。現実では、「家庭生活を優先に」は 40.0%であり変化はありませんが、「仕事を優先」は希望では 4.0%が現実では 19.0%と高くなり、「仕事と家庭生活を同等に」は希望では 38.7%が現実では 27.0%と低くなっています。男性は希望では、「仕事と家庭生活を同等に」が 44.0%と最も高くなっていますが、現実では「仕事を優先」が 36.6%と最も高くなっています。



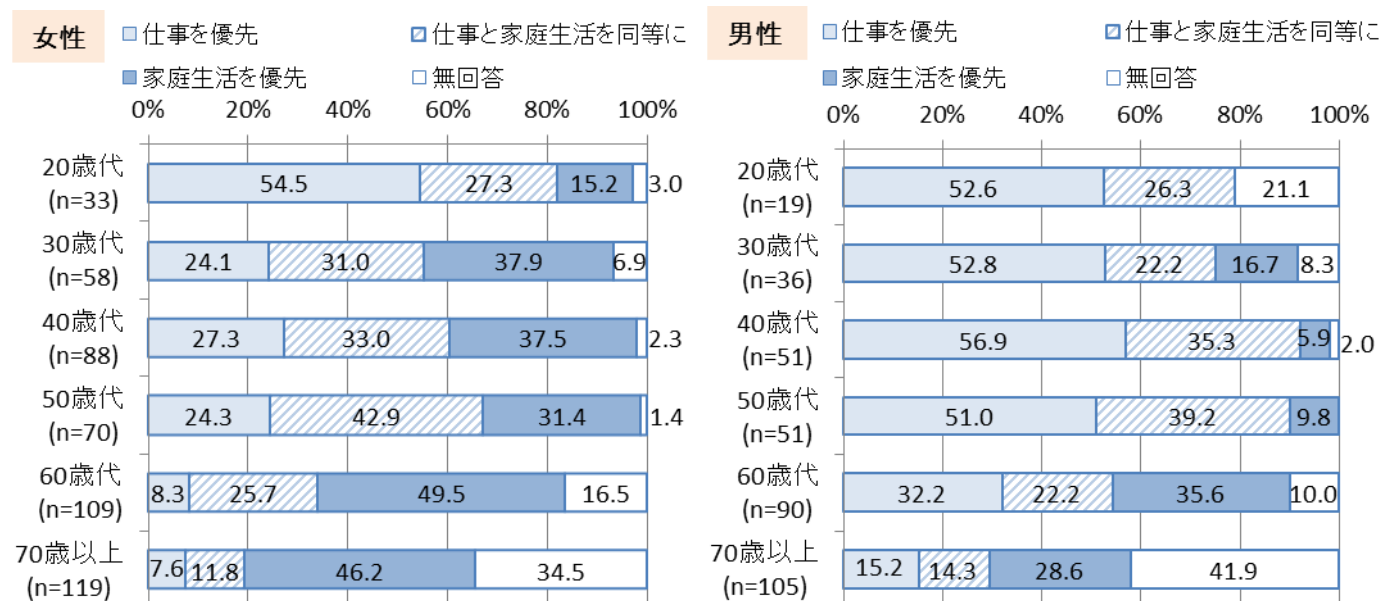
①希望(性・年代別)

女性では、20歳代で「仕事と家庭生活を同等に」が66.7%と高くなっています。30歳代から50歳代では、「仕事と家庭生活を同等に」と「家庭生活を優先」にそれほど差はありません。60歳代と70歳以上では「家庭生活を優先」の割合が高くなっています。男性では、20歳代から60歳代まで「仕事と家庭生活を同等に」の割合が最も高くなっていますが、70歳以上では「家庭生活を優先」の割合が最も高くなっています。また50歳代で「仕事を優先」が17.6%と他の年代より高くなっています。



②現実(現状)(性・年代別)

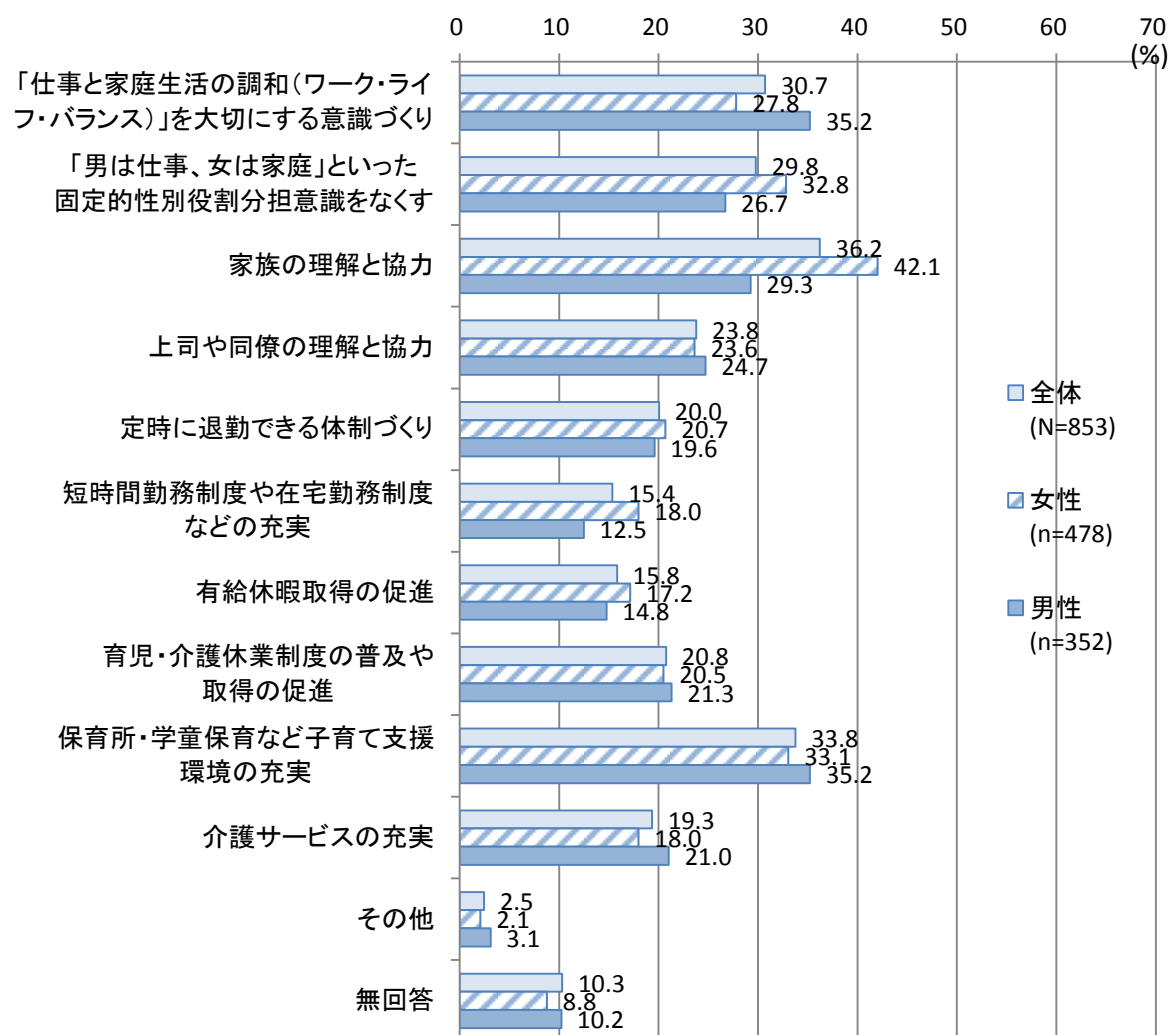
女性では、すべての年代で希望より「仕事を優先」する割合が高くなっています。特に20歳代では「仕事を優先」が54.5%と高くなっています。男性では、20歳代から50歳代まで「仕事を優先」が5割を占めており、希望と現実のギャップが大きくなっています。



Q22:今後、男女がともに「仕事」と「家庭生活」の調和を図るためには、特にどんなことが必要だと思いますか。(当てはまるもの3つまで○をつけてください)

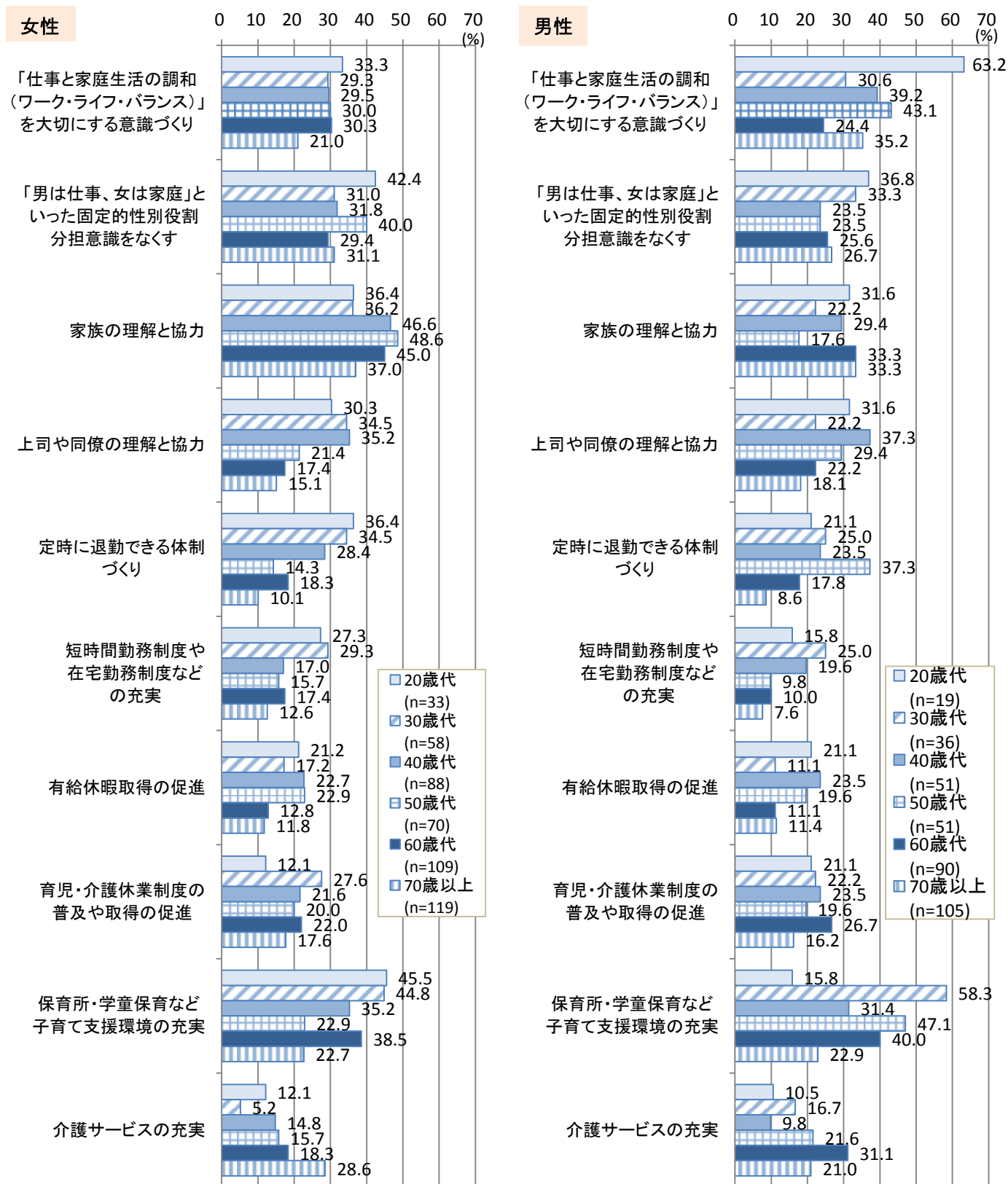
仕事と家庭生活の調和を図るために必要なこと(全体・性別)

全体では、「家族の理解と協力」が 36.2%で最も高く、次いで「保育所・学童保育など子育て支援環境の充実」が 33.8%となっています。女性では、「家族の理解と協力」が 42.1%で最も高く、次いで「保育所・学童保育など子育て支援環境の充実」が 33.1%となっています。男性では、「仕事と家庭生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」を大切にする意識づくり」と「保育所・学童保育など子育て支援環境の充実」が 35.2%と最も高く、次いで「家族の理解と協力」が 29.3%となっています。



仕事と家庭生活の調和を図るために必要なこと(性・年代別)

女性では、20 歳代と 30 歳代では「保育所・学童保育などの子育て支援環境の充実」の割合が最も高く、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳代では「家族の理解と協力」の割合が最も高くなっています。20 歳代では、次いで「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識をなくす」が割合が高くなっており、30 歳代では、次いで「家族の理解と協力」の割合が高くなっています。男性では、20 歳代と 40 歳代で「仕事と家庭生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を大切にする意識づくり」の割合が最も高く、30 歳代と 50 歳代、60 歳代で「保育所・学童保育などの子育て支援環境の充実」の割合が最も高くなっています。



Ⅲ 自由意見

自由意見をまとめると、次のような分類となります。

1 子育て支援環境の充実について

- ・保育所や学童保育の利用に関する意見(7 件)
- ・保育所や学童保育の整備・充実(11 件)
- ・待機児童の解消(4 件)
- ・子どもの教育に関する意見(4 件)
- ・子どもの居場所や安心して預けられる所についての意見(3 件)
- ・子育て支援全般ほか(3 件)

2 就労状況や職場環境について

- ・就労の現状について(14 件)
- ・女性が働きやすい職場環境づくりについて(24 件)
- ・男性が家事や育児参加するために必要なこと(5 件)
- ・高齢者の雇用に関する意見(2 件)
- ・就労状況、職場環境改善のための職場での取り組みについて(4 件)

3 仕事と家庭生活に関する意識について

- ・固定的性別役割分担意識をなくす(7 件)
- ・男性には男性の役割、女性には女性の役割がある(4 件)
- ・男性だから、女性だからと区別する必要はない(3 件)
- ・ワーク・ライフ・バランスを大切にするための意識改革(5 件)

4 市政について

- ・男女共同参画施策に関する意見(2 件)
- ・子育て支援に関する意見(4 件)
- ・市政全般に関する意見(4 件)
- ・道路や公共交通の整備に関する意見(3 件)
- ・税金の徴収、有効活用に関する意見(4 件)
- ・その他の意見(5 件)

5 その他

- ・意識調査に関する意見(53 件)
※53 件の中には、働いていないことや高齢のため回答できないという意見も含まれています。
- ・その他の意見(12 件)

IV 調査結果から見えるもの

1 就労状況について

今回の調査で、年収を性別で見ると、女性では「200万円未満」が57.7%と最も高く、一方男性では「500万円以上」が31.5%となっています。このような男女での違いの背景には、労働時間や勤続年数、雇用形態など就労状況に差があることが要因となっています。

男性が女性より圧倒的に長時間労働をしているのが現状で、「週60時間以上」の長時間労働も15.5%となっています。勤続年数は、男性の方が長くなっています。初めて就職した時の雇用形態では、性別による差はあまり大きくなく、正規雇用の割合が、女性で74.7%、男性で80.1%と最も高くなっています。現在の正規雇用の割合は、女性で約3割に対して男性は約6割、非正規雇用の割合は、女性で約6割に対して男性は約2割と、女性の方が非正規雇用の割合が高くなっています。このように初めは男女とも正規雇用で働き始めても、結婚・出産等ライフイベントを重ねるごとに離職、あるいは非正規という働き方を選択する女性が増加していると考えられます。この傾向は10年前とあまり差は見られません。特に女性では、いわゆる「103万円の壁」で、配偶者の年収が103万円を超えると主な稼ぎ手の所得税負担が重くなるので収入を調整するというような人がいることも考えられ、女性の非正規雇用の低賃金につながっていると思われます。女性の30歳代の子育て世代では42.5%が年収103万円未満となっています。また非正規シングル女性においては、雇用継続の不安を抱えながら低賃金で働く実態が浮かび上がっています。

若い世代ほど、また女性より男性のほうが、昇進への意欲は高い傾向にあります。女性では40歳代以降、「仕事と家庭生活の両立が難しい」ことを理由に昇進を希望しない割合が増えていく傾向があります。非正規雇用が増加する中、「収入が少ない」という不安が男女ともに最も高くなっています。また「労働時間が長い」、「有給休暇がとりにくい」「人間関係」などの不安や悩みを抱えています。就労していない女性では「結婚・出産・子育て」を理由に離職した割合が一番高く、特に30歳代、40歳代の子育て世代ですぐにでも働きたいという意欲が高い人が多くなっています。

女性活躍推進法が施行され、長時間労働の是正など国においても働き方改革の議論が進んでいます。女性が柔軟な働き方を選ぶことができ、働く意欲のある人が再就職しやすくするために、仕事と家庭生活の両立の支援制度や、労働時間短縮やフレックスタイム制度・在宅勤務制度などの導入など職場環境の整備や、転職情報や職業紹介などの相談機関の充実などの就業機会の拡大を推進していく必要があります。

2 職場環境について

育児や介護などの休業制度は、男性より女性の方が多く取得しているのが実情です。男性が休業制度や休暇を取得しない方がいいと思う理由として、「男性より女性がとるべき」という意見が男性より女性のほうに高い割合で見られました。「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識が大きな要因になっていると考えられます。また、女性の低収入が影響していることも考えられます。育児休業、子の看護休暇では、男性が取ることにについて、女性より男性のほうが、「とった方がよい」とう割合が高い傾向となっています。特に男性の30歳代、40歳代の子育て世代では、子の看護休暇にその傾向が見られるように、家事・育児参加に積極的な男性も増加しています。少子高齢化が進み、働き手が減少していく中、男性も女性も子育てや介護をしながら柔軟で働き甲斐のある職場環境づくりが急務となってきます。子育てや介護と仕事の両立が図られ、男女が共に働きやすい環境にするためには、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」や「女性が働き続けられることへの家族の理解」など、男女がともに子育てや介護に関わりやすい社会の仕組み作りと、経営トップと男女それぞれの意識改革に取り組む必要があります。

～女性就業におけるM字カーブ～

女性の労働力率は、出産・育児期に一旦落ち込んだ後、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描くことが知られており、近年M字の底の部分が浅くなる傾向にあります。（図1、2参照）

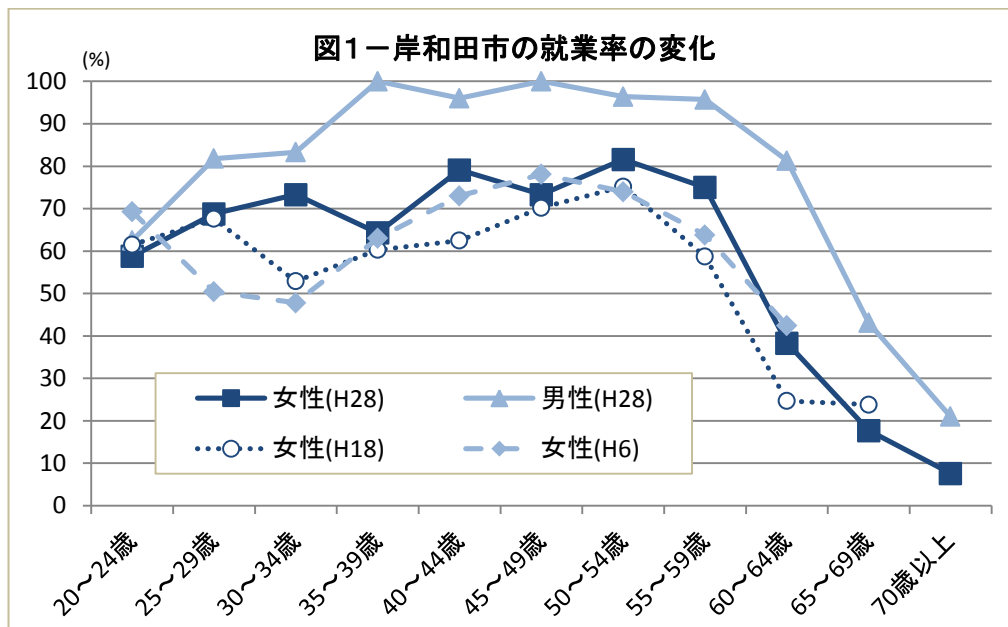


図1では、岸和田市の就業率の変化を表しています。M字カーブの底が平成18年には30～34歳(52.9%)でしたが、晩婚・晩産化による子育て年齢の上昇により、平成28年にはM字カーブの底が35～39歳にシフトし、64.3%まで上昇してきています。

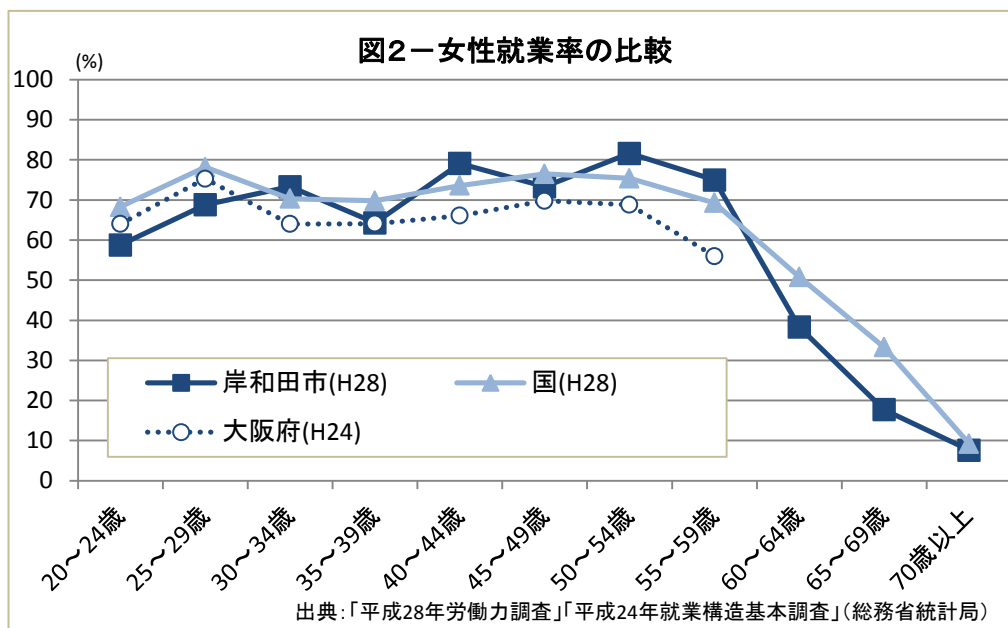


図2では、岸和田市のM字カーブの底が35～39歳(64.3%)で、国の35～39歳(69.8%)と比べると低く、大阪府の35～39歳(64.1%)と比べるとほぼ同じです。

3 仕事と家庭生活について

家事・育児・介護に費やす時間は、女性の方が多くなっています。また家事・育児・介護に負担を感じている女性は、配偶者や家族の理解と協力を求めている割合が男性より高くなっています。家族がともに協力しあい、コミュニケーションをとり支えあうことが大切ではないでしょうか。女性が活躍するためには、男性が家事・育児等に参加することが必要です。一方で家事・育児にかかわりたいと思う男性は、長時間労働等により参加したくてもできない現状があり、理想と現実のギャップが開いているといえます。男性が仕事と家庭生活を両立するためには、職場や男性を取り巻く人たちを含め、男性の働き方や意識の改革を進めることが必要です。

男性も女性も「仕事と家庭生活をともに優先」することを望んでいますが、現実には「仕事を優先」する割合が高くなっています。仕事と家庭生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を図るためには、「保育所・学童保育など子育て環境の充実」や「家族の理解と協力」、「仕事と家庭生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」を大切にする意識づくり、「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識をなくすことが求められており、社会全体で取り組む必要があります。また、家事や育児だけではなく、仕事以外の時間を自己啓発のために使うなど、それぞれの選択で自分らしい働き方と生き方を見つけることが大切ではないでしょうか。仕事と家庭生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実践することで、誰もがいきいきと活躍できる「男女共同参画社会」につなげていきましょう。

V 資料

～あなたのご意見をお聞かせください～



『仕事と家庭生活を考える調査』 ご協力をお願い

岸和田市では、男女が家庭、地域、職場など社会のあらゆる分野で、喜びも責任も分かち合う男女共同参画社会を築くため、平成23年度から平成32年度までの10年間の計画期間とした「岸和田市男女共同参画推進計画（第3期さしわだ女性プラン）」を策定し、施策を推進しています。

「仕事と家庭生活を考える調査」は、女性活躍推進法施行後の就労状況や職場環境、家庭生活などの実態を把握し、今後の計画推進の基礎資料とするために実施するものです。

調査は、無作為に抽出した岸和田市にお住まいの20歳以上の方々2,000人に無記名でのご回答をお願いしています。個人の秘密がもれたり、他の用途に使われたりするなどのご迷惑をおかけすることは一切ありません。

集計結果は、市のホームページなどを通じて公表する予定です。お手数をおかけしますが、ご協力くださいますようお願いいたします。



◆ ご記入にあたってのお願い ◆

- 1 お送りした宛名のご本人がお答えください。お名前の記入は不要です。
- 2 何らかの事情で宛名のご本人が記入できない場合には、ご本人の意思を反映してご家族の方などが記入してくださいと幸いです。
- 3 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、平成28年11月30日（水）までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。
- 4 記入に当たってご不明な点がございましたら、下記の担当までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

岸和田市 市民生活部 人権推進課 男女共同参画担当
〒596-8510 大阪府岸和田市岸城町7番1号
電話：072-423-9438 FAX：072-423-4644
E-mail：jinkens@city.kishiwada.osaka.jp

1 あなた自身のことについて

Q1：あなたの性別をご記入ください。
()

Q2：あなたの現在の年齢を教えてください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ①20～24 歳 | ②25～29 歳 | ③30～34 歳 | ④35～39 歳 |
| ⑤40～44 歳 | ⑥45～49 歳 | ⑦50～54 歳 | ⑧55～59 歳 |
| ⑨60～64 歳 | ⑩65～69 歳 | ⑪70 歳以上 | |

Q3：あなたは結婚していますか。（1つに○をつけてください）

- | | | |
|--------|-----------------|----------|
| ①未婚である | ②結婚（事実婚を含む）している | ③離別・死別した |
|--------|-----------------|----------|

Q4-1：あなたは、現在、就労（パート・アルバイトを含む。ただし、学生のパート・アルバイトはのぞく）していますか。（1つに○をつけてください）

- | | |
|--------------|-------------|
| ①している ⇒Q4-2へ | ②していない ⇒Q5へ |
|--------------|-------------|

Q4-2：Q4-1で①に○をつけた方におうかがいします

どのような雇用形態で働いていますか。（1つに○をつけてください）

- | | | |
|-------------------|-----------------|-------|
| ①正社員・正職員 | ②契約社員・嘱託職員 | ③派遣社員 |
| ④パート・アルバイト（フルタイム） | ⑤パート・アルバイト（短時間） | |
| ⑥自営業主・会社経営 | ⑦自営業の家族従事者 | |
| ⑧その他（) | | |

Q5：初めて就職された時の雇用形態（学生時代のアルバイト等のはのぞく）を教えてください。（1つに○をつけてください）

- | | | |
|-------------------|-----------------|-----------|
| ①正社員・正職員 | ②契約社員・嘱託職員 | ③派遣社員 |
| ④パート・アルバイト（フルタイム） | ⑤パート・アルバイト（短時間） | |
| ⑥自営業主・会社経営 | ⑦自営業の家族従事者 | ⑧働いたことはない |
| ⑨その他（) | | |

Q6：あなたは、転職したことがありますか。（1つに○をつけてください）

- | | | |
|-----|-----|-----------|
| ①ある | ②ない | ③働いたことはない |
|-----|-----|-----------|

Q7-1：現在、あなたと同居されている方はどなたですか。（当てはまるものすべてに○をつけてください）

- | | | |
|----------------|---------------|-------|
| ①配偶者（妻あるいは夫） | ②子ども | ③自分の親 |
| ④配偶者の親 | ⑤自分または配偶者の祖父母 | |
| ⑥自分または配偶者の兄弟姉妹 | ⑦孫・ひ孫 | |
| ⑧上記以外の家族・親族 | ⑨その他（) | |
| ⑩同居している人はいない | | |

Q7-2: Q7-1で①に○をつけた方におうかがいします

配偶者（妻あるいは夫）の就業状況を教えてください。（1つに○をつけてください）

- ①正社員・正職員 ②契約社員・嘱託職員 ③派遣社員
④パート・アルバイト（フルタイム） ⑤パート・アルバイト（短時間）
⑥自営業主・会社経営 ⑦自営業の家族従事者 ⑧無職
⑨その他（ ）

Q7-3: Q7-1で②に○をつけた方におうかがいします

最も年齢の低いお子さんの状況についてお答えください。

- ①3歳未満 ②3歳以上の未就学児 ③小学校低学年（1～3年生）
④小学校高学年（4～6年生） ⑤中学生 ⑥高校生以上の学生
⑦社会人 ⑧その他（ ）

2 就労状況について

～・・・～ 現在、就労している方におうかがいします【Q8～Q12】 ～・・・～

⇒ ⇒ 現在、就労していない方は、Q13へお進みください

Q8: あなたは1週間で、およそ何時間（残業時間も含みます）くらい働いていますか。
（1つに○をつけてください）

- ①10時間前後 ②20時間前後 ③30時間前後 ④40時間前後
⑤50時間前後 ⑥60時間以上 ⑦決まっていない

Q9: 現在の職場での勤続年数はどれくらいですか。（1つに○をつけてください）

- ①1年未満 ②1～5年未満 ③5～10年未満 ④10～20年未満
⑤20年以上

Q10: 昨年のあなたの年収（総支給額）は、どのくらいでしたか。（1つに○をつけてください）

- ①103万円未満 ②103万円～130万円未満 ③130万円～200万円未満
④200万円～300万円未満 ⑤300万円～500万円未満 ⑥500万円以上
⑦昨年は働いていなかったためで収入はない ⑧その他（ ）

Q11-1: あなたは、昇進を希望しますか。（1つに○をつけてください）

- ①ぜひ昇進したい ⇒Q11-2へ ②どちらかといえば昇進したい ⇒Q11-2へ
③自営業などで昇進は関係ない ⇒Q12へ
④どちらかといえば昇進したくない ⇒Q11-3へ
⑤昇進したくない ⇒Q11-3へ ⑥その他（ ）

Q11-2: Q11-1で①または②に○をつけた方におうかがいします

それはなぜですか。（1つに○をつけてください）

- ①自分の力を試したい ②向いていると思う
③職場改善のために何かしたい ④収入が増加する
⑤積極的になりたいとは思えないが、自分だけ取り残されたくない
⑥周囲から評価される ⑦その他（ ）

Q11-3: Q11-1で④または⑤に○をつけた方におうかがいします

それはなぜですか。（1つに○をつけてください）

- ①責任が重くなる ②能力に不安がある ③優秀な人がなればよい
④現場の仕事がしたい ⑤男性（女性）がなればよい
⑥仕事と家庭の両立が困難になる ⑦自分の時間を持ちたい
⑧その他（ ）

Q12: 仕事に関する悩みや不安はありますか。（当てはまるものすべてに○をつけてください）

- ①収入が少ない ②やりがいがない ③雇用継続（倒産・解雇・雇止め）の不安 ④教育・研修制度がない
⑤労働時間が長い ⑥労働時間が短い ⑦サービス残業がある
⑧有給休暇が取りにくい ⑨育児休業・介護休業など長期の休みがとりにくい
⑩育児や介護があるので十分に働けない ⑪自身の健康上の不安
⑫人間関係 ⑬パワー・ハラスメント ⑭セクシュアル・ハラスメント
⑮マタニティ・ハラスメント ⑯特になし
⑰その他（ ）

～・・・～ 現在、就労していない方におうかがいします【Q13～Q16】 ～・・・～

⇒ ⇒ 現在、就労している方は、Q17-1へお進みください

Q13: 仕事を辞めた理由は何ですか。（当てはまるもの3つまで○をつけてください）

- ①やりたい仕事ではない ②希望する待遇ではない
③希望する時間帯で働けない ④結婚 ⑤出産 ⑥育児/子育て
⑦介護/看護 ⑧家庭生活との両立が難しい
⑨家族の協力や理解が得られない ⑩自身の健康上の理由
⑪経済的に困っていない ⑫起業するため
⑬自由な時間を持ちたい ⑭働いたことはない
⑮その他（ ）

Q14: 今、就労していない理由は何ですか。（当てはまるもの3つまで○をつけてください）

- ①希望の職種で見つからない ②希望の待遇で見つからない
③希望の時間帯で見つからない ④出産/育児/子育て ⑤介護/看護
⑥家庭生活との両立が難しい ⑦家族の協力や理解が得られない
⑧自身の健康上の理由 ⑨経済的に困っていない ⑩自由な時間を持ちたい
⑪就労の意思はない ⑫その他（ ）

Q15-1：今後、働きたいと思いますか。(1つに○をつけてください)

- ①すぐにでも働きたい ⇒Q16へ ②将来働きたい ⇒Q15-2へ
③働く意思があるが働けない ⇒Q16へ ④就労の意思はない ⇒Q16へ
⑤わからない ⇒Q16へ

Q15-2：Q15-1で②に○をつけた方におうかがいします

いつ頃までに働きたいと思いますか。(1つに○をつけてください)

- ①6ヵ月以内 ②1年以内 ③1～3年以内 ④時期は決めていない
⑤その他 ()

Q16：再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(当てはまるものをすべてに○をつけてください)

- ①就職情報や職業紹介などの相談機会の充実
②技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
③労働時間短縮やフレックスタイム制度・在宅勤務制度などの導入
④育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
⑤育児や介護のための施設やサービスの充実
⑥企業経営者や職場の理解 ⑦パートナーなど家族の協力や理解
⑧自身の意識改革 ⑨その他 ()

3 職場環境について

～～～ すべての方がお答えください ～～～

Q17-1：男性が次の休業制度や休暇を取得することについてどう思いますか。(①から④のそれぞれについて、1～5から1つずつ選んで○をつけてください)

	とった方がよい	とった方がよい	どちらかと言えば	どちらかと言えば	どちらかと言えば	わからない
①育児休業(育児のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4	5	
②子の看護休暇(病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)	1	2	3	4	5	
③介護休業(介護のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4	5	
④介護休暇(短期の介護のための年5日程度の休暇)	1	2	3	4	5	

Q17-2：Q17-1でひとつでも「3：どちらかと言えばとらない方がよい」「4：とらない方がよい」に○をつけた方におうかがいします。

それはなぜですか。(当てはまるものをすべてに○をつけてください)

- ①家族が反対する ②職場の理解が得られない
③仕事の評価や配属に影響する ④前例がない ⑤経済的に苦しくなる
⑥男性より女性がとるべき ⑦男性は育児・介護に慣れていない
⑧必要性を感じない ⑨その他 ()

Q18：女性が働きやすい環境にするためには、特にどんなことが必要だと思いますか。(当てはまるものを3つまで○をつけてください)

- ①女性が働き続けることへの家族の理解
②女性が育児休業を取得することへの理解
③男性が家事や育児参加することへの理解
④男性が育児休業を取得することへの理解 ⑤女性自身の意識改革
⑥女性が働き続けることへの男性の意識改革 ⑦上司や同僚の意識改革
⑧職場における育児・介護との両立支援制度の充実
⑨保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備
⑩残業や休日出勤をなくす ⑪短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
⑫介護支援サービスの充実 ⑬その他 ()

4 仕事と家庭生活について

Q19：家庭において、あなたが家事・育児(孫の育児も含む)・介護に費やす時間は1日につきどのくらいですか。(①から⑥のそれぞれについて、1～6から1つずつ選んで○をつけてください)

※育児や介護は、対象者との同居・別居を問いません

	1日【平日】	1	2	3	4	5	6
家事		1	2	3	4	5	6
育児		1	2	3	4	5	6
介護		1	2	3	4	5	6

仕事と家庭生活を考える調査 報告書

平成 29 年3月 発行

岸和田市 市民生活部 人権推進課

〒596-8510

大阪府岸和田市岸城町 7 番 1 号

TEL 072-423-9438

FAX 072-423-0108